

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	2	選択
担当教員			
豊島 泰子、中村 晶子、巽 夕起、中島 千英子			
開講曜限	授業形態		
水1、2、3、4	講義		
添付ファイル			

科目の概要・目的	・公衆衛生看護学実習Ⅱ（保健所・市町保健センター）で実習する地域の状況を把握、分析し、顕在的・潜在的健康課題を抽出し、保健活動計画を立案するために演習を行う。また、実習地域の保健所および市町保健センターで実施される保健事業を理解し、行政機関で就業する保健師の役割について考えることができるよう演習する。
学習到達目標	①臨地実習Ⅱで実習する地域の地域診断が実施できる。 ②実習地域の顕在的・潜在的課題を抽出し、実習地域の特性について説明できる。 ③実習地域の保健活動計画を策定できる。 ④保健師の行う公衆衛生看護活動の知識・技術について理解できる。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特記事項なし 【ICTを利用した双方向授業】 特になし 【その他特記事項】 なし
成績評価の方法	【評価項目】 ・成果物、参加度、レポート 【割合】 ・成果物70%、参加度10% レポート 20%
教科書・テキスト	・保健師課程で使用した教科書
参考書	・書豊島泰子編集（2022）：改訂新版「看護師のための地域看護学 - 地域理解を深めるための技術と展開方法」 PILAR PRESS ・上野昌江、和泉京子編集（2016） 公衆衛生看護学第2版 中央法規出版 ・標美奈子著（2020） 標準保健師講座・1 公衆衛生看護学概論 ・荒賀直子、後閑容子著（2016） 公衆衛生看護学 j p 第5版 インターメディカル
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	・演習時に提示する。
履修上の留意事項	・臨地実習の準備です。グループで計画的に進める。
オフィスアワー	・豊島：月曜日12：15～13：00
課題に対するフィードバックの方法	・演習時にその都度返却する。
実務経験	・いずれも保健師
その他	特になし
授業の内容	第1回 地域診断と地域保健計画づくり ・オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等） ・地域診断とは、地域保健計画づくり 【事前学習】 2年次・3年次で学習した内容について復習のこと 【事後学習】 講義終了時に提示 第2～第8回 地域診断 ・実習地域の地域診断（既存のデータからの情報収集） ・実習地域の地域診断（分析） 【事前学習】 講義時に提示 【事後学習】 講義終了時に提示 第9回～第12回 地区視診 ・実習地域の地区視診、まとめ 【事前学習】 講義時に提示

	<p>第13～第16回</p> <p>【事後学習】 講義終了時に提示 地域診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習地域の地域診断（健康課題の抽出） <p>【事前学習】 講義時に提示</p> <p>第17回～第18回</p> <p>【事後学習】 講義終了時に提示 公衆衛生看護活動①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子保健活動 <p>【事前学習】 講義時に提示</p> <p>第19回～第20回</p> <p>【事後学習】 講義終了時に提示 公衆衛生看護活動②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人保健活動 <p>【事前学習】 講義時に提示</p> <p>第21回～第22回</p> <p>【事後学習】 講義終了時に提示 公衆衛生看護活動③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者保健 <p>【事前学習】 講義時に提示</p> <p>第23～第24回</p> <p>【事後学習】 講義終了時に提示 公衆衛生看護活動④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症、HIV <p>【事前学習】 講義時に提示</p> <p>第25回～第26回</p> <p>【事後学習】 講義終了時に提示 公衆衛生看護活動⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者（児） <p>【事前学習】 講義時に提示</p> <p>第27回～第28回</p> <p>【事後学習】 講義終了時に提示 計画づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健計画の策定 <p>【事前学習】 講義時に提示</p> <p>第29回～第30回</p> <p>【事後学習】 講義終了時に提示 地域診断の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習地域の健康問題と保健計画の発表
--	---

講義科目名称： 英語 I （再履修）

授業コード： 51105380

英文科目名称： English I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	1	必修
担当教員			
中村 隆之			
開講曜限	授業形態		
火5	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■6-2 知識を入手する技術を持つことができる</p>
---------	--

科目の概要・目的	英語を学び直すための授業として位置づけ、4技能のうちリーディング・リスニングに特に重点を置き、基礎的な英語力の向上を目指す。長文読解やリスニング問題を交えながら、英文法を中心に英語の基礎・基本を理解し、習得する。
学習到達目標	簡単な英語の文章や会話であれば、聞いたり読んだりして理解できる。英文法の基礎的な表現を理解し活用できる。内容理解の際に、基礎的なリーディングストラテジー・リスニングストラテジーを活用できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>授業中は、ペアワーク・グループワークにおける受講生同士の積極的な交流を通じて、本文内容理解を深めます。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>単元によっては、Microsoft Formsを利用したオンライン課題が課されることがあります。</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>対面授業が困難な状況の場合など、必要に応じてオンライン授業に切り替わることがあります。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>定期試験（授業内筆記試験）、平常点（小課題（小テストなど）、提出物、授業態度（参加度））</p> <p>【割合】</p> <p>定期試験 60%+平常点（小課題（小テストなど）、提出物、授業態度（参加度）など）40%</p>
教科書・テキスト	Reading Link（金星堂）
参考書	必要に応じて授業中に紹介します。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	毎時間かならずリスニング・リーディングの復習を欠かさずに行うこと。英語学習において復習は特に重要です。詳細は第一回授業で説明します。
履修上の留意事項	特にありません。
オフィスアワー	中村：火、水曜日12:10～13:00 ※上記以外の時間帯でも、事前連絡があれば対応可 ※ 詳細は第一回授業で説明します。
課題に対するフィードバックの方法	小テストや中間試験後は共通課題をその後の授業で全体共有します。またオンライン課題ではオンライン上で個別にフィードバックを行います。
実務経験	特にありません。
その他	特にありません。
授業の内容	<p>1 Guidance / Unit 1: Who is Pepper? vocabulary/grammar check/reading passage 【事前学修】 英語学習についての苦手意識を自己分析しておくこと 【事後学修】 教科書付録音声データの確認、本時の学習内容の復習（次回小テスト）</p> <p>2 Unit 1: Who is Pepper? reading comprehension 【事前学修】 前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習 【事後学修】 本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p> <p>3 Unit 2: What's It Like to Be a Self-Sufficient Family? vocabulary/grammar check/reading passage 【事前学修】 単元の重要語句・表現の予習 【事後学修】 教科書付録音声データの確認、本時の学習内容の復習（次回小テスト）</p> <p>4 Unit 2: What's It Like to Be a Self-Sufficient Family? reading comprehension 【事前学修】 前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習 【事後学修】 本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p> <p>5 Unit 3: Why Did Starbucks Become a Hit in Japan? vocabulary/grammar check/reading passage 【事前学修】 単元の重要語句・表現の予習</p>

6	<p>【事後学修】教科書付録音声データの確認、本時の学習内容の復習（次回小テスト）</p> <p>Unit 3: Why Did Starbucks Become a Hit in Japan?</p> <p>reading comprehension</p> <p>【事前学修】前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習</p> <p>【事後学修】本時までの学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p>
7	<p>Review: Unit1-3 Mid-Semester Exam</p> <p>中間試験</p> <p>【事前学修】前時までの学習内容の復習</p> <p>【事後学修】中間試験の解きなおし</p>
8	<p>Unit 4: How Do Americans Celebrate Halloween?</p> <p>vocabulary/grammar check/reading passage</p> <p>【事前学修】単元の重要語句・表現の予習</p> <p>【事後学修】教科書付録音声データの確認、本時の学習内容の復習（次回小テスト）</p>
9	<p>Unit 4: How Do Americans Celebrate Halloween?</p> <p>reading comprehension</p> <p>【事前学修】前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習</p> <p>【事後学修】本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p>
1 0	<p>Unit 5: Do You Want to Travel Back in Time to a Roman Thermae?</p> <p>vocabulary/grammar check/reading passage</p> <p>【事前学修】単元の重要語句・表現の予習</p> <p>【事後学修】教科書付録音声データの確認、本時の学習内容の復習（次回小テスト）</p>
1 1	<p>Unit 5: Do You Want to Travel Back in Time to a Roman Thermae?</p> <p>reading comprehension</p> <p>【事前学修】前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習</p> <p>【事後学修】本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p>
1 2	<p>Unit 7: Why Are Marathons 42.195 Kilometers Long?</p> <p>vocabulary/grammar check/reading passage</p> <p>【事前学修】単元の重要語句・表現の予習</p> <p>【事後学修】教科書付録音声データの確認、本時の学習内容の復習（次回小テスト）</p>
1 3	<p>Unit 7: Why Are Marathons 42.195 Kilometers Long?</p> <p>reading comprehension</p> <p>【事前学修】前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習</p> <p>【事後学修】本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p>
1 4	<p>Review Unit 4, 5, 7</p> <p>Reading Comprehension Check</p> <p>【事前学修】前時までの学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p> <p>【事後学修】本時までの学習内容の復習</p>
1 5	<p>Semester Final Exam</p> <p>まとめ、定期試験 Unit 4, 5, 7（授業内）</p> <p>【事前学修】前時までの学習内容の復習</p> <p>【事後学修】期末試験の解きなおし</p>

講義科目名称： 英語Ⅲ

授業コード： 51105500

英文科目名称： English III

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	1	選択
担当教員			
中村 隆之			
開講曜限	授業形態		
火4	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	■看護学科■ ■6-2 知識を入手する技術を持つことができる
---------	---

科目の概要・目的	近年、外国人観光客や在留外国人の人口の増加に伴い、看護・医療現場での英語コミュニケーション能力の必要性が高まっています。この授業では、医療専門用語の学習や対話練習を通じて、現場で役立つ基本的かつ実践的な英語表現とコミュニケーションスキルの習得を目指します。また授業を通して、世界における看護・医療の現状や文化の違いについても学びます。英語はコミュニケーションツールです。積極的に授業に参加し、コミュニケーションを楽しみたい学生を歓迎します。
学習到達目標	看護・医療現場で求められる基礎的な医療専門用語や会話表現を理解できる。また基礎的なコミュニケーションスキルを習得し、それを用いて簡単な英会話をすることができる。
授業の方法	【授業形態】 演習 【アクティブラーニングの取り入れ状況】 授業中は、ペアワーク・グループワークにおける受講生同士の積極的な交流を通じて、教科書内容理解を深め、表現活動を行います。 【ICTを利用した双方向授業】 単元によっては、Microsoft Formsを利用したオンライン課題が課されることがあります。 【その他特記事項】 対面授業が困難な状況の場合など、必要に応じてオンライン授業に切り替わることがあります。
成績評価の方法	【評価項目】 最終課題（発表）・中間発表、平常点（小課題（小テストなど）、授業態度（参加度）） 【割合】 最終課題（発表）・中間発表50%＋平常点50%（小課題（小テストなど）、授業態度（参加度））
教科書・テキスト	First Aid!: English for Nursing Akihiko Higuchi他著（金星堂）
参考書	看護・医療スタッフの英語―現場ですぐに役立つ！ 山中 マーガレット 著（朝日出版） ※その他必要に応じて授業中に紹介します。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	英語は反復練習をしなければ身につけません。予習も大切ですが、復習をそれ以上に重点を置いて取り組んでください。またpresentation①②などの課題発表準備は計画的に行うこと。早めに発表内容を決め、担当教員と相談するように。
履修上の留意事項	「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」の単位を取得済みであること。
オフィスアワー	中村：火、水曜日12:10～13:00 ※上記以外の時間帯でも、事前連絡があれば対応可 ※ 詳細は第一回授業で説明します。
課題に対するフィードバックの方法	課題後にフィードバックを行い、評価や問題によっては授業で全体共有します。課題の内容によってはピア・レビュー（学生同士の相互評価）もあります。またオンライン課題ではオンライン上で個別にフィードバックを与えることもあります。
実務経験	特にありません。
その他	受講生数によって課題内容やシラバスを変更することがあります。
授業の内容	1. Guidance：授業の進め方、成績評価の説明等 【事前学修】 この授業で自身が身につけたいこと、英語学習についての期待や不安について考えておくこと 【事後学修】 教科書付録音声データ確認 2. Unit 1 First Visit to a Hospital：受付対応と院内案内 Listening Comprehension & Speaking Practice & Useful Expressions/Medical Terminology 【事前学修】 単元の重要語句・表現の予習 【事後学修】 本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング 3. Unit 1 First Visit to a Hospital：受付対応と院内案内 Review & Speaking Practice & Useful Expressions/Medical Terminology 【事前学修】 前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング

4.	<p>【事後学修】 本時の学習内容の復習（次回小テスト）</p> <p>Unit 2 How to Fill in a Registration Form：初診受付</p> <p>Listening Comprehension & Speaking Practice & Useful Expressions/Medical Terminology</p> <p>【事前学修】 単元の重要語句・表現の予習</p> <p>【事後学修】 本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p>
5.	<p>Unit 2 How to Fill in a Registration Form：初診受付</p> <p>Review & Speaking Practice & Useful Expressions/Medical Terminology</p> <p>【事前学修】 前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p> <p>【事後学修】 本時の学習内容の復習（次回小テスト）</p>
6.	<p>Unit 3 Let's Ask Daily Activities：生活習慣を聞く</p> <p>Listening Comprehension & Speaking Practice & Useful Expressions/Medical Terminology</p> <p>【事前学修】 単元の重要語句・表現の予習</p> <p>【事後学修】 本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p>
7.	<p>Unit 3 Let's Ask Daily Activities：生活習慣を聞く</p> <p>Review & Speaking Practice & Useful Expressions/Medical Terminology</p> <p>【事前学修】 前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p> <p>【事後学修】 本時の学習内容の復習（次回小テスト）、プレゼンテーション準備</p>
8.	<p>Presentation①</p> <p>Unit 1-3 で学んだ表現を使ったSkit(Role Playing)の発表</p> <p>【事前学修】 プレゼンテーション準備</p> <p>【事後学修】 本時の発表の振り返り</p>
9.	<p>Unit 4 Symptoms：問診する</p> <p>Listening Comprehension & Speaking Practice & Useful Expressions/Medical Terminology</p> <p>【事前学修】 単元の重要語句・表現の予習</p> <p>【事後学修】 本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p>
10.	<p>Unit 4 Symptoms：問診する</p> <p>Review & Speaking Practice & Useful Expressions/Medical Terminology</p> <p>【事前学修】 前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p> <p>【事後学修】 本時の学習内容の復習（次回小テスト）</p>
11.	<p>Unit 5 Medical Check up 1：脈拍、血圧、体重の測定</p> <p>Listening Comprehension & Speaking Practice & Useful Expressions/Medical Terminology</p> <p>【事前学修】 単元の重要語句・表現の予習</p> <p>【事後学修】 本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p>
12.	<p>Unit 5 Medical Check up 1：脈拍、血圧、体重の測定</p> <p>Review & Speaking Practice & Useful Expressions/Medical Terminology</p> <p>【事前学修】 前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p> <p>【事後学修】 本時の学習内容の復習（次回小テスト）</p>
13.	<p>Unit 6 Medical Check up 2：採血、採尿</p> <p>Listening Comprehension & Speaking Practice & Useful Expressions/Medical Terminology</p> <p>【事前学修】 単元の重要語句・表現の予習</p> <p>【事後学修】 本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p>
14.	<p>Unit 6 Medical Check up 2：採血、採尿</p> <p>Review & Speaking Practice & Useful Expressions/Medical Terminology</p> <p>【事前学修】 前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p> <p>【事後学修】 本時の学習内容の復習（次回小テスト）、プレゼンテーション準備</p>
15.	<p>Presentation②</p> <p>Unit 4-6 で学んだ表現を使ったSkit(Role Playing)の発表</p> <p>【事前学修】 プレゼンテーション準備</p> <p>【事後学修】 本時の発表の振り返り</p>

講義科目名称： 病理病態学

授業コード： 53200200

英文科目名称： Study of Pathophysiology & Phenomena

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	必修
担当教員			
泉谷 泰行			
開講曜限	授業形態		
金3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■1-2 人間を身体的・精神的・社会的に統合した存在であると理解できる</p> <p>■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>昨今、医学の進歩により医療現場は高度化し、また高齢社会など社会環境の変化に伴い患者の病態は複雑化している。このような状況の中で看護師は、チーム医療の主力として患者に対して常に直接接し、医師と共に医療現場の両輪となって診断および治療(cure)やcareを行わなければならない。患者に対して質の高い医療を提供するためには、疾患に関する正確な知識を基盤に持ち、目の前の患者の病態を正しく理解することが必要不可欠である。つまり、どのような原因で正常な細胞・組織・臓器の形態や機能に異常が生じているか、またどのような機序(メカニズム)で現在の症状が生じているのか、さらに今後病状が進行することによりどのような症状が生じる可能性があるのかなど、患者の病態を十分に把握することが、適切な看護を行うための第一歩である。病理病態学ではまず、解剖生理学で学んだ主要な器官系を復習し理解度を確認する。さらに各器官系に関する病態および専門用語について講義する。</p>
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・内科学で学ぶ疾患の病態について理解することができる。 ・症状の基本的な機序を理解することができる。 ・理解することにより第三者に対して説明できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特になし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 講義形式(講義資料を配布する。) 講義の復習として動画を配信する。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】小テスト、定期試験(筆記)</p> <p>【割合】小テスト(30%)、定期試験(筆記)(70%)</p>
教科書・テキスト	<p>系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進【1】病理学(第6版)、大橋健一・谷澤徹ほか、医学書院</p>
参考書	<p>看護のための臨床病態学(改定第3版)、浅野嘉延・吉山直樹著、南山堂</p>
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	<p>①解剖生理学の復習は必ず続けること。 ②定期的に小テストを行うので、講義資料を用いて復習すること。</p>
履修上の留意事項	<p>①勉強にいそむ学生の邪魔をする行為(過度な私語など)は禁止する。 ②講義中の携帯電話・スマートフォンの使用は禁止する。 上記①②の項目は必ず守って下さい。</p>
オフィスアワー	<p>非常勤講師室にて授業終了後に対応します。</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>定期的に行う小テストに関しては、次回の講義にて返却する。</p>
実務経験	<p>鍼灸師</p>
その他	<p>特になし</p>
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション(授業の進め方、成績評価の説明等)、病因について解説する。 シラバスを事前に読んでおくこと。 【事前学修】シラバスを事前に読んでおくこと。 【事後学修】講義した範囲の資料を熟読・理解し、第三者に説明できるように繰り返し練習すること。</p> <p>第2回 退行性病変①;変性、萎縮について解説する。 講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。 【事前学修】前回までの講義資料内容を熟読しておくこと。 【事後学修】講義した範囲の資料を熟読・理解し、第三者に説明できるように繰り返し練習すること。</p> <p>第3回 退行性病変②;代謝障害、細胞の死について解説する。 講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。 【事前学修】前回までの講義資料内容を熟読しておくこと。</p>

第4回	<p>【事後学修】講義した範囲の資料を熟読・理解し、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p> <p>進行性病変①；肥大、増殖、再生、化生について解説する。</p> <p>講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>【事前学修】前回までの講義資料内容を熟読しておくこと。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の資料を熟読・理解し、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第5回	<p>進行性病変②；移植、脳死、大脳死、死の三徴候について解説する。</p> <p>講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>【事前学修】前回までの講義資料内容を熟読しておくこと。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の資料を熟読・理解し、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第6回	<p>先天異常と遺伝子異常①；奇形、染色体異常について解説する。</p> <p>第1回～第5回の講義内容について小テストを行う。</p> <p>講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>【事前学修】前回までの講義資料内容を熟読しておくこと。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の資料を熟読・理解し、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第7回	<p>先天異常と遺伝子異常②；遺伝性疾患について解説する。</p> <p>講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>【事前学修】前回までの講義資料内容を熟読しておくこと。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の資料を熟読・理解し、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第8回	<p>循環障害①；充血、うっ血について解説する。</p> <p>講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>【事前学修】前回までの講義資料内容を熟読しておくこと。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の資料を熟読・理解し、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第9回	<p>循環障害②；虚血、貧血、出血について解説する。</p> <p>講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>【事前学修】前回までの講義資料内容を熟読しておくこと。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の資料を熟読・理解し、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第10回	<p>循環障害③；ショック、梗塞（血栓、塞栓）、浮腫について解説する。</p> <p>講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>【事前学修】前回までの講義資料内容を熟読しておくこと。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の資料を熟読・理解し、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第11回	<p>免疫異常①；免疫、アレルギーについて解説する。</p> <p>第6回～第10回の講義内容について小テストを行う。</p> <p>講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>【事前学修】前回までの講義資料内容を熟読しておくこと。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の資料を熟読・理解し、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第12回	<p>免疫異常②；免疫不全症候群について解説する。</p> <p>講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>【事前学修】前回までの講義資料内容を熟読しておくこと。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の資料を熟読・理解し、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第13回	<p>免疫異常③；炎症について解説する。</p> <p>講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>【事前学修】前回までの講義資料内容を熟読しておくこと。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の資料を熟読・理解し、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第14回	<p>腫瘍①；腫瘍の概要について解説する。</p> <p>講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>【事前学修】前回までの講義資料内容を熟読しておくこと。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の資料を熟読・理解し、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第15回	<p>腫瘍②；腫瘍の分類、発生要因、腫瘍マーカーについて解説する。</p> <p>第11回～第14回の講義内容について小テストを行う。</p> <p>講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>【事前学修】前回までの講義資料内容を熟読しておくこと。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の資料を熟読・理解し、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p> <p>定期試験（第1回～第15回までの内容）</p>

講義科目名称： 治療食概論

授業コード： 53200300

英文科目名称： Outline of Therapeutic Dietetics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	1	必修
担当教員			
戸田 洋子			
開講曜限	授業形態		
水3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	■看護学科■ ■1-2 人間を身体的・精神的・社会的に統合した存在であると理解できる ■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる
---------	--

科目の概要・目的	疾病治療において、栄養食事は欠かすことのできない重要なものである。 種々の疾患に適した食事療法（治療食）について、具体例をあげながら説明する。
学習到達目標	疾患別の食事について学ぶことで、必要な食事の種類について説明できるようになる。 各疾患を持つ患者において、提供された食事が適不適であるか判断できるようになる。 チーム医療において、患者に必要な食糧についての討議に参加できるようになる。
授業の方法	【授業形態】 テキストと資料を用いた講義 【アクティブラーニングの取り入れ状況】 小グループで意見を出しあうグループ討議を行う。 【ICTを利用した双方向授業】 可能な範囲でICTを利用した授業にする。 【その他特記事項】 食事への関心を深める問いかけをする。
成績評価の方法	評価項目】 平常点、レポート、定期試験（筆記）（授業内） 【割合】 授業参加態度（10%）、レポート（30%）、定期試験（60%）
教科書・テキスト	「四訂 臨床栄養管理」 渡邊早苗 他、 / 建帛社
参考書	臨床栄養（医歯薬出版）
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	日常的に健康、疾病に対する食事療法の情報に注目しておく。
履修上の留意事項	解剖生理学・病態生理学・生化学を理解し、「食」に興味を持ち、自分の健康に常に関心を持って履修するとよい。
オフィスアワー	授業前後に積極的に質問するとよい。
課題に対するフィードバックの方法	レポートについては、コメントを記入して、次回の授業で説明する。
実務経験	管理栄養士
その他	健康に留意するような食生活を常に心がける。
授業の内容	第1回 一般食、介護食 内容：一般食、介護食について解説する 【事前学修】 誤嚥しやすい人の特徴を調べておく 【事後学修】 栄養素、彩りを取り入れた献立を考え、次回授業で提出すること 第2回 糖尿病の治療食 内容：糖尿病の治療食について解説する 【事前学修】 糖尿病の病態を調べて理解しておく 【事後学修】 糖尿病食の献立を考え、次回授業で提出する 第3回 腎臓病（慢性腎臓病・透析）の治療食 内容：腎臓病（慢性腎臓病・透析）の治療食について解説する 【事前学修】 腎臓の働きを調べて理解しておく 【事後学修】 慢性腎臓病食の献立と工夫を考え、次回授業で提出すること 第4回 脂質異常症、肥満、痛風の治療食 内容：脂質異常症、肥満、痛風の治療食について解説する 【事前学修】 脂質異常症、肥満、痛風の病態を調べておく 【事後学修】 高LDLコレステロール血症の献立と工夫を考え、次回授業で提出すること 第5回 高血圧、心疾患、脳卒中、COPDの治療食 内容：高血圧、心疾患、脳卒中、COPDの治療食について解説する

第6回	<p>【事前学修】 高血圧、心疾患、脳卒中、COPDの病態を調べておく 【事後学修】 高血圧治療のための献立を考え、次回授業で提出すること</p> <p>肝炎（肝硬変、脂肪肝）、膵炎、胆石症の治療食 内容：肝炎（肝硬変、脂肪肝）、膵炎、胆石症の治療食について解説する</p> <p>【事前学修】 肝炎（肝硬変、脂肪肝）、膵炎、胆石症の病態を調べておく 【事後学修】 慢性肝炎の献立を考え、次回授業で提出すること</p>
第7回	<p>貧血、骨粗鬆症、がん、褥瘡、食物アレルギーの治療食 内容：貧血、骨粗鬆症、がん、褥瘡、食物アレルギーの治療食について解説する</p> <p>【事前学修】 貧血、骨粗鬆症、がん、褥瘡、食物アレルギーの病態の病態を調べておく 【事後学修】 各疾患において、栄養不足にならないような食事工夫について理解しまとめておく</p>
第8回	<p>まとめ、授業内定期試験 内容：治療食全体をまとめて解説し、その後、筆記試験を実施する</p> <p>【事前学修】 授業内容を復習しておく 【事後学修】 知識を確認しておく</p>

講義科目名称： 疾病治療論 I（内科）

授業コード： 53200400

英文科目名称： Principles & Theory of Treatment I (Internal Medicine)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	必修
担当教員			
福田 能啓、野々木 宏			
開講曜限	授業形態		
月2、木4	講義		
添付ファイル			

DPとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■1-2 人間を身体的・精神的・社会的に統合した存在であると理解できる</p> <p>■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる</p>
--------	---

科目の概要・目的	<p>専門基礎科目として内科的疾患（循環器領域 野々木担当）について系統別に概説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次で習得した解剖生理学により人体の構造と正常臓器の生理的な機能を理解した。 ・この知識を復習しながら、疾病が生じたときにどのような臓器変化が生じて、疾病が発生するかを理解する。 ・患者を看護・ケアする場合に、十分な疾病の理解のもとに、エビデンスに基づいた意思決定支援が可能となる。 ・疑問点を自ら明らかにして、第三者に説明ができるような深い理解をする。 ・それには講義内容・レジメ・小テスト・テキストなどを予習復習に使用し、理解度を確認する必要がある。 <p>(担当 福田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科的疾患の病態を理解する。 ・生体のホメオスターシスから疾患を縦断的かつ横断的に学習する。 ・血液・免疫アレルギー、呼吸器、内分泌・代謝、消化器疾患を包括的に講義する。
----------	---

学習到達目標	<p>それぞれの疾患の概要を第三者に説明できるように理解度を深める。</p> <p>具体的には、毎回のレジメ内容を理解し、説明できるように繰り返し学習する。</p> <p>各疾患の病態・症状、治療、看護上の注意点を述べることができる。</p> <p>内科的疾患の概要と特徴を述べることができ、看護師としてのチーム医療への参加ができる。</p> <p>生体のホメオスターシスを知り、疾患の病態を学び、治療法と看護法を理解できるようになる。</p>
--------	--

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 提起された問題に対するディスカッション</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 (担当 野々木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習：授業中に使用するスライドのカラー版レジメ（2コマ、4コマ用）、小テストをAポータルで事前配布し予習に使用 ・授業：テキストに準じてパワーポイント使用、キーワードを穴埋めする形式でレジメ配布、キーポイントを習得する ・復習：小テスト実施し、毎回授業時に解説配布（復習に使用、欠席するときには注意） <p>(担当 福田・各務)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを使用
-------	--

成績評価の方法	<p>【成績評価】 【割合】 定期試験(筆記)100%（・オムニバス形式で総計100点・授業中のアクティビティを考慮する。）</p>
---------	--

教科書・テキスト	<p>教科書：系統看護学講座 成人看護学 第16版 (担当 野々木) 2循環器、7脳・神経、8腎・泌尿器 医学書院</p> <p>それぞれの疾病の章を使用。このテキストは国家試験対策に使用されるので必須。解剖生理から病態生理、看護まで詳述されている。必要に応じて、参考資料を配布する。</p>
----------	--

参考書	<p>参考書：系統看護学講座 解剖生理学（1年次で使用した教科書） 正常の臓器の構造と機能に疑問が生じたときの参考に使用できる。</p>
-----	--

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>事前配布資料は、Aポータルで配信する。一定期間で消去されるのでダウンロードすることを勧める。復習や国家試験対策に使用できる。</p> <p>前期試験は、小テスト問題から提出する。小テストと解説を大切に保管すること。（担当 野々木）</p> <p>教科書の関係部分を事前に読んでおく。授業の後の再読。 講義資料と合わせて、復習すること。（担当 福田）</p>
---------------------------	---

履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを重視し、レジメを事前配布することで該当の頁を予習をし、また毎回実施する小テストにより復習を行う。 ・小テストの解説を利用して事後の復習を行う。この知識がその後の看護実践につながるため、おろそかにしないこと。 ・疑問があれば、積極的な質問は歓迎する。テキストを忘れず持参すること。 ・授業時間内に集中して、完全理解と習得を強く勧める。 ・社会人となる基本的モラルが必要であり、私語を慎み、スマートフォンの使用や他の授業の準備などの作業は授業の妨げとなるため禁止する。 ・積極的に質問をし、自ら考えることが必要で、受け身の授業にならないように注意する。
----------	---

	※毎回の小テストは野々木 担当回のみ
オフィスアワー	野々木：月曜日と火曜日は大学内研究室 授業後、あるいは研究室、メール（アドレスは授業時に連絡）での質問歓迎。 福田：非常勤講師室にて授業終了後に対応
課題に対するフィードバックの方法	野々木 ・授業中に使用するスライドのカラー版レジメ（2コマ、4コマ用）を事前配信 ・小テスト解説配布（復習に使用、欠席するときには注意）、主に過去の国家試験問題から抽出 福田 ・授業終了後に教室にて質問可能
実務経験	野々木：医師 これまで循環器診療、集中治療、救急医療に従事し、臨床医学の実践と臨床研究、また医療従事者・学生への教育に従事してきた。国際的な活動で、救急蘇生のガイドラインを作成（JRC蘇生ガイドライン2020、本学図書館に常備）。米国心臓協会（AHA）国際トレーニングセンターでのBLS/ACLSインストラクターとして、全国で指導歴。近畿では主に国立循環器病研究センターで定期的に指導中である。 研究歴・教育歴：リサーチマップ参照、 https://researchmap.jp/hnonogi 大学の教員紹介参照： https://www.osaka-aoyama.ac.jp/department/university/health_nutrition/ 福田：医師 兵庫医科大学医学部消化器内科准教授を経て、兵庫医科大学医学部地域総合医療学 主任教授 兵庫医科大学ささやま医療センター 病院長 現：医療法人協和会第二協立病院 病院長 リサーチマップ https://researchmap.jp/read0035068
その他	野々木担当（8回分、循環器系） 福田担当（7回分、代謝・消化器・呼吸器系）
授業の内容	第1回 腎・泌尿器①（野々木）【1】 循環器系オリエンテーション（授業の進め方、成績評価、資料事前配布、毎回の小テストと解説配布など）シラバスを事前に目を通すこと。（腎不全、ネフローゼ症候群）を解説する、教科書腎・泌尿器参照 【事前学修】テキスト第5章P105-117、事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】配布したレジメと小テスト解説、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。 第2回 腎・泌尿器②（野々木）【2】 （糸球体腎炎、腎障害）、尿路疾患を解説する。教科書腎・泌尿器参照 【事前学修】テキスト第5章P120-163 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】配布したレジメと小テスト解説、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。 第3回 循環器①（野々木）【3】 虚血性心疾患（狭心症、急性心筋梗塞）を解説する。教科書循環器参照、 【事前学修】テキスト第5章P128-157 【事後学修】レジメと小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。 第4回 循環器②（野々木）【4】 心不全（右心・左心不全）、心不全治療、その他を解説する。教科書循環器参照、 【事前学修】テキスト第5章P158-171 【事後学修】レジメと小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。 第5回 循環器③（野々木）【5】 高血圧症、不整脈、心電図の簡単な読み方、その他を解説 【事前学修】テキスト第5章P171-180（高血圧）、P181-206（不整脈） 【事後学修】レジメと小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。 第6回 脳・神経①（野々木）【6】 脳血管障害（脳出血、脳梗塞）を解説 教科書脳神経参照 【事前学修】テキスト第5章P120-154 【事後学修】レジメと小テスト解説で復習、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。 第7回 脳・神経②（野々木）【7】 脊髄疾患・末梢神経障害（ギラン・バレー）、筋・神経筋接合部疾患（筋ジストロフィー）、その他を解説 【事前学修】テキスト 第5章P178-206 【事後学修】レジメと小テスト解説で復習、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。 第8回 脳・神経③（野々木）【8】 脱髄・変性疾患（パーキンソン病、ALS）、その他を解説 【事前学修】テキスト 第5章P206-223 【事後学修】レジメと小テスト解説で復習、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。

	と。
第9回	代謝①（福田）【1】 糖尿病、肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症、 【事前学修】授業で扱うテーマを予習し、概略を知っておく 【事後学修】授業で扱ったテーマの理解を深める
第10回	代謝②（福田）【2】 糖尿病、肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症、 【事前学修】授業で扱うテーマを予習し、概略を知っておく 【事後学修】授業で扱ったテーマの理解を深める
第11回	代謝③（福田）【3】 糖尿病、肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症、 【事前学修】授業で扱うテーマを予習し、概略を知っておく 【事後学修】授業で扱ったテーマの理解を深める
第12回	内臓器①（福田）【4】 胃食道逆流症、胃炎・消化性潰瘍、胃腫瘍、肝炎、肝硬変、肝臓癌、 【事前学修】授業で扱うテーマを予習し、概略を知っておく 【事後学修】授業で扱ったテーマの理解を深める
第13回	内臓器②（福田）【5】 肝炎、肝硬変、肝臓癌、脂肪肝、薬剤性肝障害、門脈圧亢進症、胆石、胆道感染症、膵炎、膵腫瘍 【事前学修】授業で扱うテーマを予習し、概略を知っておく 【事後学修】授業で扱ったテーマの理解を深める
第14回	呼吸器①（福田）【6】 気道、肺の疾患、葉肺腫瘍（癌、中皮腫） 【事前学修】授業で扱うテーマを予習し、概略を知っておく 【事後学修】授業で扱ったテーマの理解を深める
第15回	呼吸器②（福田）【7】 気道、肺の疾患、葉肺腫瘍（癌、中皮腫） 【事前学修】授業で扱うテーマを予習し、概略を知っておく 【事後学修】授業で扱ったテーマの理解を深める
	定期試験

講義科目名称： 臨床薬理学

授業コード： 53200800

英文科目名称： Clinical Pharmacology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	必修
担当教員			
若林 繁夫			
開講曜限	授業形態		
金2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■1-2 人間を身体的・精神的・社会的に統合した存在であると理解できる</p> <p>■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる</p>
---------	---

科目の概要・目的	現在の医療において、さまざまな疾患・症状に対して薬物治療を行うことは避けては通れない治療方針になっている。近年我が国において、立て続けにノーベル医学・生理学賞受賞者が生まれ、新しい概念に基づく医薬品開発につながる成果が発表されている。看護師として、これまで開発されてきた薬物に加えて、将来の医療現場では新しい医薬品に対しても相応の知識を身につける必要がある。疾患に対するさまざまな薬物の効果や作用機序についての知識を得るため、「臨床薬理学」を講義する。
----------	--

学習到達目標	<p>1. これまで学習した「疾病の成り立ち」や「解剖生理学」に関する知識を前提に、「なぜ薬物がそれらの疾病に対して効果があるのか？」を理解し、説明できるようにする。</p> <p>2. 臨床的に頻繁に使用される薬物に関しては、その名称・作用機序・副作用などを記憶すること。</p>
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 毎回、講義内容の理解を確かめるために、講義中に出てくるキーワードを書かせたり、小テストを行う。それらを出席カードとともに提出してもらう。また、できる限り学生に授業中に発言させるようにしたい。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 対面授業ができない場合には録画授業を行い、Streamを用いて履修者に発信する。情報はA-portalを利用して発信する。</p> <p>【その他特記事項】 昨年度と同様に、小テストの他に毎回自習用の問題集を配布する。</p>
-------	---

成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験（筆記）、毎回の講義の平常点（課題、小テスト）によって評価する。</p> <p>【割合】 定期試験（筆記）：80%、平常点：20%(このうち毎回の課題が15%、小テスト5%)。</p>
---------	--

教科書・テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 「薬理学」 医学書院
----------	---------------------------

参考書	講義の中で、必要に応じて紹介する
-----	------------------

授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	各自、自分のノートを作成すること。講義を受けた後で、主として教科書を用いて、関連する内容を自分でまとめること。重要：配布する記述問題と取り組むこと。
---------------------------	--

履修上の留意事項	教科書、各自の科目別ノート、筆記用具は毎回忘れずに持参すること。
----------	----------------------------------

オフィスアワー	出講日（月曜日、木曜日、金曜日）の講義などの予定が入っていない時間帯
---------	------------------------------------

課題に対するフィードバックの方法	小テストや試験の結果について質問があればオフィスアワーで返答する。
------------------	-----------------------------------

実務経験	特になし
------	------

その他	特になし
-----	------

授業の内容	<p>第1回 薬理学を学ぶにあたって（第1章） 薬物とは何か、どのように開発されるのかなど、薬理学を学ぶための心構えについて学ぶ。その後、医薬品開発における生物資源をめぐる国際問題について描いたDVD「夢の新薬が作れない～生物資源をめぐる闘い～」を視聴する。 【事前学修】教科書の第1章をよく読み、章末問題をやっておくこと。 【事後学修】自作の問題集を配布するので、配布した資料、教科書を参考に、必ず次の講義までに自分でやっておくこと。小テストの問題をもう一度検討すること。</p> <p>第2回 薬理学の基礎知識-1（第2章） 薬理学の基礎知識として、薬物の標的・体内動態・薬物相互作用などについて学ぶ。 【事前学修】教科書の第2章をよく読み、章末問題をやっておくこと。 【事後学修】自作の問題集を配布するので、配布した資料、教科書を参考に、必ず次の講義までに自分でやっておくこと。小テストの問題をもう一度検討すること。</p> <p>第3回 薬理学の基礎知識-2（第2章） 前回に引き続き、薬物の標的・体内動態・薬物相互作用などについて学ぶ。 【事前学修】教科書の第2章をよく読み、章末問題をやっておくこと。 【事後学修】自作の問題集を配布するので、配布した資料、教科書を参考に、必ず次の講義までに自分でやっておくこと。小テストの問題をもう一度検討すること。</p> <p>第4回 抗感染症薬（第3章）</p>
-------	---

第5回	<p>ウイルス、細菌、真菌の違いを理解し、それぞれの感染症に対する薬物について学ぶ。 【事前学修】教科書の第3章をよく読み、章末問題をやっておくこと。 【事後学修】自作の問題集を配布するので、配布した資料、教科書を参考に、必ず次の講義までに自分でやっておくこと。小テストの問題をもう一度検討すること。</p> <p>抗がん薬（第4章） 抗がん薬の種類とそれらの副作用、さらに有望とされている分子標的薬についても学ぶ。 【事前学修】教科書の第4章をよく読み、章末問題をやっておくこと。 【事後学修】自作の問題集を配布するので、配布した資料、教科書を参考に、必ず次の講義までに自分でやっておくこと。小テストの問題をもう一度検討すること。</p>
第6回	<p>免疫治療薬（第5章） まず免疫の仕組みについて理解したあとで、免疫抑制薬・免疫増強薬などについて学ぶ。 【事前学修】教科書の第5章をよく読み、章末問題をやっておくこと。 【事後学修】自作の問題集を配布するので、配布した資料、教科書を参考に、必ず次の講義までに自分でやっておくこと。小テストの問題をもう一度検討すること。</p>
第7回	<p>抗アレルギー薬・抗炎症薬（第6章） アレルギーおよび炎症反応について理解したうえで、抗ヒスタミン薬やステロイド性・非ステロイド性抗炎症薬について学ぶ。 【事前学修】教科書の第6章をよく読み、章末問題をやっておくこと。 【事後学修】自作の問題集を配布するので、配布した資料、教科書を参考に、必ず次の講義までに自分でやっておくこと。小テストの問題をもう一度検討すること。</p>
第8回	<p>末梢神経活動に作用する薬物（第7章） まず神経伝達のしくみを理解する。そのうえで主として受容体に作用するさまざまな薬物について学ぶ。 【事前学修】教科書の第7章をよく読み、章末問題をやっておくこと。 【事後学修】自作の問題集を配布するので、配布した資料、教科書を参考に、必ず次の講義までに自分でやっておくこと。小テストの問題をもう一度検討すること。</p>
第9回	<p>中枢神経系に作用する薬物（第8章） 冒頭で第1回～第8回までの内容に関する小テストを実施する。中枢神経系の構造と機能を理解したうえで、麻酔薬・睡眠薬・抗精神病薬などについて学ぶ。 【事前学修】教科書の第8章をよく読み、章末問題をやっておくこと。 【事後学修】自作の問題集を配布するので、配布した資料、教科書を参考に、必ず次の講義までに自分でやっておくこと。小テストの問題をもう一度検討すること。</p>
第10回	<p>薬物の乱用（第8章、他） 麻酔性鎮痛薬や合成麻薬などの種類と効能を学び、これらの乱用を防ぐための注意点について理解する。 【事前学修】教科書の第7章、第8章をよく読み、章末問題をやっておくこと。 【事後学修】毎回自作の問題集を配布するので、配布した資料、教科書を参考に、必ず次の講義までに自分でやっておくこと。</p>
第11回	<p>循環器系に作用する薬物-1（第9章） まず循環器系の構造・機能について理解する。そのうえで降圧薬、狭心症・心不全・不整脈などの疾患に対する薬物の種類とその作用機序について学ぶ。 【事前学修】教科書の第9章をよく読み、章末問題をやっておくこと。 【事後学修】自作の問題集を配布するので、配布した資料、教科書を参考に、必ず次の講義までに自分でやっておくこと。小テストの問題をもう一度検討すること。</p>
第12回	<p>循環器系に作用する薬物-2（第9章） 前回に続いて、循環器系疾患の治療薬について学ぶ。 【事前学修】教科書の第9章をよく読み、章末問題をやっておくこと。 【事後学修】自作の問題集を配布するので、配布した資料、教科書を参考に、必ず次の講義までに自分でやっておくこと。小テストの問題をもう一度検討すること。</p>
第13回	<p>呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物（第10章） 呼吸器・消化器・生殖器の解剖生理学的な知識を踏まえながら、これらの疾患に作用する薬物の種類とその作用機序について学ぶ。 【事前学修】教科書の第10章をよく読み、章末問題をやっておくこと。 【事後学修】自作の問題集を配布するので、配布した資料、教科書を参考に、必ず次の講義までに自分でやっておくこと。小テストの問題をもう一度検討すること。</p>
第14回	<p>物質代謝に作用する薬物（第11章） まず内分泌系についての概略を理解する。そのうえで糖尿病・甲状腺疾患などの薬物について学ぶ。 【事前学修】教科書の第11章をよく読み、章末問題をやっておくこと。 【事後学修】自作の問題集を配布するので、配布した資料、教科書を参考に、必ず次の講義までに自分でやっておくこと。小テストの問題をもう一度検討すること。</p>
第15回	<p>その他の薬物（第12～15章、付章） 皮膚科・眼科用薬物、さらに救急用薬物、消毒薬、漢方薬、輸液製剤、輸血剤について学ぶ。 【事前学修】教科書の第12～15章、および付章をよく読み、章末問題をやっておくこと。 【事後学修】自作の問題集を配布するので、配布した資料、教科書を参考に、必ず定期試験までに自分でやっておくこと。小テストの問題をもう一度検討すること。</p>
定期試験	<p>【事前学修】資料、教科書、毎回配布する問題集を勉強し直すこと。特に配布する記述式問題を徹底的にやっておくこと。 【事後学修】試験の結果を受けて復習すること。</p>

講義科目名称： 公衆衛生看護学概論

授業コード： 53201100

英文科目名称： Introduction to Public Health Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	必修
担当教員			
豊島 泰子			
開講曜限	授業形態		
月4	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる</p> <p>■5-1 看護職者の役割が理解できる</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>・本講義では、以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護の理念と目的、歴史的変遷について 2. 地域で生活する人々を対象に行う健康支援活動に必要な理論であるプライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションについて 3. 公衆衛生看護活動の場である行政、産業、学校等多様な場で行われる支援方法について 4. 国際的な看護活動や健康危機管理 等について
----------	--

学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①地域で行われる公衆衛生看護活動について理解できるようになる。 ②行政、産業、学校、多様な場で行われる公衆衛生看護活動について理解できるようになる。 ③プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションについて理解できるようになる。 ④個人・家族・集団・地域への支援方法について理解できるようになる。 ⑤国際的な看護活動について理解できるようになる。 ⑥健康危機管理に関する看護活動について理解できるようになる。 ⑦公衆衛生看護活動の展開方法について理解できるようになる。
--------	--

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特記事項なし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特記事項なし</p> <p>【その他特記事項】 特記事項なし</p>
-------	---

成績評価の方法	<p>【評価項目・割合】</p> <p>定期試験（筆記） 70%、 課題20%、 授業参加度 10%</p>
---------	--

教科書・テキスト	<p>・豊島泰子編集：改訂新版「看護師のための地域看護学 - 地域理解を深めるための技術と展開法 -」 PILAR PRESS</p>
----------	---

参考書	<p>・上野昌江、和泉京子編集(2016) 公衆衛生看護学第2版 中央法規出版</p> <p>・標美奈子著(2022) 標準保健師講座・1 公衆衛生看護学概論</p> <p>・荒賀直子・後閑容子、嶋野洋子・神庭純子著(2020) 公衆衛生看護学 JP 第5版 インターメディカル</p>
-----	---

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>・教科書を中心として講義を進めます。専門的なことを学ぶため、事前・事後学習で知識を確実なものにしていく。</p>
---------------------------	---

履修上の留意事項	<p>・保健師課程履修の有無に関わらず、公衆衛生（地域）看護の知識・技術は必要です。積極的な学習を希望します。</p>
----------	---

オフィスアワー	<p>・月曜日：12：15～12：45</p>
---------	-------------------------

課題に対するフィードバックの方法	<p>・講義時にその都度返却する。</p>
------------------	-----------------------

実務経験	<p>・保健師</p>
------	-------------

その他	<p>・地域で生活する人々の健康と支援方法について学習します。興味を持ち参加されることを期待します。</p>
-----	--

授業の内容	<p>第1回 地域看護学（公衆衛生看護学）の概念（第1章）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等）シラバスを事前に読んでおくこと ・地域看護（公衆衛生看護）とは、健康の捉え方、活動の場と対象、地域看護学と公衆衛生看護学 <p>【事前学修】 「地域看護（公衆衛生看護）活動について」まとめなさい。</p> <p>【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>第2回 地域看護の歴史（2章）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域看護の歴史と公衆衛生看護活動について
-------	---

第3回	<p>【事前学修】 「地域看護の歴史について」まとめなさい。 【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>社会環境の変化と健康への影響 (3章) ・社会環境の変化と健康課題</p>
第4回	<p>【事前学修】 「社会環境の変化と健康課題について」まとめなさい。 【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>地域保健医療福祉行政と活動に関連する法律 (第4章) ・地域保健医療福祉の関係法規、地域看護業務と法律</p>
第5回	<p>【事前学修】 「地域保健法、母子保健法について」まとめなさい。 【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>地域看護活動に必要な理論 (第5章) ・プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーション、保健行動、ポピュレーションアプローチ</p>
第6回	<p>【事前学修】 「ヘルスプロモーションについて」まとめなさい。 【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>第2部 地域看護活動の場と特性 行政機関・産業における地域看護活動 (第1章・4章) ・行政保健、産業保健活動</p>
第7回	<p>【事前学修】 「行政機関で働く保健師の活動について」まとめなさい。 【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>第2部 地域看護活動の場と特性 学校・病院・在宅における地域看護活動 (2章、3章) ・病院・在宅、学校</p>
第8回	<p>【事前学修】 「病院・在宅等の看護活動について」まとめなさい。 【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>地域包括ケアシステムと看護職の役割 ・地域包括ケアシステム、看護職の役割</p>
第9回	<p>【事前学修】 「地域包括ケアシステムについて」まとめなさい。 【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>第3部地域看護活動の展開 (第1章) ① ・家庭訪問とは、健康相談とは</p>
第10回	<p>【事前学修】 「家庭訪問について」まとめなさい。 【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>第3部地域看護活動の展開 (第1章) ② ・地域診断とは</p>
第11回	<p>【事前学修】 「箕面市について」まとめてください。 【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>第3部公衆衛生(地域)看護活動の展開 (第1章) ③ ・健康教育、グループ支援、組織化</p>
第12回	<p>【事前学修】 講義時に提示する。 【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>第3部地域看護活動の展開 対象別保健活動 (第2章) ① ・母子保健活動、成人保健活動</p>
第13回	<p>【事前学修】 講義時に提示する。 【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>第3部地域看護活動の展開 対象別保健活動対象別保健活動 (第2章) ② ・高齢者保健活動、難病、障害者保健</p>
第14回	<p>【事前学修】 講義時に提示する。 【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>第3部地域看護活動の展開 対象別保健活動 国際看護活動 (第4章) ・国際看護活動</p>
第15回	<p>【事前学修】 講義時に提示する。 【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>第3部地域看護活動の展開 対象別保健活動 災害看護活動 (3章) ・感染症対策、災害看護活動</p>
	<p>【事前学修】 事前に出された課題について考える 【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>定期試験</p>

講義科目名称： 保健統計学

授業コード： 53201200 53201210

英文科目名称： Health Statistics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	選択
担当教員			
佐藤 琢志、相羽 洋子			
開講曜限	授業形態		
木2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる</p> <p>■3-2 問題解決のために思考し、得た知識を用いて臨床判断できる</p>
---------	--

科目の概要・目的	保健統計学では保健統計資料等に基づいて、具体的に統計処理について学習する。さらに、高度化する医療保健分野のなか幅広い分野で勤務する看護職にとって必須となる保健統計学について、具体的な統計処理の実践を伴いながら理解する。
学習到達目標	健康及び疾病等に関する統計について理解と活用ができる。また、統計学の基本的な分析技術を理解する。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 なし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 なし</p> <p>【その他特記事項】 基本的にパワーポイントを用いた講義形式で行い、毎回小テストを実施する。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】小テスト、授業内試験（筆記）</p> <p>【割合】小テスト30%、授業内試験（70%）</p>
教科書・テキスト	指定しない。 授業時に適宜資料を配布する。
参考書	白戸亮吉、鈴木健太（2018）、「ていねいな保健統計学」、羊土社
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	授業で学んだ内容を復習すること。
履修上の留意事項	授業に集中し、積極的参加態度で臨むこと。
オフィスアワー	佐藤：火曜日12：15～12：55 相羽：木曜日12:15～12:55
課題に対するフィードバックの方法	小テストは授業時に返却する。
実務経験	佐藤：高等学校教諭 相羽：薬剤師
その他	なし
授業の内容	<p>第1回 データの種類と代表値（佐藤） データの種類と代表値及び散布度について学ぶ。 【事前学修】データの種類と代表値について調べておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>第2回 表と図、確率分布（佐藤） 前時の復習を行う。また、表と図、確率分布について学ぶ。 【事前学修】前時の復習を行っておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>第3回 相関、回帰（佐藤） 前時の復習を行う。また、相関、回帰について学ぶ。 【事前学修】前時の復習を行っておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>第4回 推定と検定（佐藤） 前時の復習を行う。また、推定と検定について学ぶ。 【事前学修】前時の復習を行っておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p>

第5回	t検定 (佐藤) 前時の復習を行う。また、t検定について学ぶ。
第6回	【事前学修】前時の復習を行っておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。 順序があるデータの検定 (佐藤) 前時の復習を行う。また、ノンパラメトリック検定について学ぶ。
第7回	【事前学修】前時の復習を行っておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。 分類されるデータの検定 (佐藤) 前時の復習を行う。また、カイ二乗検定について学ぶ。
第8回	【事前学修】前時の復習を行っておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。 保健統計の概要 (相羽) 保健統計の概要について学ぶ。
第9回	【事前学修】保健統計の概要について調べておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。 人口静態統計 (相羽) 国勢調査、日本の人口、人口指標について学ぶ。
第10回	【事前学修】前時の復習を行っておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。 人口動態統計 (出生率等) (相羽) 出生率、死亡率、年齢調整死亡率について学ぶ。
第11回	【事前学修】前時の復習を行っておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。 人口動態統計 (死因統計等) (相羽) 死因統計、死因分類について学ぶ。
第12回	【事前学修】前時の復習を行っておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。 生命表 (相羽) 生命表、平均寿命、健康寿命について学ぶ。
第13回	【事前学修】前時の復習を行っておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。 保健統計調査 (基幹統計) (相羽) 基幹統計について学ぶ。
第14回	【事前学修】前時の復習を行っておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。 保健統計調査 (その他の保健調査) (相羽) 様々な保健調査について学ぶ。
第15回	【事前学修】前時の復習を行っておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。 授業内試験 (筆記)、まとめ (佐藤・相羽) 【事前学修】今までの学習内容を復習し、試験に備えること。 【事後学修】分からなかった点を振り返り、理解をすること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	1	必修
担当教員			
田中 亮子、塩野 徳史、吉井 紀子、野口 寿美子、友澤 満地子			
開講曜日	授業形態		
火1、2	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる</p> <p>■3-2 問題解決のために思考し、得た知識を用いて臨床判断できる</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>本科目では、対象の情報収集に必要な技術として、ヘルスアセスメントの目的とフィジカルアセスメントに必要な問診・視診・触診・聴診・打診の方法を学ぶ。また、バイタルサイン測定の方法と根拠、系統別にフィジカルアセスメントの目的と方法、実際に学ぶ。</p> <p>看護の対象を理解する上で、フィジカルアセスメントの能力は必要不可欠である。フィジカルアセスメントを行う場面の多くは、患者の病状経過や治療経過に対応して、身体状況の変化を予測しつつ、病態に関連したポイントに焦点をあてて観察する場面となる。フィジカルアセスメントを実施した先には、必ずアセスメント結果を活かした看護援助があることを理解する必要がある。</p> <p>本科目では、まずバイタルサインの意味と観察、測定方法を学び、情報収集の技術を修得する。そして系統別（神経系、筋・骨格系、呼吸器系、循環器系、消化器系）フィジカルアセスメントの目的と方法を学び、どのような状況で必要になるのか、得られた情報をどのように判断すればよいのか、観察や看護援助にどう活かしていくのかを考えながら、適切なフィジカルアセスメントを実践する技術を修得することを目指す。</p>
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) バイタルサイン測定の理論的根拠を学び、適切な方法で実施できる。 2) 消化器系のフィジカルアセスメントの目的と方法を理解し、看護の視点で対象者を観察できる。 3) 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの目的と方法を理解し、看護の視点で対象者を観察できる。 4) 神経系感覚器のフィジカルアセスメントの目的と方法を理解し、看護の視点で対象者を観察できる。 5) 呼吸器系のフィジカルアセスメントの目的と方法を理解し、看護の視点で対象者を観察できる。 6) 循環器系のフィジカルアセスメントの目的と方法を理解し、看護の視点で対象者を観察できる。 7) 各援助技術について、その法則性・理論的根拠を理解し、目的と効果を説明できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習は2クラスに分かれて行い、さらに3人～4人のグループに分かれて実施する。実習室の準備と後片付けは技術の一環として取り扱い、学生が教員の指示のもと交代して主体的に行う。初回にグループ配置表を配付する。 ・フィジカルアセスメントでは、1年次からの解剖生理を基に骨や臓器の位置や大きさなどを理解するために、白Tシャツに自分自身の骨・臓器を描写し実際の演習に患者役・看護師役の両方を体験することで学を深める。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義は基本は対面形式で行う。（状況により変更有） ・グループ活動や発表をすることで、プレゼンテーションを通して個人の学びを深める。 <p>【その他特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白Tシャツを活用し、フィジカルイグザミネーションを習得し、演習や臨地実習に活かすことができる。
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>小テスト、課題・演習レポート、技術試験、定期試験（筆記）で評価する</p> <p>【割合】</p> <p>小テスト15%、課題・演習レポート15%、技術試験20%、定期試験（筆記）50%</p>
教科書・テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I, 医学書院.
参考書	<p>守田美奈子、鈴木憲史：写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス、インターメディカ.</p> <p>熊谷たまき他：看護がみえるVol. 3 フィジカルアセスメント、メディックメディア.</p> <p>山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院</p> <p>任和子、秋山智弥：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>各援助技術の学習に際し、事前課題の実施、授業後の振り返りを行い、個人で復習を行いまとめ学習内容の修得に努めてください。そのために講義前後に各60～90分の自己学習を必要とします。特にこの講義では解剖生理の知識や基礎看護援助論で修得した技術が必要となります。技術については、繰り返し練習するために実習室を開放する予定です。事前に担当教員に相談し、自己学習を積み重ねてください。（実習室における自主練は予約制）</p> <p>講義の初めに前回の講の内容に関する小テストを行うので、復習をしておく。また演習時には事前に課題を提示するため、必ず予習をして臨む。事前学習ができていない場合は、演習に参加できない場合があります。事後学習は期限内に提出してください。</p>
履修上の留意事項	<p>講義・演習では主体的に考える個人の学習が基本です。内容によっては、グループ学習によって協力し合い学びの効果を高めることもあります。提示された課題、事前学習は必ず指示された日時までに行ってください。この授業は、全出席が前提となります。講義演習の出席は「出席カード」で確認します。講義中の携帯電話・スマートフォンなどは原則、使用禁止とします。</p> <p>演習中は、患者さんを想起し、私語は慎み、技術習得のために真摯な態度で臨むようにしてください。</p> <p>新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの感染状況や、感染対策（マスク、フェイスシールド着用や手指消毒など）を講じた上で対面授業を行います。各自、体調管理には十分に注意し、体調不良時には報告してください。</p> <p>実習室を使用時にも感染予防対策を徹底するようにしてください。</p>

オフィスアワー	田中亮子：月曜～木曜日 12:20-13:30 2号館 研究室403 友澤満地子：月曜～木曜日 12:20-13:30 2号館 研究室303
課題に対するフィードバックの方法	講義演習で提出した小テスト、レポート類は返却します。特に小テストの解答、課題レポートについてはその都度、期間を決めて掲示するので、指示に従ってください。提出期日は守りましょう。課題返却後は、復習に役立ててください。
実務経験	田中亮子：看護師、産業看護師 塩野徳史：看護師 吉井紀子：看護師 野口寿美子：看護師 友澤満地子：看護師
その他	1) 講義や演習の予習、復習を必ず行い授業にのぞむ。 2) 実習室の使用にあたっては、「使用の基準」を守り、適切なユニホーム・身だしなみで入室すると。 3) 演習時の使用物品の準備と後片付けは学生が行い、整理・整頓する。 4) やむを得ず欠席する場合には、可能な限り迅速に担当教員に連絡・相談し、自己学習を行う。 5) 自己学習はルールを守って、事前（1週間前）に申請し、計画的に進める。
授業の内容	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを事前に熟読する ・週間予定表で日程を確認し、講義の教室を把握しておく。 ・演習時は、実習室で行うが、時に、教室使用もあり、クラスによって教室が移動する場合もあるため、必ず確認し、出席すること。（必修科目） ・演習時は、身だしなみの不備や忘れ物があれば演習に参加できない場合があります。シラバスを授業前には毎回確認し、実施できるように準備する。 <p>第1-2回</p> <p>(講義) ヘルスアセスメント1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスアセスメントとは何か ・フィジカルアセスメントとは何か <ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサイン測定の意義と方法 <ul style="list-style-type: none"> ・問診、視診、触診、聴診、打診の意義と方法 <p>第3-4・5回</p> <p>【事前学修】 指定された教科書の範囲を読み、関連する解剖生理の知識を復習する 【事後学修】 バイタルサイン測定の技術に関する動画を視聴し、実際の援助をイメージする</p> <p>(演習) ヘルスアセスメント2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサイン測定：体温測定、呼吸測定、脈拍測定、血圧測定（触診法、聴診法） ・Tシャツを活用し、バイタルサインのチェックやフィジカルイグザミネーションの実際を体験する。 <p>第6-7回</p> <p>【事前学修】 講義で提示された課題をもとに、援助の手順、根拠、留意点をまとめる 技術が確実に実施できるように、根拠を踏まえた練習を行う。 【事後学修】 演習内容を振り返り、自己の課題とその解決策を具体的に記載する</p> <p>(講義) 系統別フィジカルアセスメント1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消化器系のフィジカルアセスメント：基礎知識と実際 ・消化器系のフィジカルアセスメント：事例によるアセスメント <ul style="list-style-type: none"> ・筋・骨格系のフィジカルアセスメント：基礎知識と実際 ・筋・骨格系のフィジカルアセスメント：事例によるアセスメント <p>第8-9回</p> <p>【事前学修】 指定された教科書の範囲を読み、関連する解剖生理の知識を復習する *Tシャツを作成し持参する。 【事後学修】 講義で提示された課題に取り組み、模範例を確認し、相違を理解する。 *演習に向けて自主練習を行う</p> <p>(演習) 系統別フィジカルアセスメント2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消化器系のフィジカルアセスメント：腹部の問診、視診、聴診、打診、触診（白Tシャツの活用） ・筋・骨格系のフィジカルアセスメント：関節可動域の測定、筋力スクリーニング、徒手筋力測定 <p>第10-11回</p> <p>【事前学修】 講義で提示された課題をもとに、援助の方法と意義、根拠、留意点をまとめる 【事後学修】 演習内容を振り返り、自己の課題とその解決策を具体的に記載する</p> <p>(講義) 系統別フィジカルアセスメント3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経系・感覚器のフィジカルアセスメント：基礎知識と実際 ・神経系・感覚器のフィジカルアセスメント：事例によるアセスメント ・神経系・感覚器のフィジカルアセスメント：運動機能、感覚機能の評価、反射、目・耳・口のアセスメント <p>第12-13回</p> <p>【事前学修】 指定された教科書の範囲を読み、関連する解剖生理の知識を復習する 【事後学修】 講義で提示された課題に取り組み、模範例を確認し、相違を理解する。</p> <p>技術試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不合格者は、再試験がある。 ・再試験までに、自己の課題を明確にし、自主練習を行う。 *臨地実習までに技術習得をする。 *合格するまで練習し、実習で活用できるよう技術を熟達させる。 <p>(講義) 系統別フィジカルアセスメント4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器系のフィジカルアセスメント：基礎知識と実際 ・呼吸器系のフィジカルアセスメント：事例によるアセスメント <ul style="list-style-type: none"> ・循環器系のフィジカルアセスメント：基礎知識と実際

<p>第14-15回</p> <p>定期試験</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器系のフィジカルアセスメント：事例によるアセスメント 【事前学修】 指定された教科書の範囲を読み、関連する解剖生理の知識を復習する *白Tシャツを活用し、どの位置で診察を行うなどの予習しておく。 【事後学修】 講義で提示された課題に取り組み、模範例を確認し、相違を理解する。 *白Tシャツを活用して次回の演習に向けて自主練習しておく。 (演習) 系統別フィジカルアセスメント5 ・呼吸器系のフィジカルアセスメント：呼吸音の聴取、胸部（呼吸器）の間診、視診、打診、聴診 ・循環器系のフィジカルアセスメント：心音の聴取、胸部（循環器）の間診、視診、聴診 *シミュレーション学習を実施する。 【事前学修】 講義で提示された課題をもとに、援助の方法と意義、根拠、留意点をまとめる 【事後学修】 演習内容を振り返り、自己の課題とその解決策を具体的に考える。 シミュレーション学習の内容を振り返り、今後の課題を明確にする。
----------------------------	---

講義科目名称： 成人看護学演習 I（慢性期）

授業コード： 53203100

英文科目名称： Adult Health Nursing Seminar I（Chronic Phase）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	必修
担当教員			
相澤 里香、横田 香世、清岡 美和子			
開講曜限	授業形態		
木3、4	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■3-3 適切な看護技術を実践できる</p> <p>■4-3 安全・安楽に看護を実践できる</p>
---------	--

科目の概要・目的	既習科目の知識をすべて活用し、慢性期にある患者の看護過程の展開を主として行う。
学習到達目標	成人期の慢性疾患に罹患している患者の看護過程の展開できる。 1) ゴードンの看護過程理論にもとづき、各看護過程のプロセスを考えることができる。 2) 看護過程の展開を通し、対象者の看護問題を明確にすることができる。 3) 患者教育の原案を作成しロールプレイが実践できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 紙上患者の看護課程の展開を行う。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験（筆記）、看護過程の展開のレポート</p> <p>【割合】 定期試験（筆記）60%、看護過程の展開のレポート40%</p>
教科書・テキスト	ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断第6版（ヌーベルヒロカワ） 看護が見えるvol14 看護過程の展開（メディックメディア）
参考書	授業時に適宜紹介する。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	既習科目の復習を大切にすること。特に看護過程、基礎看護学実習Ⅱ。これらの科目を主に土台にした科目である。わからない言葉等をしらべておくこと。
履修上の留意事項	主体的に看護過程の展開を行えるように必要な参考書、資料等を毎回持ってくる。看護過程の展開は積極的に学修すること。
オフィスアワー	相澤：水曜日14時40分から16時10分 清岡：水曜日 13時～14時30分
課題に対するフィードバックの方法	電子メール、直接の来室。実習で不在時間が多いため可能であれば予約が望ましい。在室時は随時対応する。授業終了後教室で質問に対応、研究室への来訪可
実務経験	相澤、清岡：看護師
その他	なし
授業の内容	<p>第1回 ガイダンス、論理的思考訓練 本講義の概要について説明する。 論理的思考訓練の個人ワークを行う。</p> <p>【事前学修】 2年次に履修した看護課程の復習</p> <p>【事後学修】 2年次に履修した看護課程の復習</p> <p>第2回 論理的思考訓練 論理的思考訓練の個人ワークおよび成果発表を行う。</p> <p>【事前学修】 2年次に履修した看護過程の復習</p> <p>【事後学修】 2年次に履修した看護過程の復習</p> <p>第3回 看護過程理論の復習 事例の提示 記録用紙の配布 看護過程理論の基礎について概説する。 ゴードンの概念枠組みについて説明する。 本演習で用いる事例の提示を行う。 記録用紙の配布</p>

第4回	<p>【事前学修】 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断第1章を読む。</p> <p>【事後学修】 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断第1章を読む。</p> <p>情報収集 情報収集とは何かを復習するための説明を行う。 情報収集の実践を行う。</p>
第5回	<p>【事前学修】 看護が見える概論を読む。</p> <p>【事後学修】 看護が見える概論を読む。</p> <p>アセスメント1 アセスメントとは何かを復習するための説明を行う。 アセスメントの実践を行う。個人ワークおよびグループワーク。</p>
第6回	<p>【事前学修】 情報収集を完成させてくる。</p> <p>【事後学修】 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断第2章を読む。</p> <p>アセスメント2 アセスメントの実践を行う。個人ワークおよびグループワーク。</p>
第7回	<p>【事前学修】 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断第3章を読む。</p> <p>【事後学修】 アセスメントを完成させる。</p> <p>関連図1 関連図の作成の実践を行う。</p>
第8回	<p>【事前学修】 配付資料を読む</p> <p>【事後学修】 病態並関連図を書く。</p> <p>関連図2 関連図の作成の実践を行う。</p>
第9回	<p>【事前学修】 病態関連図を完成させる。</p> <p>【事後学修】 全体関連図を完成させる。</p> <p>統合 統合とは何か説明を行う。 統合を実践する。</p>
第10回	<p>【事前学修】 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断第4-7章を読む。</p> <p>【事後学修】 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断第4-7章を読む。</p> <p>優先順位の判断1 優先順位とは何か説明する。 優先順位の判断を実践する。</p>
第11回	<p>【事前学修】 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断第4-7章を読む。</p> <p>【事後学修】 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断第4-7章を読む。</p> <p>優先順位の判断2 優先順位の判断を実践する。</p>
第12回	<p>【事前学修】 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断第4-7章を読む。</p> <p>【事後学修】 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断第4-7章を読む。</p> <p>看護計画立案1 看護計画とは何かを説明する。 看護計画の立案を実践する。</p>
第13回	<p>【事前学修】 看護が見えるP138-166まで読む。</p> <p>【事後学修】 看護が見えるP138-166まで読む。</p> <p>看護計画の立案2 看護計画とは何かを説明する。 看護計画の立案を実践する。</p> <p>【事前学修】</p>

	<p>看護が見えるP138-166まで読む。 【事後学修】 看護が見えるP138-166まで読む。 評価および修正 評価および修正について説明する。</p> <p>【事前学修】 看護が見えるP138-166まで読む。 【事後学修】 看護が見えるP138-166まで読む。</p> <p>第14回 サマリー サマリーについて概説する。</p> <p>第15回 【事前学修】 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断第13章を読む。 【事後学修】 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断第13章を読む。</p> <p>定期試験</p>
--	--

講義科目名称： 成人看護学演習Ⅱ（急性期）

授業コード： 53203200

英文科目名称： Adult Health Nursing Seminar II (Acute Phase)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	必修
担当教員			
藤原 尚子、柏原 寛美、三浦 恭代			
開講曜限	授業形態		
水1、2	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■3-3 適切な看護技術を実践できる</p> <p>■4-3 安全・安楽に看護を実践できる</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>既習の知識を統合し、急性期特に周術期にある成人期の対象者を理解し、必要な看護技術を習得するための講義・演習を行う。演習は、看護の課題に応じて実践現場の状況や患者の状態を模擬的に再現した体験型学習であるシミュレーション教育を中心に進める。</p> <p>手術や薬物療法等の治療が必要になり医療機関の受診や入院が必要になった対象者への看護の課題を明確にし、課題に応じて必要な看護の原理と方法を学ぶ。病気の発症から回復過程を経て、病気と共存する生活まで継続した看護実践の重要性を学ぶ。課題解決のための方法を既習した知識や技術を活用し、実践する力と態度を学ぶ。</p>
----------	---

学習到達目標	<p>1. 成人看護学援助論Ⅱ（急性期）での学びを基に、周手術期にある対象の事例を通して、看護過程の展開方法その思考に基づく看護援助を実施し評価することができる。</p> <p>2. 周手術期にある対象者に必要な看護技術を実践することができる。</p> <p>3. シミュレーションを通して、想定した事例に必要なコミュニケーション、観察等の看護援助について、グループでよりよい看護実践へと思考し実施する体験ができる。</p>
--------	--

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーション学習法 ・グループディスカッション ・協同学習の成果発表（学生主体の運営にてグループでプレゼンテーション） ・ピア評価 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>PCを利用したプレゼン（課題の解決に向けて練り合う学習活動）</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>電子カルテの作成検討</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>定期試験（筆記）、提出課題、事前事後課題への取り組みやグループワークへの参加度。ただし看護過程の提出課題評価が6割を満たさない学生は再提出してもらいます。</p> <p>【割合】</p> <p>定期試験50%、提出課題40%、ピア評価10%（事前事後課題への取り組みやグループワークへの参加度）</p>
---------	--

教科書・テキスト	<p>1. 看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護I 概論・周手術期看護改訂第4版 南江堂</p> <p>2. 看護学テキストNiCE 成人看護学 成人看護技術 [Web動画付] 改訂第3版 生きた臨床技術を学び看護実践能力を高める 南江堂系</p> <p>3. 系統的看護学講座専門Ⅱ 消化器 医学書院</p> <p>4. 看護過程 講義資料</p> <p>5. 急性期実習に使える！周術期看護ぜんぶガイド（プチナース） 照林社</p>
----------	---

参考書	<p>1. 大滝周ほか：周術期看護 学習ワークブック メヂカルフレンド社 2018</p> <p>2. ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン 照林社 2016</p> <p>3. 竹内登美子：講義から実習へ 周手術期看護 1・2・3編著 医歯薬出版株式会社 2019</p> <p>4. すぐ役立つ周術期の全身管理 学研 2018</p> <p>5. 疾患別看護過程の展開 第6版 学研 2020</p> <p>6. 病期・発達段階の視点でみる疾患別看護過程 照林社 2020</p> <p>7. 周術期の臨床判断を磨く手術侵襲と生体反応から導く看護 医学書院 2008</p> <p>8. 周術期の臨床判断を磨くⅡ術式による機能変化から導く看護 医学書院 2021</p> <p>9. 任和子ほか編. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院2021</p>
-----	---

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>1. 代表的な疾患を取り上げて講義を行うので、取り上げた疾患以外については各自で授業時間外に学習を行うことを基本とする。授業時間外に必要な学習時間は、事前学習1限あたり60～90分・事後学習1限あたり60～90分とする。</p> <p>2. 授業前に提示する事前課題を仕上げ、講義で取り上げた内容については復習を必ず行うようにする。</p> <p>3. 1および2で学習した内容は、必ずノートや資料用のファイル（個人で準備）に整理する。</p> <p>4. 授業内に出された課題について、個人またはグループで取り組み指定された日時に厳守し提出する。</p>
---------------------------	---

履修上の留意事項	<p>今までに学習した科目における知識が基盤となるので十分に復習をして授業に臨むこと。演習参加時の態度・服装・身だしなみを整えて参加すること。</p> <p>※授業の状況により授業計画が変更となる場合がある。</p>
----------	--

オフィスアワー	水曜日 13：00～16：00
---------	-----------------

課題に対するフィードバックの方法	コメントを記載し返却する（必要時、加筆・修正の再提出があります）
------------------	----------------------------------

実務経験	看護師
その他	臨床現場や患者の状態を再現した環境で、看護実践力を習得できるように体験型学習を取り入れた授業を行う。 ※卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連（卒業時点において学生が身につけるべき能力）についての詳細は履修要覧を参照の上、確認してください。
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション、周術期事例患者の紹介、看護過程の講義① 周術期患者の事例およびゴードンの機能的健康パターンなど看護過程演習の基本的内容を知る。 【事前学修】成人看護学援助論IIの授業資料を復習し理解しておくこと。授業資料は全てファイリングし整理しておく。 【事後学修】本日提示された事例を熟読する。</p> <p>第2回 オリエンテーション、周術期事例患者の紹介、看護過程の講義① 周術期患者の事例およびゴードンの機能的健康パターンなど看護過程演習の基本的内容を知る。 【事前学修】成人看護学援助論IIの授業資料を復習し理解しておくこと。授業資料は全てファイリングし整理しておく。 【事後学修】本日提示された事例を熟読する。</p> <p>第3回 周術期事例患者の看護過程③（情報整理とアセスメント） 情報の整理・情報のアセスメントについて記載内容・方法を理解できる。グループメンバーとの協同学習により共有し、グループでの情報の整理・情報の根拠づけとしてアセスメントを完成させる。（グループディスカッション） 【事前学修】各自でグループディスカッションに向けて情報の整理・情報のアセスメントを行い、自己の考えを説明できる準備をしておく。 【事後学修】グループディスカッションでの内容を理解し、個人で情報の整理とアセスメントを完成させておく。</p> <p>第4回 周術期事例患者の看護過程④（関連図と看護問題） 連図、看護問題の明確化、看護問題の優先順位についての記載内容・方法を理解できる。看護過程③に基づき、関連図・看護問題の明確化と優先順位についてグループメンバーとの協同学習により共有し完成させる。（グループディスカッション） 【事前学修】各自でグループディスカッションに向けて関連図、看護問題の明確化、看護問題の優先順位についてグループメンバー説明できるように準備しておく。 【事後学修】グループディスカッションでの内容を理解し、個人で関連図、看護問題の明確化、看護問題の優先順位について完成させておく。</p> <p>第5回 周術期事例患者の看護過程⑤（看護計画） 看護計画についての記載内容・方法を理解できる。看護過程④に基づき、関連図・看護問題の明確化と優先順位、看護計画についてグループメンバーとの協同学習により共有し、関連図・看護問題の明確化と優先順位、看護計画（グループで看護問題の優先順位1位のみ）を完成させる。（グループディスカッション） 【事前学修】各自でグループディスカッションに向けて関連図・看護問題の明確化と優先順位、看護計画についてグループメンバー説明できるように準備しておく。 【事後学修】個人で関連図・看護問題の明確化・看護問題の優先順位・看護計画のファイルを完成し、次回の授業前に提出する。</p> <p>第6回 周術期事例患者の看護過程⑥（実践についての観察と記録について講義・演習） 看護実践と観察に必要な視点と記録について理解できる。SOAPとリフレクションの記載ができる。 【事前学修】看護過程講義資料を熟読しておく。 【事後学修】授業内容を踏まえて各自で看護計画の見直しをする。</p> <p>第7回 周術期事例患者の看護過程⑦（グループディスカッション） 周術期事例患者の看護過程①-⑤を踏まえ、グループで関連図・看護問題の明確化と優先順位を基に、事例患者への「呼吸訓練」と「離床訓練」の援助について看護計画の立案に向け、手順や留意点を共有しながらディスカッションを行う。 【事前学修】周術期事例患者の情報のアセスメント-看護計画立案（看護課程③-⑤）について自己の考えを説明できるように準備しておく。 【事後学修】グループディスカッションを踏まえ、個人で事例患者への「呼吸訓練」と「離床訓練」の援助について看護計画の立案をしておく。</p> <p>第8回 周術期事例患者の看護過程⑧（呼吸・離床訓練の計画立案） 周術期事例患者の看護過程⑦のグループディスカッションを基に、事例患者への「呼吸訓練」と「離床訓練」の援助について、グループでの看護計画を立案する。 【事前学修】周術期事例患者の看護過程⑦でのグループディスカッションの内容を踏まえ、個人で事例患者への「呼吸訓練」と「離床訓練」の援助について立案している看護計画を基に自己の意見を説明できるようにまとめておく。 【事後学修】周術期事例患者の看護過程⑦-⑧を通して、事例患者への「呼吸訓練」と「離床訓練」の援助について、グループで1つの看護計画を立案し提出する。</p> <p>第9回 術前看護「術前オリエンテーション」</p>

	<p>事前に個人で考えてきた周術期の事例患者に対する術後の回復促進に向けた援助として、「呼吸訓練」と「離床訓練」の援助の必要性と方法についてグループディスカッションを行い実践する。</p> <p>【事前学修】各自でグループディスカッションに向けて「離床訓練」と「呼吸訓練」の援助の必要性と方法について事前課題レポートを完成しておく。 【事後学修】演習後に個人の事前課題レポートに追加修正を加え、次回の授業前に提出する。</p>
第10回	<p>術直後の観察（シミュレーション）</p> <p>「術直後の観察」の必要性・内容・実践について理解できる。看護課程⑤で完成させた看護計画に基づき、周術期の事例患者に対するシミュレーション「術直後の観察」に向けて、グループでディスカッションを行い実践する。（ブリーフ、シミュレーション、デブリーフィング）</p> <p>【事前学修】各自でグループディスカッションに向けて「術直後の観察」について実践ができるように事前課題レポートを完成しておく。 【事後学修】演習後に事前課題レポートに追加修正を加え、次回の授業前に提出する。</p>
第11回	<p>術直後の観察（シミュレーション）プレゼンテーション</p> <p>術直後の観察（シミュレーション）で実践したブリーフィング、シミュレーション、デブリーフィングを振り返り、グループでまとめた内容をプレゼンテーションする。</p> <p>【事前学修】グループでのプレゼンテーションができるように準備しておく。 【事後学修】グループのプレゼンテーション内容の提出と術直後の観察（シミュレーション）の個人の学びのレポートを提出する。</p>
第12回	<p>術後1日目の観察後の初回歩行（シミュレーション）</p> <p>「術後1日目の観察後の初回歩行」の必要性・内容・実践について理解できる。看護課程⑤で完成させた看護計画に基づき、周術期の事例患者に対するシミュレーション「術後1日目の観察後の初回歩行」に向けて、グループでディスカッションを行い実践する。（ブリーフ、シミュレーション、デブリーフィング）</p> <p>ブリーフィング、1回目シミュレーション、デブリーフィング</p> <p>【事前学修】各自でグループディスカッションに向けて「術後1日目の観察後の初回歩行」について実践ができるように事前課題レポートを完成しておく。 【事後学修】演習後に事前課題レポートに追加修正を加え、次回の授業前に提出する。</p>
第13回	<p>術後1日目の観察後の初回歩行（シミュレーション）プレゼンテーション</p> <p>術後1日目の観察後の初回歩行（シミュレーション）で実践したブリーフィング、シミュレーション、デブリーフィングを振り返り、グループでまとめた内容をプレゼンテーションする。</p> <p>【事前学修】グループでのプレゼンテーションができるように準備しておく。 【事後学修】グループのプレゼンテーション内容の提出と術直後の観察（シミュレーション）の個人の学びのレポートを提出する。</p>
第14回	<p>退院支援計画について、講義・グループディスカッション</p> <p>周術期の事例患者に対する退院支援に必要な視点と計画立案について、講義とグループディスカッションを通して理解できる。グループで退院支援計画を立案する。</p> <p>【事前学修】事例について退院時に必要な支援内容と支援方法の意見を事前課題レポートに個人でまとめておく。 【事後学修】グループで退院支援計画を立案した用紙に追加修正を加え、次回の授業に持参する。</p>
第15回	<p>退院支援計画に基づいた援助（看護実践）</p> <p>第14回にてグループで立案した退院支援計画を実践する。 本科目のまとめ</p> <p>【事前学修】自己の考えをグループメンバー説明できるように準備しておき、グループで退院支援計画を立案した用紙に追加修正を加え持参する。 【事後学修】グループで実践した退院支援計画に基づいた援助についてのSOAP記録レポートと本科目の学びのレポートを提出。</p>
定期試験	<p>※授業の状況により授業計画が変更となる場合があります。</p>

講義科目名称： 老年看護学演習

授業コード： 53203700

英文科目名称： Gerontological Nursing Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	必修
担当教員			
南部 登志江、梅崎 かおり			
開講曜限	授業形態		
火3、4	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■3-3 適切な看護技術を実践できる</p> <p>■4-3 安全・安楽に看護を実践できる</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>本科目では、グループワークなどを含む演習を中心に、高齢者への看護展開に必要な既習の知識を統合し、実践する方法を学ぶ。</p> <p>老年期特有の発達課題について振り返り、紙上事例をもとに高齢者の看護過程を展開する。アセスメント、看護診断、援助計画立案、援助の実際について演習を行う。</p> <p>高齢者の生活機能、意思尊重の視点からアセスメントし、様々な背景をもつ「生活する高齢者」の支援に必要なコミュニケーション能力や援助技術を学ぶ。</p>
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識（理解）：老年期特有の発達課題、高齢者の日常生活等について、高齢者の視点に立って説明できる。 2. 思考・判断：看護過程展開の意義を確認し、事例のアセスメントの視点を説明できる。 3. 態度（関心・意欲）：事例の看護過程展開に意欲的に取り組み、老年看護への関心を高める。 4. 技能（表現）：高齢者疑似体験、食事と栄養、アクティビティケアなどの演習を通して高齢者の日常生活維持についての具体的な援助方法について述べるができる。 5. 思考・判断と技能（表現）：高齢者特有の事例をもとにその人らしさや生活の質について考察し、討議できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>能動的に進めることが主体であり、提示される課題（事前・事後を含む）を自身やグループメンバーと計画性を持って進める。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>Microsoft Teamsを使用し、授業内容や課題を配信したり、グループワークや個別の相談を行う。各自使用できるか確認しておく。</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>課題は個人ワークとして進めつつ、グループワークにて共有を行う。発表はグループで行う。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>課題レポート（提出物）、定期試験（筆記）、受講態度を総合的に判断して評価する。</p> <p>【割合】</p> <p>課題レポート（提出物）40%、定期試験（筆記）50%、受講態度10%</p> <p>受講態度は積極的な姿勢を特に評価する。</p>
教科書・テキスト	<p>亀井智子編：根拠と事故防止からみた老年看護技術 第3版、医学書院、2022</p> <p>奥野茂代・大西和子監修、百瀬由美子編：老年看護学 概論と看護の実践 第6版、ヌーベルヒロカワ、2023</p> <p>山田律子編：生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図 第3版、医学書院、2023</p>
参考書	<p>上記でその都度紹介されたもの及び各自が活用可能な教科書</p> <p>2年次に使用した看護課程のテキスト、参考書、資料など</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>個人及びグループでの時間外学修が重要である。グループ内では各自の役割を果たさないと他者への迷惑となる。</p> <p>学ぶべきことを計画的に組み立て、積極的に取り組むことが必要である。</p>
履修上の留意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2コマ連続での内容が基本だが、開講日、時間や教室はグループ等により変更となる可能性がある。アナウンスや掲示、Aポータルでの連絡に注意すること。 2. 提出物は締め切り時間を過ぎたものは一切受け取らない。 3. 課題解決に向けて早期の自分自身の学習方法を見つけ、実施できることを望む。積極的に学び、考えることを期待する。
オフィスアワー	第1回ガイダンス時に説明をする。
課題に対するフィードバックの方法	複数教員で事前課題、継続課題、事後課題などをもとに指導する。再提出を求められる場合もある。
実務経験	<p>南部：看護師</p> <p>梅崎：看護師</p> <p>高井：看護師</p>
その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習は実習へ連動する科目である。看護過程の展開を熟知すること。また、自分に合ったテキストを図書館等で検索し、実習等に活用できる準備をすることを期待する。 2. 思考力を高めることが重要である。まずは自身で考えつつ、メンバーの視点も知って、自身の思考も深めてほしい。 3. グループワークでは、チームで問題解決に向かえるよう努力することを期待する。グループリーダー、サブリーダー、発表等の役割は積極的に担ってほしい。

	4. 実践内容は、確実に実践できるように準備を行うこと。	
授業の内容	第1回	<p>ガイダンス（シラバス確認、学習グループ確認 看護過程の展開） 看護過程の展開、学習内容の再確認を行う。ゴードンの枠組みの理解、事例の説明、紙上事例に基づき情報整理を行う。</p> <p>【事前学修】2年次に学んだ内容を一通り復習しておく。 【事後学修】事例をしっかりと読み、発達段階、疾患、看護についてテキストや2年次の授業の資料を読んで確認する。</p>
	第2回	<p>【講義・グループワーク】看護過程の展開 立案した計画に基づき情報の整理、アセスメントを行う。</p> <p>【事前学修】授業時間内にグループで共有すべき内容を整理しておく。 【事後学修】授業時間内にできなかった情報の整理、アセスメントを進める。</p>
	第3回	<p>【講義・グループワーク】看護過程の展開 立案した計画に基づき情報の整理、アセスメントを行う。</p> <p>【事前学修】授業時間内にグループで共有すべき内容を整理しておく。 【事後学修】授業時間内にできなかった情報の整理、アセスメントを進める。</p>
	第4回	<p>【講義・グループワーク】看護過程の展開 立案した計画に基づき情報の整理、アセスメントを行う。</p> <p>【事前学修】授業時間内にグループで共有すべき内容を整理しておく。 【事後学修】授業時間内にできなかった情報の整理、全体像の把握、計画立案を進める。</p>
	第5回	<p>【講義・グループワーク】看護過程の展開：各自・各グループ計画に基づいた演習の実施 アセスメントを発表し、修正・追加を各自で進めつつグループで共有を行い、内容をブラッシュアップする。 全体関連図による全体像の把握 【事前学修】授業時間内にグループで共有すべき内容を整理しておく。 【事後学修】授業時間内にできなかった情報の整理、全体像の把握、計画立案を進める。次回の発表準備を行う。</p>
	第6回	<p>【講義・グループワーク】看護過程の展開 情報の分析、全体関連図による全体像の把握、看護計画の立案を行う。</p> <p>【事前学修】発表準備、全体で共有したり話し合いたいことをまとめておく。 【事後学修】発表での共有を踏まえ、全体像や計画の修正を行う。</p>
	第7回	<p>【講義・グループワーク】看護過程の展開 全体関連図について発表し、成果を共有し、各自の演習内容の見直しを行う。看護計画立案</p> <p>【事前・事後学修】発表での共有を踏まえ、全体像や計画の修正を行う。以後もグループでの共有を行い、第15回に立案した計画の最終発表を行う。</p>
	第8回	<p>【演習】高齢者疑似体験① 高齢者役を体験し、高齢者の視点、立場、身体機能の低下が及ぼす影響を理解する。</p> <p>【事前学修】既習の高齢者の特徴を復習し、課題用紙にまとめる。 【事後学修】学びの体験を記録用紙にまとめる。</p>
	第9回	<p>【演習】高齢者疑似体験② 援助者役を体験し、高齢者に必要な援助とその根拠、安全・安楽な環境を考える。</p> <p>【事前学修】既習の高齢者に対する援助を復習し、課題用紙にまとめる。 【事後学修】学びの体験を記録用紙にまとめる。</p>
	第10回	<p>【講義・演習】アクティビティケアの実際① アクティビティケアについての講義を受け、グループで1つのアクティビティケアを立案する。</p> <p>【事前学修】高齢者にとっての活動の意味を予習しておく。高齢者ケア施設や病院で実施できるようなアクティビティケアを考えておく。 【事後学修】グループでアクティビティケアを計画し、記録用紙にまとめる。</p>
	第11回	<p>【講義・演習】アクティビティケアの実際② グループで計画したアクティビティケアを実施し、評価する。</p> <p>【事前学修】既習の内容よりアクティビティケアの根拠や注意点を考えておく。 【事後学修】実施したアクティビティケアを評価し、記録用紙にまとめる。</p>
	第12回	<p>【講義・演習】食事と栄養① 高齢者の嚥下状態に合わせた食事内容、口腔ケアを考え、モデルを用いて実施する。</p> <p>【事前学修】既習の高齢者の食事と栄養に関する内容を見直し、記録用紙にまとめる。 【事後学修】既習の知識も踏まえつつ、摂食嚥下、口腔ケアの方法について記録用紙に記入する。</p>
	第13回	<p>【講義・演習】食事と栄養② 嚥下体操、経管栄養を行う。予習内容に沿って嚥下体操を体験する。 経管栄養法の種類や留意点を考え、モデルを用いた演習を行う。</p> <p>【事前学修】嚥下体操、経管栄養の目的と方法を記録用紙に記入する。 【事後学修】資料や体験からの学びを記録用紙にまとめる。</p>
	第14回	<p>【講義・グループワーク】看護過程</p>

第15回	<p>立案した看護計画を発表し、全体で共有する。計画評価について学ぶ。</p> <p>【事前学修】看護計画を発表し、意見交換、全体での共有できるように、内容の追加・修正する。 【事後学修】意見交換内容を共有、修正を行う。アクティビティケア立案、意見交換等から得られた知見は看護過程の計画立案にも反映させる。</p> <p>【講義・グループワーク】看護過程・まとめ 看護過程展開の理解、振り返り、まとめをする。</p> <p>【事前学修】看護計画を見直し、追加・修正する。 【事後学修】共有した内容を個人の計画に反映させ、提出する。</p> <p>定期試験</p>
------	---

講義科目名称： 小児看護学演習

授業コード： 53204210

英文科目名称： Child Health Nursing Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	必修
担当教員			
小島 賢子、西田 紀子			
開講曜限	授業形態		
水3、4	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■3-3 適切な看護技術を実践できる</p> <p>■4-3 安全・安楽に看護を実践できる</p>
---------	--

科目の概要・目的	「疾病治療論Ⅲ」、「小児看護学概論」、「小児看護学援助論」で学んだ知識をもとに、健康障害を持つ子どもと家族の看護について、看護問題を見出し、看護計画を立案する思考過程を学ぶ。また、子どもの発達段階や病状、日常生活の変化に応じた看護を実践するための基礎的技術や臨床判断の考え方を学び演習する。
----------	---

学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康障害を持つ子どもと家族の看護を実践するための思考過程を学ぶ 臨床判断に向けた対象理解の学習方法を学ぶ 子どもへの看護実践のための基礎的技術を習得する グループ学習方法を体験し、今後の実習に向けた学習方法を学ぶ
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護過程の展開、場面設定のもと小児看護技術の実施を行う際に、学生間で主体的に意見交換し理解を深めるために、Think pair (group) shareの技法を用いる。 4～5名程度のグループで達成するプロジェクト型課題として、シナリオ設定した事例に対する看護計画の立案と実施、評価を行う。 学生自身が学習の到達目標を意識し確認できるように、細分化したルーブリック評価表を活用する。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員学生間のコミュニケーションツールとして、Microsoft 365のTeams、Formsを利用する。 臨床実習で経時的に行う情報収集を疑似体験できるように、オンライン上で教育用電子カルテ「Medi-EYE」を用いて看護展開事例の情報を提示する。 子どもと家族という対象をリアルにイメージできるように、オンライン上でMedi-EYE連携の2D映像キットを用いて看護過程事例の映像を提示する。 既習事項の復習の資料としてオンライン上の動画を活用する。 <p>【その他特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ノートパソコンまたはタブレット端末を授業に各自で持参すること 小児看護技術演習は病院実習を想定して行うので、身だしなみを整えて集合すること 関連科目（「疾病治療論Ⅲ」、「小児看護学概論」、「小児看護学援助論」等）で学んだ知識をもとに演習を行う。教科書、参考資料を整理して、参照できる状態にして持参すること グループワークは個人の自修をもとに、主体的にグループへの貢献を意識して行うこと
-------	---

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>定期試験（筆記）、授業参加、態度、記録の提出状況</p> <p>【割合】</p> <p>定期試験（筆記）：50% 授業参加、態度、記録の提出状況：50%</p>
---------	---

教科書・テキスト	<p>ナーシンググラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護・・・看護過程事例・講義等</p> <p>ナーシンググラフィカ 小児看護学③小児の疾患と看護・・・看護過程事例・講義等</p> <p>パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護第2版・・・技術演習等</p> <p>※その他：適宜プリントなどを配布する。</p>
----------	---

参考書	<p>看護がみえる vol.4 看護過程の展開，メディックメディア</p> <p>看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ，メディックメディア</p> <p>カルペニート看護診断ハンドブック，医学書院</p> <p>発達段階から見た小児看護過程＋病態関連図 医学書院</p> <p>発達段階を考えたアセスメントにもとづく 小児看護過程 第2版，医歯薬出版</p> <p>看護観察のキーポイントシリーズ [改訂版] 小児Ⅰ，中央法規</p> <p>看護観察のキーポイントシリーズ [改訂版] 小児Ⅱ，中央法規</p> <p>*これら参考書は一例です。小児看護技術や小児看護過程や小児疾患や子どもとのコミュニケーションについて、教科書だけでなく、図書館などで様々な書籍を参考にしてください（疾患・治療については教科書だけの内容では不十分です。必ず雑誌「小児看護」の特集やより専門的な書籍を読むこと。）。</p>
-----	--

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> シラバスで次回授業内容を確認し、予習や課題を確実に行うこと 授業に連動させた記録等を課題とするので、期限を確認し提出すること
---------------------------	---

履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 小児看護学の看護過程と看護技術の2本立てです。基礎などで学んだ看護過程の展開、看護技術手技はできるものとして授業を進めます。不安のある場合はしっかり復習して臨んでください。 COVID-19の影響による変更についての情報は、A-Portalで行いますので注意してください。
----------	---

オフィスアワー	水曜日の授業後 *ただし出張や予定外の業務により不在であったり、対応が十分できないこともあります。できる限りアポをとるようにお願いします。変更がある場合は、授業で伝えます。
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリック評価表を用いる。 ・授業で取り上げ、説明を行う。
実務経験	看護師
その他	3年後期からはじまる小児看護学実習と非常に関連が深い科目です。実習の専修要件とはなる重要な科目であるとの認識で臨んでください。
授業の内容	<p>第1回 ガイダンス、小児看護過程の展開に必要な基本事項 <講義>担当：西田 ガイダンス：授業の進め方・電子カルテの使用 医療を受ける子どもの権利と必要な看護行為・小児看護ケアモデル 入院中に起こりやすい事故と安全な入院環境 入院中の子どもへの遊びの援助</p> <p>【事前学修】 看護過程の展開方法の復習（指定動画の視聴） 【事後学修】 電子カルテにアクセスし、構造を把握する。 課題：VS測定の計画・遊びの計画を記載する</p> <p>第2回 健康障害の把握1 <講義>担当：西田 小児に特有な健康障害の把握のために必要な病態の理解とデータ分析の方法 観察項目の明確化</p> <p><演習>担当：全員 (個人ワーク) 受け持ち患児記録1：健康障害の把握にそって、データ収集、分析を行い、観察項目を整理する。</p> <p>【事前学修】 事例の疾患の病態・治療について 小児のフィジカルアセスメント 既習事項の復習（参考となるテキスト・動画資料等を提示する） 【事後学修】 課題：受け持ち患児記録1を記入し提出・自己評価</p> <p>第3回 健康障害の把握2 <講義>担当：西田 病態関連図に書き方</p> <p><演習>担当：全員 (グループワーク) 疾患の理解を深める 病態関連図の作成を行う 観察項目について検討する</p> <p>【事前学修】 事例の疾患の一般的な病態関連図について 既習事項の復習（参考となるテキスト・動画資料等を提示する） 【事後学修】 課題①：受け持ち患児記録1を追加修正し再提出・自己評価 課題②：技術演習用記録（VS測定の行動計画）を記載し提出</p> <p>第4回 健康障害の把握3 <技術演習のガイダンス>担当：西田</p> <p><演習>担当：全員 (個人ワーク) 事例のVS・症状観察の記録（SOAP） (グループワーク) VS測定・症状観察の報告</p> <p>【事前学修】 事例の疾患の病態の再復習 既習事項の復習（参考となるテキスト・動画資料等を提示する） 【事後学修】 課題：事例のVS・症状観察の記録（SOAP）を完成させ提出・自己評価</p> <p>第5・6回 小児看護技術演習 <演習>担当：全員 バイタルサイン測定 安全な環境の整備 遊びの援助</p>

	<p>【事前学修】 VS測定計画・遊びの計画をもとに準備する 入院中に起こりやすい事故と安全な入院環境について復習する</p> <p>【事後学修】 技術演習記録を記載し提出 自己評価</p> <p>第7回 小児看護過程の展開（アセスメント） ＜講義＞担当：西田 小児特有のアセスメントのポイント</p> <p>＜演習＞担当：全員 （個人ワーク） 電子カルテ・映像から追加のデータを収集する 収集したデータのアセスメントをする</p>
	<p>【事前学修】 事例の年齢の発達段階 既習事項の復習（参考となるテキスト・動画資料等を提示する）</p> <p>【事後学修】 課題：アセスメントシートを記入し提出・自己評価</p> <p>第8回 小児看護過程の展開（全体像の把握・全体関連図の作成） ＜演習＞担当：全員 （グループワーク） アセスメントシートの内容を共有する 全体関連図の作成を行う</p>
	<p>【事前学修】 事例の疾患に対する一般的な看護について 既習事項の復習（参考となるテキスト・動画資料等を提示する）</p> <p>【事後学修】 課題：アセスメントシートを追記・修正して再提出・自己評価</p> <p>第9回 小児看護過程の展開（看護診断） ＜講義＞担当：西田 アセスメントの統合・看護診断のしかた・書き方</p> <p>＜演習＞担当：全員 （個人ワーク→グループワーク） アセスメントを統合し、看護問題・ニーズの優先順位を考える 全体像を把握し、看護の方向性を見出す</p>
	<p>【事前学修】 目標・成果・成果指標について 既習事項の復習（参考となるテキスト・動画資料等を提示する）</p> <p>【事後学修】 課題：グループで作成した全体関連図・看護診断リストを提出・自己評価</p> <p>第10・11回 小児看護過程の展開（看護計画の立案） ＜講義＞担当：西田 看護計画の立案 目標・成果・成果指標の設定の方法 O-P, C-P, E-Pの書き方 看護介入の実施・評価の記録方法</p> <p>＜演習＞担当：全員 （グループワーク） 受け持ち患児の全体像発表と看護の方向性について、カンファレンスを実施する グループで取り組む看護診断に対する目標・成果・成果指標を設定する 計画を具体的に立案する 必要な物（プレパレーションツールなど）を準備する</p>
	<p>【事前学修】 カンファレンスでの発表の準備 効果的なカンファレンスを実施するための学生の役割について 既習事項の復習（参考となるテキスト・動画資料等を提示する）</p> <p>【事後学修】 看護診断リストの記載と提出・自己評価 看護計画用紙を記載し提出・自己評価</p> <p>第12回 小児看護過程の展開演習（看護介入の実施1） ＜演習＞担当：全員 （グループワーク） 看護介入の実施シミュレーションの準備・リハーサルを行う</p> <p>【事前学修】 計画を具体的に実施できる状態まで準備する。 既習事項の復習（参考となるテキスト・動画資料等を提示する）</p> <p>【事後学修】 看護介入の実施シミュレーション準備・自己評価</p> <p>第13・14回 小児看護過程の展開演習（看護介入の実施） ＜演習＞担当：全員</p>

	<p>看護介入を実施する（グループ毎のシミュレーション）</p> <p>第13・14回 小児看護過程の展開演習（看護介入の実施2） <演習>担当：全員 看護介入を実施する（グループ毎のシミュレーション）</p> <p>【事前学修】 具体的な実施手順の確認、練習 【事後学修】 課題：実施記録を記載し提出・自己評価</p> <p>第15回 まとめ 看護展開全体のまとめ 定期試験について 小児看護学実習時に向けての準備・注意点について説明</p> <p>【事前学修】 看護過程全体の振り返り 【事後学修】 授業全体の復習</p> <p>定期試験</p>
--	--

講義科目名称： 母性看護学演習

授業コード： 53204600

英文科目名称： Women's Health Nursing Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	必修
担当教員			
森川 真美、新增 有加			
開講曜限	授業形態		
金3、4	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■3-3 適切な看護技術を実践できる</p> <p>■4-3 安全・安楽に看護を実践できる</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>妊娠・分娩・産褥・新生児期の母子および家族への看護を展開する上で必要なウェルネス看護診断や、母性看護過程について理解する。また母性看護の事例を提示し、看護計画の立案練習を行う。</p> <p>さらに妊婦・産婦・褥婦・新生児および家族に対する生活援助や保健指導の必要性を理解し、基本的な母性看護技術を習得する。最終的には、母性看護学実習に向けての必要な知識の整理と、技術の習得を目指す。</p>
学習到達目標	<p>①妊娠・分娩・産褥・新生児期の看護過程の展開方法について理解できる</p> <p>②妊娠・分娩・産褥・新生児期に必要な看護技術が習得できる</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>第3, 5, 7, 11, 13回の授業では、事前課題内容に関して、グループワークやディスカッションを通し、各自課題を仕上げる。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1～8, 11～13回は、ウェルネス看護診断や母性の看護過程の展開方法について講義や課題学習、個別指導を行う。 ・第9, 10, 14, 15回は、実習室でモデルを使用し、母性看護学実習で必須の技術項目を中心に技術演習を行う。
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>課題レポート、定期試験（筆記）</p> <p>【割合】</p> <p>定期試験：課題レポート40%、定期試験（筆記）60%</p> <p>追試験：課題レポート40%、追試験（筆記）60%</p> <p>再試験：再試験（筆記）100%</p>
教科書・テキスト	<p>太田操 ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程 第4版 医歯薬出版</p> <p>荒木奈緒他 ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 メディカ出版</p> <p>森恵美他 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院</p>
参考書	<p>前原澄子 新看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅰ 中央法規</p> <p>前原澄子 新看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅱ 中央法規</p> <p>森恵美他 系統看護学講座 専門分野 母性間学概論 母性看護学1 医学書院</p> <p>仁志田博司 新生児学入門 第5版 医学書院</p> <p>佐世正勝他 ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図 第3版 医学書院</p> <p>平澤美恵子他 新訂版 写真でわかる母性看護技術 インターメディカ</p> <p>櫛引美代子 カラー写真で学ぶ新生児の観察と看護技術 第2版 医歯薬出版</p> <p>櫛引美代子 カラー写真で学ぶ周産期の看護技術 第2版 医歯薬出版</p> <p>櫛引美代子 カラー写真で学ぶ妊産褥婦のケア 第2版 医歯薬出版</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>ライフサイクル論・母性看護学援助論で学習した内容を基に授業を行うため、過去の授業内容を復習しておく。</p> <p>初回授業時に配布する「褥婦の観察ポイント」「新生児の観察ポイント」を自分なりにまとめ、毎回の授業に持参する。</p> <p>授業前は教科書を読み予習し、授業終了後は課題を行う（詳細は授業の内容を参照）。</p>
履修上の留意事項	<p>母性看護学実習に必要な知識や技術の習得を目指すため、課題や技術演習には積極的に取り組むこと。</p>
オフィスアワー	<p>特に定めないので必要時、母性領域の教員研究室を訪問、又はメールで日程調整</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>提出課題の添削、個別指導など</p> <p>※課題レポートの提出内容で、補足指導が必要な学生は、授業時間以外に補講する場合がある</p>
実務経験	<p>助産師、看護師</p>
その他	<p>特になし</p>
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等）、ウェルネス看護診断について（解説）</p> <p>教科書「ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程」「母性看護学各論」を必ず持参すること。</p> <p>【事前学修】 シラバスを読む。「ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程」p.2～34を読む。</p> <p>【事後学修】 「ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程」p.2～34を読み返しなが、授業スラ</p>

第2回	<p>イドを理解する。</p> <p>看護過程の展開① 初産婦</p> <p>初産婦の母子事例の看護過程の展開を受講生各自で行う。教員は個別サポートを行う。 教科書「ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程」「母性看護学各論」、2年生の講義資料（母性看護学援助論など）を必ず持参すること。 【事前学修】「ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程」p.77～97とp.125～137を読み、用語や基準値の復習を行う。 【事後学修】初産婦の母子事例の看護過程の展開（情報整理、アセスメント、看護診断、計画立案）</p>
第3回	<p>看護過程の展開① 初産婦（解説）</p> <p>初産婦の母子事例のレポートを仕上げ持参する。レポート内容をグループでディスカッション後、教員が初産婦の母子事例について解説を行う。 受講生は各自のレポートに追加修正を行い、授業終了時に提出する。 教科書「ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程」「母性看護学各論」、2年生の講義資料（母性看護学援助論など）を必ず持参すること。 【事前学修】初産婦の母子事例の看護過程の展開（情報整理、アセスメント、看護診断、計画立案） 【事後学修】褥婦の観察ポイント・新生児の観察ポイント（別紙）を用いて、用語や基準値の整理を行う。</p>
第4回	<p>看護過程の展開② 経産婦</p> <p>経産婦の母子事例の看護過程の展開を受講生各自で行う。教員は個別サポートを行う。 教科書「ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程」「母性看護学各論」、2年生の講義資料（母性看護学援助論など）を必ず持参すること。 【事前学修】「ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程」p.98～114を読み、用語や基準値の復習を行う。 【事後学修】経産婦の母子事例の看護過程の展開（情報整理、アセスメント、看護診断、計画立案）</p>
第5回	<p>看護過程の展開② 経産婦（解説）</p> <p>経産婦の母子事例のレポートを仕上げ持参する。レポート内容をグループでディスカッション後、教員が経産婦の母子事例について解説を行う。 受講生は各自のレポートに追加修正を行い、授業終了時に提出する。 教科書「ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程」「母性看護学各論」、2年生の講義資料（母性看護学援助論など）を必ず持参すること。 【事前学修】経産婦の母子事例の看護過程の展開（情報整理、アセスメント、看護診断、計画立案） 【事後学修】褥婦の観察ポイント・新生児の観察ポイント（別紙）を用いて、用語や基準値の整理を行う。</p>
第6回	<p>看護過程の展開③ 帝王切開術後</p> <p>帝王切開術後の母子事例の看護過程の展開を受講生各自で行う。教員は個別サポートを行う。 教科書「ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程」「母性看護学各論」、2年生の講義資料（母性看護学援助論など）を必ず持参すること。 【事前学修】「ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程」p.115～124を読み、用語や基準値の復習を行う。 【事後学修】帝王切開術後の母子事例の看護過程の展開（情報整理、アセスメント、看護診断、計画立案）</p>
第7回	<p>看護過程の展開③ 帝王切開術後（解説）</p> <p>帝王切開術後の母子事例のレポートを仕上げ持参する。レポート内容をグループでディスカッション後、教員が帝王切開術後の母子事例について解説を行う。 受講生は各自のレポートに追加修正を行い、授業終了時に提出する。 教科書「ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程」「母性看護学各論」、2年生の講義資料（母性看護学援助論など）を必ず持参すること。 【事前学修】帝王切開術後の母子事例の看護過程の展開（情報整理、アセスメント、看護診断、計画立案） 【事後学修】褥婦の観察ポイント・新生児の観察ポイント（別紙）を用いて、用語や基準値の整理を行う。</p>
第8回	<p>看護過程の展開④ 妊婦</p> <p>妊婦事例の看護過程の展開を受講生各自で行う。教員は個別サポートを行う。 教科書「ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程」「母性看護学各論」、2年生の講義資料（母性看護学援助論など）を必ず持参すること。 【事前学修】「ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程」p.36～49を読み、用語や基準値の復習を行う。 【事後学修】妊婦事例の看護過程の展開（情報整理、アセスメント、看護診断、計画立案）</p>
第9回	<p>技術演習（新生児）</p> <p>教科書「ナーシング・グラフィカ 母性看護技術」を必ず持参すること。 実習着に更衣し、5号館2階の実習室に集合。 第9回と第10回は、同日に連続2コマで行う。 AクラスとBクラスは別日程で行う。 【事前学修】「ナーシング・グラフィカ 母性看護技術」p.174～228を読む 【事後学修】事後レポート（用紙は授業中に配布）の作成</p>
第10回	<p>技術演習（新生児）</p> <p>教科書「ナーシング・グラフィカ 母性看護技術」を必ず持参すること。 実習着に更衣し、5号館2階の実習室に集合。 第9回と第10回は、同日に連続2コマで行う。 AクラスとBクラスは別日程で行う。 【事前学修】「ナーシング・グラフィカ 母性看護技術」p.174～228を読む 【事後学修】事後レポート（用紙は授業中に配布）の作成</p>
第11回	<p>看護過程の展開④ 妊婦（解説）</p> <p>妊婦事例のレポートを仕上げ持参する。レポート内容をグループでディスカッション後、教員が妊婦事例について解説を行う。 受講生は各自のレポートに追加修正を行い、授業終了時に提出する。</p>

	<p>教科書「ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程」「母性看護学各論」、2年生の講義資料（母性看護学援助論など）を必ず持参すること。 【事前学修】 妊婦事例の看護過程の展開（情報整理、アセスメント、看護診断、計画立案） 【事後学修】 妊婦の観察ポイントについて、用語や基準値の整理を行う。</p>
第12回	<p>看護過程の展開⑤ 産婦 産婦事例の看護過程の展開を受講生各自で行う。教員は個別サポートを行う。 教科書「ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程」「母性看護学各論」、2年生の講義資料（母性看護学援助論など）を必ず持参すること。 【事前学修】 「ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程」 p. 61～76を読み、用語や基準値の復習を行う。 【事後学修】 産婦事例の看護過程の展開（情報整理、アセスメント、看護診断、計画立案）</p>
第13回	<p>看護過程の展開⑤ 産婦（解説） 産婦事例のレポートを仕上げ持参する。レポート内容をグループでディスカッション後、教員が産婦事例について解説を行う。 受講生は各自のレポートに追加修正を行い、授業終了時に提出する。 教科書「ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程」「母性看護学各論」、2年生の講義資料（母性看護学援助論など）を必ず持参すること。 【事前学修】 産婦事例の看護過程の展開（情報整理、アセスメント、看護診断、計画立案） 【事後学修】 産婦の観察ポイントについて、用語や基準値の整理を行う。</p>
第14回	<p>技術演習（妊産褥婦） 教科書「ナーシング・グラフィカ 母性看護技術」を必ず持参すること。 実習着に更衣し、5号館2階の実習室に集合。 第14回と第15回は、同日に連続2コマで行う。 AクラスとBクラスは、別日程で行う。 【事前学修】 「ナーシング・グラフィカ 母性看護技術」 p. 18～170を読む 【事後学修】 事後レポート（用紙は授業中に配布）の作成</p>
第15回	<p>技術演習（妊産褥婦） 教科書「ナーシング・グラフィカ 母性看護技術」を必ず持参すること。 実習着に更衣し、5号館2階の実習室に集合。 第14回と第15回は、同日に連続2コマで行う。 AクラスとBクラスは、別日程で行う。 【事前学修】 「ナーシング・グラフィカ 母性看護技術」 p. 18～170を読む 【事後学修】 事後レポート（用紙は授業中に配布）の作成</p>
定期試験	

講義科目名称： 精神看護学概論

授業コード： 53204800

英文科目名称： Inroduction to Psychiatric Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	1	必修
担当教員			
杉山 敏宏			
開講曜限	授業形態		
月3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる</p> <p>■5-1 看護職者の役割が理解できる</p>
---------	--

科目の概要・目的	教科書および配布資料を適宜用いて、精神医療の歴史の変遷や精神保健福祉法など、精神看護に必要な基礎的知識について網羅的に学ぶ。
学習到達目標	<p>1)精神障害者の苦しみと精神看護学の基本的な考えかた、精神看護を実践する者としての視点や態度を学ぶ。</p> <p>2)精神の健康とは何か、精神の障害とは何かや、その定義やとらえ方を学ぶ。</p> <p>3)人の心の諸活動としくみ、各種の精神療法の基本的考え方や、人格の発達に関する代表的な理論を学ぶ。</p> <p>4)家族間のコミュニケーションや家族役割、集団のダイナミクス（集団力動）について学ぶ。</p> <p>5)精神を病む」体験とはどのようなものかや疾患という側面から精神障害を理解することを学ぶ。</p> <p>6)精神科における薬物療法や環境や人々の日常生活にはたらきかける治療（環境療法・社会療法）について学ぶ。</p> <p>7)精神疾患・障害とその治療の歴私的な流れや精神医学・精神医療の流れと法制度を学ぶ。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】なし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】なし</p> <p>【その他特記事項】なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】定期試験（筆記）、課題レポート</p> <p>【割合】定期試験（筆記）（70%）、課題レポート（20%）、小テスト（10%）</p>
教科書・テキスト	系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学1 精神看護の展開 精神看護学2
参考書	精神看護学 I 精神保健学/吉松和哉, 小泉典章, 川野雅資 【編】 (ヌーヴェルヒロカワ)
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	提示された課題レポートは、自分の考えに固執することなく、客観的に判断できるよう必ず参考文献を通してまとめること。
履修上の留意事項	授業中の私語、携帯電話・スマートフォン、内職は厳禁とする。
オフィスアワー	「火曜日 13時～16時」
課題に対するフィードバックの方法	講義の中や必要時、適時個々に指導する。
実務経験	看護師
その他	なし
授業の内容	<p>第1回 精神看護で学ぶこと [心のケアと現代社会・精神看護学で学ぶ事とその課題・精神障害の体験] 【事前学修】事前にテキスト全体を読んでおくこと 【事後学修】授業で学習したことをノートにまとめ、学びとすること</p> <p>第2回 精神保健の考え方 [精神の健康とは・精神障害のとらえかた・ストレスと危機・心的外傷と回復] 【事前学修】事前にテキストの指定ページを熟読すること 【事後学修】授業で学習したことをノートにまとめ、学びとすること</p> <p>第3回 人間のはたらきとパーソナリティー [人間の心の諸活動・心のしくみと人格の発達] 【事前学修】事前にテキストの指定ページを熟読すること 【事後学修】授業で学習したことをノートにまとめ、指定のレポート課題に活用すること</p> <p>第4回 関係のなかの人間 [全体としての家族・人間と集団] 【事前学修】事前にテキストの指定ページを熟読すること 【事後学修】授業で学習したことをノートにまとめ、小テストに活用すること</p> <p>第5回 精神科で出会う人々 [精神症状・精神障害の診断と分類（統合失調症、気分障害、神経症性障害他）] 【事前学修】事前にテキストの指定ページを熟読すること 【事後学修】授業で学習したことをノートにまとめ、学びとすること</p>

	<p>第6回 精神科での治療 [薬物療法・電機けいれん療法・精神療法・環境療法・社会療法] 【事前学修】 事前にテキストの指定ページを熟読すること 【事後学修】 授業で学習したことをノートにまとめ、学びとすること</p> <p>第7回 社会のなかの精神障害 [治療の歴史・日本における精神医療・精神障害と文化、社会学、法制度] 【事前学修】 事前にテキストの指定ページを熟読すること 【事後学修】 授業で学習したことをノートにまとめ、学びとすること</p> <p>第8回 まとめ 【事前学修】 第7回まで、学習したことを振り返りながら、再度学習すること 【事後学修】 試験に向けて、授業で学習したことなど、ノートにまとめて備えること</p> <p>定期試験 試験までにわからないことは、必ず質問して理解しておくこと</p>
--	--

講義科目名称： 精神看護学演習

授業コード： 53205000

英文科目名称： Psychiatric Nursing Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	必修
担当教員			
杉山 敏宏、高橋 建司			
開講曜限	授業形態		
木3、4	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■3-3 適切な看護技術を実践できる</p> <p>■4-3 安全・安楽に看護を実践できる</p>
---------	--

科目の概要・目的	精神における看護援助を多角的な面より捉える。障がいの面だけにスポットをあてるのではなく、心をより豊かにするためには、現在何が求められているのか、何が必要なかを心理面からも探り学習する。また、精神看護におけるコミュニケーション技法を学び、プロセスレコードを作成し振り返りを入れながら基礎的知識の確立を養う。また、POS(患者志向・問題志向)の理念を導入し、SOAP(ソープ)の記述方法を学び患者理解につなげる。さらに、現在看護場面においても活用されつつある代替療法や、自己を知ることが出来る内観療法の理解を深めその学びを看護実践場面に生かす。
----------	--

学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 精神を病むとは極めて特別なことなのか、その基本的な原点に立ち精神看護を理解することができる。 2) 精神科の医療現場を授業で正しく理解し、本来あるべき患者中心の精神医療を理解することができる。 3) 精神科病院、病棟の特長と治療の関係性について学ぶことができる。 4) オレムのセルフケア理論についての理解を深め精神疾患を抱える患者のケアレベルの査定、アセスメントができる。 5) 他者とのコミュニケーション技法にはどのようなものがあるかを言うことができる。 6) 表情看護から読み取る、非言語的コミュニケーションを応用することができる。 7) プロセスレコードについての理解を深めることができ、患者-看護師関係のアセスメントができる。 8) 精神疾患の事例を通して、疾患の理解を深め看護実践能力を高め自分の看護観を育むことができる。 9) 精神科における看護が患者中心であるために、POS(患者志向・問題志向)を学び患者理解につなげる。 10) SSTについて基本的なことを理解し、患者の回復を支援するためにどのような場面で活用できるかを学ぶ。 11) 身体拘束がなぜ必要なのか、さらに身体拘束の際に考えられる障害や事故について学ぶ。 12) 内観療法とは、自分の内面を客観的にみることであり、本来の自分を知ることができる。 13) 日本発祥の内観療法から世界のナイカンに発展し、看護の医療現場でも効果を上げている事実を学ぶ。
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 グループワークやディベートを講義で1/2行う。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 なし</p> <p>【その他特記事項】 なし</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験(筆記)、課題レポート、発表態度</p> <p>【割合】 定期試験(筆記)(50%)、課題レポート(20%)、発表態度(ロールプレイ含む)(30%)</p>
---------	--

教科書・テキスト	系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学②
----------	------------------------

参考書	<p>「表情看護のすすめ」 平澤久一 監修 (メディアカ出版)</p> <p>看護実践に活かすプロセスレコード 阪本恵子 編著 (廣川書店)</p> <p>精神看護学 学生-患者のストーリーで綴る実習展開 田中恵美子 編著 (医歯薬出版株式会社)</p> <p>精神看護学 実践看護技術学習支援テキスト 監修/野嶋佐由美 (日本看護協会出版会)</p> <p>オレムのセルフケアモデル 事例を用いた看護過程の展開 宇佐美しおり/鈴木啓子/Patricia Underwood [著者]</p> <p>(発行所 スーヴェルヒロカワ)</p> <p>内観で<自分>と出会う 長島正博/長島美稚子【著】 (春秋社)</p>
-----	--

授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	授業テーマによっては、事前に調べてくるように指示を出して、講義や演習の中で意見をフィードバックする。また、提示する課題レポートに関しては、参考文献などを通して調べ自分の考えを述べること。
---------------------------	---

履修上の留意事項	講義及び演習中の私語、携帯、スマートフォンの操作は厳禁とする。
----------	---------------------------------

オフィスアワー	「火曜日 13時~16時」
---------	---------------

課題に対するフィードバックの方法	講義の中や必要時、適時個々に指導する。
------------------	---------------------

実務経験	看護師
------	-----

その他	なし
-----	----

授業の内容	<p>第1回 授業オリエンテーション(授業の進め方、成績評価方法等)・患者理解とオレムのセルフケア理論について(講義)</p> <p>【事前学修】精神科で生活面を援助する上で必要なオレムのセルフケア理論について自分なりに</p>
-------	--

	調べること 【事後学修】授業の演習、実習などで使用するのによく理解できるようにノートなどにまとめること
第2回	精神科ケアの方法、コミュニケーション技法をまなぶ（講義） 【事前学修】コミュニケーションとは何かを考え、言語、非言語の使用頻度の割合を事前に調べ臨むこと 【事後学修】コミュニケーションは表情から読み取る表情看護がありその技法を授業から習得すること
第3回	プロセスレコード(1)（講義） 【事前学修】事前にプロセスレコードとは何かについて考え、テキストを熟読して授業に臨むこと 【事後学修】実習場面で使用するプロセスレコードを、自分なりに理解できるようにしておく
第4回	「演習」：プロセスレコードの展開（2） 【事前学修】前週の授業を復習し、基礎実習Ⅱで、体験した患者さんとの関わりを振り返っておくこと 【事後学修】基礎実習Ⅱの患者さんとの関わりで困った場面や、印象に残った場面を再度見直すこと
第5回	オレムのセルフケア理論に沿った看護過程の展開について（講義） 【事前学修】講義まえに前もって資料を渡すので、翌週の講義までに熟読しておくこと 【事後学修】講義から、オレムのセルフケア理論に沿った看護展開について理解を深め振り返りをすること
第6回	精神科の看護経過記録、SOAP(ソープ)について(1)（講義） 【事前学修】講義まえに前もって事前に資料を、渡すので翌週の講義までに熟読しておくこと 【事後学修】看護・医療場面で使われるSORPと精神科本来のSORPの理解を深め、振り返りをしておくこと
第7回	「演習」：精神科の看護経過記録、SOAP(ソープ)で実践（2） 【事前学修】SORPで記入する意味を考え実際の実習場面に応用できるように振り返りをしておく 【事後学修】事例問題から、自分の理解度を確認しながら、演習を通して書けるようにすること
第8回	SST(社会生活技能訓練)（講義・演習） 【事前学修】事前に教科書等で、SSTについて学習しておくこと 【事後学修】講義・演習を通して学んだことを、実際に実習で活かせるように理解しておくこと
第9回	身体拘束について（講義・演習） 【事前学修】事前に教科書等で、身体拘束について学習して、講義後の拘束体験に活かすこと 【事後学修】演習を通して、実習場面で拘束されている患者理解に活かせるように学習しておくこと
第10回	「演習」：統合失調症の事例（1） 急性期患者のケース 【事前学修】事前に教科書、精神看護の基礎の統合失調症について学習しておくこと 【事後学修】事例を通して、学びを深め実習場面に活かせるように学習しておくこと
第11回	「演習」：統合失調症の事例（2） 慢性期患者のケース 【事前学修】事前に教科書、精神看護の基礎の統合失調症について学習しておくこと 【事後学修】事例を通して、学びを深め実習場面に活かせるように学習しておくこと
第12回	「演習」：統合失調症の事例（3） 退院支援における患者のケース 【事前学修】事前に教科書で、躁状態、鬱状態について学習しておくこと。 【事後学修】事例を通して、学びを深め実習場面に活かせるように学習しておくこと
第13回	「演習」：双極性障害の患者事例 【事前学修】事前にテキストで、躁状態、鬱状態について再度学習しておくこと 【事後学修】事例を通して、学びを深め実習場面に活かせるように学習しておくこと
第14回	「演習」：アルコール依存症の事例 【事前学修】アルコール依存症とは、どのような病気かを、テキストで再度学習しておくこと 【事後学修】事例を通して、身近にあるアルコール依存症者の理解を深めるようにすること
第15回	「演習」精神療法：ミニ内観体験、総まとめ 【事前学修】日本から、世界のナイカンになぜ繋がり、様々な場面に使われているか現状を理解すること 【事後学修】定期試験に向かって、学習したことを理解しておくこと
定期試験	試験までにわからないことは、必ず質問して理解しておくこと

講義科目名称： 在宅看護学実習

授業コード： 53205500

英文科目名称： Home Visit Nursing Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	2	必修
担当教員			
奈古 由美子、中村 晶子、寺田 准子、巽 夕起、中島 千英子			
開講曜限	授業形態		
	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■3-3 適切な看護技術を実践できる</p> <p>■4-3 安全・安楽に看護を実践できる</p>
---------	--

科目の概要・目的	在宅療養者とその家族の健康課題や生活課題に応じた在宅看護を理解する。また、同時に必要な社会資源を理解するとともに地域包括ケアシステムの構築における看護者の役割について学ぶ。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 在宅療養者とその家族を生活者として捉えることができる。 在宅療養者とその家族のニーズに対しての看護が理解できる。 訪問看護活動をとおして、看護師の役割が理解できる。 療養者を支える地域包括ケアシステムの構築における保健医療福祉の連携や協働の必要性について理解できる。 看護師の責任性を自覚し、状況に応じた適切な行動をとることができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 なし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 なし</p> <p>【その他特記事項】 訪問看護ステーションを拠点とした臨地実習を実施する。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>《健康管理をふまえた出席状況・看護学生としての基本的姿勢と倫理的態度、実習目的・目標に即した看護実践、実習記録》 80%</p> <p>《最終レポート》 20%</p>
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・在宅看護の基盤／地域・在宅看護論1, 医学書院 ・地域・在宅看護の実践／地域・在宅看護論2, 医学書院
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・関連図で理解する在宅看護過程, 第2版, メヂカルフレンド社 ・写真でわかる訪問看護アドバンス, 第2版, インターメディカ ・地域・在宅看護過程, 第2版, 医学書院 <p>適宜紹介する。</p>
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	在宅看護学概論、在宅看護学援助論、在宅看護学演習での復習に加え、解剖生理学、病理病態学、疾病治療論、および社会保障制度も復習して実習に臨む。
履修上の留意事項	日常から看護学生としての基本的姿勢(自ら学ぶ姿勢、探求する姿勢、謙虚な姿勢)や倫理的姿勢(礼節、言葉づかい、他者の価値観に配慮できる心配り等)を培い、また感染予防対策を実施し自らの健康管理を十分におこない臨地実習に臨む。
オフィスアワー	実習学内日(1週目の月曜日と金曜日、2週目の金曜日)
課題に対するフィードバックの方法	実習記録は毎日必ず記載し、翌日に実習施設に提出できるようにしておくこと。学内日に受け持ち療養者の看護過程の指導を行う。
実務経験	<p>奈古：看護師・訪問看護師</p> <p>中村：保健師・訪問看護師</p> <p>寺田：看護師・訪問看護師</p> <p>巽：保健師・訪問看護師</p> <p>中島：保健師・家庭訪問</p>
その他	特記事項なし
授業の内容	<p>1日目 1週目の月曜日(学内)</p> <p>【オリエンテーション(学内初日)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習での守秘義務、個人情報の取扱いに関する誓約書を作成する。 ・在宅看護学実習の履修方法について説明を受け在宅実習記録および物品等の準備をおこなう。

	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護学実習を主体的に学ぶ為に必要な文献や資料の準備および各グループ間における役割を確認、準備する。 <p>【事前学修】・課題①事前学習ノートを持参し、実習指導担当教員に提出し確認を受ける。 ・課題②在宅看護学実習での自己目標（様式1）を実習指導担当教員に提出し確認を受ける。</p> <p>【事後学修】・翌日の実習について実習計画を立案する。</p>
2日目	<p>1週目の火曜日(臨地)</p> <p>【オリエンテーション(臨地初日)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習施設でオリエンテーションを受ける。 ・在宅看護学実習での自己目標を発表する。 ・受け持ち療養者の紹介を受け、情報収集や情報整理を行う。 ・同行訪問をする。 <p>【事前学修】・翌日の実習内容を確認する。 ・訪問する療養者の情報収集を行い、実習計画を立案する。</p> <p>【事後学修】・本日の実習記録を記載し考察を行う。 ・わからない点について学習を行う。 ・受け持ち療養者の看護過程の展開を始める。</p>
3日目	<p>1週目の水曜日(臨地)</p> <p>【臨地2日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の実習目標を発表し、訪問看護師と同行訪問する。 <p>【事前学修】・翌日の同行訪問の実習計画を立案する。 ・療養者の情報についてわからない点は学習しておく。</p> <p>【事後学修】・本日、訪問した療養者に関する実習記録を記載し考察をする。 ・受け持ち療養者の看護過程の展開を進めていく。 ・わからない点を学習しておく。 ・確認することを明確にしておく。</p>
4日目	<p>1週目の木曜日(臨地)</p> <p>【臨地3日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の実習目標を発表し、訪問看護師と同行訪問する。 ・受け持ち療養者の看護過程の展開を進めるにあたり、わからない点はその日のうちにカルテからの情報や訪問看護師から指導を受ける。 <p>【事前学修】・翌日の同行訪問の実習計画を立案する。 ・療養者の情報についてわからない点は学習しておく。</p> <p>【事後学修】・本日、訪問した療養者に関する実習記録を記載し考察をする。 ・受け持ち療養者の看護過程の展開を進めていく。 ・わからない点を学習しておく。 ・確認することを明確にしておく。</p>
5日目	<p>1週目の金曜日(学内)</p> <p>【学内2日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち療養者の情報を整理し、アセスメントを行い、関連図作成、看護計画を立案し、翌週のカンファレンスに向けた発表の準備を行う。 <p>【事前学修】・受け持ち療養者の情報についてわからないことを明確にしておく。</p> <p>【事後学修】・受け持ち療養者の看護過程の展開を行い、実習記録を整え、カンファレンスの準備を行う。 ・今日まで実習で学んだことをまとめておく。</p>
6日目	<p>2週目の月曜日(臨地)</p> <p>【臨地4日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習目標を発表し、訪問看護師と同行訪問する。 ・中間カンファレンスで受け持ち療養者の要約と関連図と看護計画を発表し、実習指導者より指導を受ける。 <p>【事前学修】・同行訪問の実習計画を立案する。</p> <p>【事後学修】・カンファレンスでの実習指導者の指導を踏まえ、受け持ち療養者の関連図と看護計画を補足、修正を行う。</p>
7日目	<p>2週目の火曜日(臨地)</p> <p>【臨地5日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習目標を発表し、訪問看護師と同行訪問する。 <p>【事前学修】・同行訪問の実習計画を立案する。</p> <p>【事後学修】・本日の実習記録を記載し考察を行う。 ・受け持ち療養者に訪問し、看護計画を実践した場合は実施内容と考察、評価を行う。 ・レポート作成に向けて在宅看護学実習のまとめを行っていく。</p>
8日目	<p>2週目の水曜日(臨地)</p> <p>【臨地6日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習目標を発表し、訪問看護師と同行訪問する。 <p>【事前学修】・実習計画を立案する。</p> <p>【事後学修】・本日の実習日誌、受け持ち療養者以外の記録を仕上げる。 ・受け持ち事例の看護支援計画の評価を記入する。 ・翌日の最終カンファレンスに向けて、レポートを作成する。</p>
9日目	<p>2週目の木曜日(臨地)</p>

10日目	<p>【臨地7日目／最終日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習目標を公表し、訪問看護師と同行訪問する。 ・最終カンファレンスで受け持ち療養者の看護計画の評価を行う。また、実習を通しての学びの発表を行い、実習指導者より指導を受ける。学びのレポートは指導者に提出する。 <p>【事前学修】 ・在宅看護学実習の学びのレポートを作成する。</p> <p>【事後学修】 ・本日の実習記録、受け持ち療養者の看護過程を整理する。 ・すべての実習記録を整理し、学内の最終カンファレンスの準備をする。</p> <p>2週目の金曜日(学内)</p> <p>【学内3日目／最終日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終カンファレンスにて実習での学びを個別に発表する。 ・在宅看護学実習における貸与物品や資料の返却と整理 ・最終レポート(実習施設・学内)の提出 ・在宅看護学実習室の整理、清掃 <p>【事前学修】 ・すべての実習記録を整理し、実習指導者や実習指導担当教員からのコメントに返答を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わからない点に関しては調べておく。 ・最終カンファレンスの発表内容について準備をする。 ・作成過程にあるレポートに修正や追加を行う。 <p>【事後学修】 ・実習記録をまとめ、最終レポートとともに17時までに担当教員のメールボックスに提出する。</p>
------	---

講義科目名称： 看護管理学

授業コード： 53205600

英文科目名称： Nursing Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	1	必修
担当教員			
横田 香世、富村 英実			
開講曜限	授業形態		
火3、4	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■5-1 看護職者の役割が理解できる</p> <p>■5-2 多職種と連携・協働について理解できる</p>
---------	--

科目の概要・目的	看護管理論の講義では、保健・医療組織の一員として看護を提供する者に必要な「マネジメント」「リーダーシップ」を基本に講義を行う。看護専門職者としての基本的な「マネジメント」について学ぶ。
----------	--

学習到達目標	<p>1) マネジメントとリーダーシップの違いを説明できる。</p> <p>2) 看護マネジメントの必要性を理解し説明できる。</p> <p>3) 看護サービスの質の評価の概念を理解し、説明できる。</p>
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】講義内容についてテキストや資料を用いて事前学習を行い、主体的に授業に参加し学修する。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】なし</p> <p>【その他特記事項】なし</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】課題レポート、定期試験(筆記)</p> <p>【割合】課題レポート50%、定期試験(筆記)50%</p>
---------	---

教科書・テキスト	医学書院 看護の統合と実践 [1] 「看護管理」
----------	--------------------------

参考書	特に指定しない
-----	---------

授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	シラバスにある講義内容を事前に読み込み、参加すること。
---------------------------	-----------------------------

履修上の留意事項	遅刻・欠席をしないこと。授業中は、携帯電話は使用しないこと。
----------	--------------------------------

オフィスアワー	講義日 12:10~13:00
---------	-----------------

課題に対するフィードバックの方法	各授業ごとに振り返りを行い、質問に答える。
------------------	-----------------------

実務経験	看護管理者、慢性疾患看護専門看護師
------	-------------------

その他	特になし
-----	------

授業の内容	<p>第1回 テキスト第1章「看護とマネジメント」【横田】 看護におけるマネジメントの変遷とこれから求められることについて考えることができる。 【事前学修】看護におけるマネジメントの変遷について調べる。 【事後学修】講義の振り返りを行い、看護におけるマネジメントの変遷とこれから求められることについてまとめる。</p> <p>第2回 テキスト 第5章「マネジメントに必要な知識と技術」【横田】 マネジメントの概念および、リーダーシップとマネジメントについて理解ができる。 【事前学修】マネジメントの概念および、リーダーシップとマネジメントについて事前に学習する。 【事後学修】講義の振り返りを行い、リーダーシップとマネジメントについてまとめる。</p> <p>第3回 テキスト第4章「看護サービスのマネジメント」①【横田・富村】 リーダーシップとマネジメントについて理解する。看護サービス提供のためのしくみについて理解できる。 【事前学修】リーダーシップとマネジメント、看護サービスについて事前に学習する。 【事後学修】講義を振り返り、リーダーシップとマネジメント、看護サービスについてまとめる。</p> <p>第4回 テキスト第4章「看護サービスのマネジメント」②【横田・富村】 看護サービスのマネジメントの対象と範囲について理解する。看護サービス提供のためのしくみについて理解できる。 【事前学修】看護サービスのマネジメントの対象と範囲について事前に調べる。 【事後学修】講義を振り返り、看護サービス提供のためのしくみについてまとめる。</p>
-------	--

第5回	<p>テキスト第2章「看護ケアマネジメント」【富村】 看護ケアのマネジメントについて理解するとともに、患者の権利をまもるための概念について理解を深める。</p> <p>【事前学修】看護ケアのマネジメントについて事前に調べる。 【事後学修】講義を振り返り、看護ケアのマネジメントについてまとめる。</p>
第6回	<p>テキスト第3章「看護職のキャリアマネジメント」【富村】 看護職として社会で仕事をしていくためのキャリアマネジメントについて理解できる。</p> <p>【事前学修】キャリアマネジメントについて調べる。 【事後学修】講義を振り返り、自己のキャリアデザインについて考える。</p>
第7回	<p>テキスト第6章「看護を取り巻く諸制度」【横田】 看護や看護職の定義や法・制度について整理することができる。</p> <p>【事前学修】看護や看護職の定義や法・制度について調べる。 【事後学修】講義を振り返り、看護や看護職の定義や法・制度について理解を深める。</p>
第8回	<p>「看護職の職業倫理」【横田】 看護業務と職業倫理について、なぜ重要なのかグループでディスカッションを行い、理解を深め、統合実習につなげることができる。</p> <p>【事前学修】看護業務と職業倫理について調べる。 【事後学修】看護業務と職業倫理について、なぜ重要なのかグループでディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>定期試験</p>

講義科目名称： 統合実習

授業コード： 53205700

英文科目名称： Integration Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	2	必修
担当教員			
横田香世, 相澤里香, 小島賢子, 南部登志江, 塩野徳史, 新增有加, 藤原尚子, 西田紀子, 森川真美, 吉井紀子, 田中亮子, 柏原寛美, 野口寿美子, 三浦恭代, 友澤満地子, 高橋建司, 清岡美和子			
開講曜日	授業形態		
	演習		
添付ファイル			

DPとの関連	■看護学科■ ■5-1 看護職者の役割が理解できる ■5-3 多職種と連携・協働できる
--------	--

科目の概要・目的	既修得知識、技術、態度、倫理観を統合し、看護チームの一員としての臨床実務に即した実習を通して、適切な看護の提供とマネジメントの方法を学ぶ。 また、保健・医療・福祉の協働・連携における看護職の調整と役割、責任を理解し、総合的に看護実践ができる能力を養う。
学習到達目標	1. これまでに学習した知識、技術、態度を基に、臨床実務に近い実習を体験し統合する意味と必要性の理解を説明できるようになる。 2. 複数の患者を同時に受持ち、複数の援助を判断し適切に実践できるようになる。 3. 医療安全の基本的な考えと行動の理解を深め、事故防止の方法を学び活用できるようになる。 4. 患者への継続的看護や管理業務の体験、学習を通して、チーム医療の進め方、多職種との協働、連携の方法を理説明できるようになる。 5. 入退院支援の業務を体験し、地域との連携・協働について説明できるようになる。また、地域包括ケア支援センターの役割について説明できるようになる。 6. 管理業務の学習、見学を通して管理者やスタッフの役割を理解し、リーダーシップやメンバーシップを含む看護マネジメントの基礎的能力を身につけることができるようになる。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 実習前に事前学習を行い、資料を作成して実習に臨む。実習内容について日々振り返りを行い、理解を深める。実習内容について記録を行い、適宜指導教員や実習指導者に指導を受ける。実習を通して、総合的に看護実践ができる能力を養う。 【ICTを利用した双方向授業】 学内実習では遠隔授業やDVDを用いた授業を行い、臨地実習で学べなかった内容について補足する。 【その他特記事項】 なし
成績評価の方法	【評価項目】 事前課題、実習（実習態度、実習記録、実習目標）に対する達成度 【割合】 事前課題15%、実習85%（実習態度、実習記録、実習目標）に対する達成度を総合的に評価する。
教科書・テキスト	特に指定しない
参考書	必要時、指示、紹介する。
授業時間外の学習について（事前・事後学習について）	実習開始までに、下記のテーマで事前学習する。その内容をもとに見学実習を行なう。 テーマ：看護管理の理解 1. 看護管理の基本（組織、人、物、看護ケア） 2. 管理職の業務、役割 3. 看護ケアマネジメントについて 4. 医療安全の確保と医療事故への対応 5. チーム医療、病院内の医療チーム、他職種との連携・協働の方法 6. 地域包括システムと地域包括ケアセンターの役割 7. 入退院支援室の役割
履修上の留意事項	実習中の行動 ・実習中は常に、看護チームの一員として看護師と行動を共にする。 ・一勤務帯を通じた実習を理解、想定し、臨床業務のプロセスの中で必要な基礎的知識と技術、判断力などを総合的に経験し学ぶ。 ・援助の優先順位の考え方、時間管理の必要性についてなど看護師が看護実践する際の思考過程の説明を受け、実践し理解を深める。
オフィスアワー	学内実習日
課題に対するフィードバックの方法	実習期間中、日々学生指導行いながら質問に答えフィードバックする。
実務経験	看護師（慢性疾患看護専門看護師） 看護管理者
その他	特になし
授業の内容	1) 実習期間： A Bクラス；令和6年6月19日（水）～6月28日（金）

	<ul style="list-style-type: none">(1) 履修ガイダンス (4月)(2) 実習前ガイダンス (5月)(3) 実習初日ガイダンス (実習初日) <p>3) 実習の進め方</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 看護管理実習：事前課題を基に見学・考察し理解を深める。看護師長レベルの管理業務、チームリーダーやスタッフレベルのマネジメントに関し説明を受け見学、一部実施する。(2) 実習初期より複数の患者を受持ち、看護過程を展開しながら効率的な看護援助の方法を学ぶ。
--	--

講義科目名称： 看護研究の基礎 I（方法論）

授業コード： 53205900

英文科目名称： Basics in Nursing Study I (Methodology)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	必修
担当教員			
塩野 徳史			
開講曜限	授業形態		
土3、4	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■6-1 医療の最新の知識を理解できる</p> <p>■6-2 知識を入手する技術を持つことができる</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>これまで学修してきた看護技術など看護実践は、症状や疾患などの健康問題よりも、その人の全体像に関心を向け、見出された健康上の問題を、すでに知られている知識を利用して解決することであった。一方で本科目で学修する「看護研究」とは、一つの健康に関する現象、焦点化された問題に対して、新しい知識の獲得や共通性・法則性を見出すことにある。</p> <p>看護学の発展には、看護職者が直面する現場で常に〈実践への問い〉を持ち続け、探求し続けていくことが必要になる。「看護研究」とは〈実践への問い〉に対する回答のひとつであり、看護の専門性に立脚し、対象の健康上の問題に届くものである。本科目では、4年次に開講される「看護研究の基礎Ⅱ」に向けて、看護研究の基礎になる原理と法則を理解し、研究計画を作成する過程で、問題探求能力や問題解決能力を醸成する。</p>
----------	---

学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の目的と意義について説明できる。 2. 看護研究の基礎的なプロセスについて説明できる。 3. 文献検索の目的と方法を理解し、実践できる。 4. 文献のクリティークの方法を理解し、実践できる。 5. 研究の倫理的配慮の必要性について説明できる。 6. 研究デザイン・データの収集・分析方法について説明できる。 7. 「看護研究の基礎Ⅱ」に向けて自身の研究課題を見出し、研究計画書を作成できる。
--------	--

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>講義形式と演習（グループワーク）形式を組み合わせる。演習は個人ワークを基本としつつ、3人～4人のグループに分かれて実施する。詳細は初回のオリエンテーション時に説明する。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>4年次の看護研究に備えるためにも、リサーチクエスションや研究テーマを考える過程で、パソコンを用いて文献検索を行い、議論する。</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>知識習得を確認するために小テストを行う。</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>最終的な研究計画書の提出、および文献検索、課題レポート、小テストから総合的に判断する。</p> <p>【割合】</p> <p>研究計画書40%、文献検索10%、課題レポート20%、小テスト30%</p>
---------	--

教科書・テキスト	坂下玲子, 他：系統看護学講座 別巻 看護研究, 医学書院。
----------	--------------------------------

参考書	<p>黒田裕子：黒田裕子の 看護研究 Step by Step 第6版, 医学書院。</p> <p>足立はるゑ：改訂5版 看護研究サポートブック：研究計画書がラクラク完成！, メディカ出版。</p> <p>前田樹海：この1冊でできる！ はじめての看護研究, ナツメ出版。</p>
-----	---

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>各授業の学習に際し、事前課題の実施、授業後の振り返りを行い、学習内容の修得に努めてください。そのために講義前後に各60～90分の自己学習を必要とします。グループワークで個人が主体的に学ぶことが基本となります。特に自分自身のリサーチクエスションや研究テーマを見出すためには、臨地実習や技術演習での体験、保健統計学や疫学等で学んだ知識を活用し、関心を持って見つめなおすことも必要になります。</p>
---------------------------	--

履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習では主体的に考える個人の学習が基本です。提示された課題、事前学習は必ず指示された日時までに行ってください。 ・講義演習の出席は「出席カード」で確認します。 ・講義中の携帯電話・スマートフォンなどは指示がある場合を除いて、原則、使用禁止とします。 ・講義ではPCを活用します。自分自身のノートPCを持参して参加してください。USBなどのデータ保存媒体も準備して参加してください。 ・講義は4月・5月・6月・7月の土曜日に行います。開講日・開講時間を間違えないようあらかじめ確認してください。 ・新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの感染状況や、教室の規模、受講者数を総合的に考慮し、感染対策（マスク着用や手指消毒など）を講じた上で対面授業を行います。各自、体調管理には十分に注意し、健康管理に注意してください。
----------	---

オフィスアワー	塩野徳史：講義・会議のない月曜から木曜日、9時～16時の間であればいつでもお越しください。 場所：5号館 研究室102
---------	--

課題に対するフィードバックの方法	<p>講義演習で提出したレポート類は返却します。看護計画の作成に役立ててください。</p> <p>また、質問や理解が難しい箇所がある場合には、そのままにせず、可能な限りオフィスアワーやメール等で事前に日程を調整してから、お越しください。</p>
------------------	--

実務経験	看護師
------	-----

その他	<p>「研究」では看護職者のみならず、教育者や研究者、時には患者自身が協力して、看護ケアの現場で何が起きているのか、それはなぜなのか、看護ケアの知識や技術は実際に患者やその家族の状態を改善しているのかなど、一つ一つの疑問に答える努力を積み重ねていくのが「看護研究」です。</p> <p>卒業後、看護職として一定の経験を積んだ看護師は「看護研究」に取り組むことがあります。看護研究の目的は「将来の看護の発展に役立てること」ですが、「研究」に取り組むことで、現場の課題を深く考える力や客観的にとらえる力も身につきます。</p>	
授業の内容	<p>第1-2回</p> <p>第3-4回</p> <p>第5-6回</p> <p>第7-8回</p> <p>第9-10回</p> <p>第11-12回</p> <p>第13-15回</p>	<p>看護研究とは何か *オリエンテーション これまでの看護実践を振り返り、看護や対象者に関心を持つことを再確認する。そして看護研究の目的・意義を概観し、看護研究の始め方としてグループワークを通してリサーチクエスト決定までのプロセスを体験し、自分自身でリサーチクエストを考え、学びを深める。</p> <p>【事前学習】テキスト序章・第1章・第2章を熟読し、これまでの看護実践を振り返る。 【事後学習】講義やグループワークでの内容を活用し、看護研究ワークシート①を作成する。</p> <p>情報を探索し、吟味する 看護研究を進めるにあたり、先行研究などの情報の種類と探索方法を学び、自分自身のリサーチクエストや研究テーマに関連した文献を検索する。そして文献のクリティークの方法を学び、実際に文献レビューを行う。その内容についてグループワークを通して意見交換することにより、学びを深める。</p> <p>【事前学習】前回の講義内容を振り返り、テキスト第3章・第12章を熟読し、文献検索を自分なりに実施する。 【事後学習】講義やグループワークでの内容を活用し、オープンリソースから文献検索を行い、各文献を要約する。</p> <p>看護デザインと研究方法① 質的調査 看護における研究デザインの多様性（目的や方法の違い）を知り、自分自身のリサーチクエストや研究テーマに沿って研究デザインを選択する手法を学習する。質的研究と量的研究の外観を知り、第5-6回では質的研究デザインについて学習する。演習形式を取り入れ、実際に質的研究のプロセスを体験する。</p> <p>【事前学習】前回の講義内容を振り返り、検索した文献をクリティークする。テキスト第5章・第6章・第7章を熟読し、第9章 演習11 課題1の質的研究を読み、理解が難しい点を考えてくる。 【事後学習】講義やグループワークでの内容を活用し、看護研究ワークシート②を作成する。</p> <p>看護デザインと研究方法② 量的調査 看護における研究デザインの多様性（目的や方法の違い）を振り返り、自分自身のリサーチクエストや研究テーマに沿って研究デザインを選択する。第5-6回では量的研究デザインについて学習する。質問紙の作成やデータの種類とその違い、データの収集のプロセスについて、演習形式を取り入れ、体験する。</p> <p>【事前学習】前回の講義内容を振り返り、検索した文献をクリティークする。テキスト第5章・第6章・第7章を熟読し、第9章 演習11 課題2の量的研究を読み、理解が難しい点を考えてくる。 【事後学習】講義やグループワークでの内容を活用し、看護研究ワークシート②を修正し、完成させる。</p> <p>研究計画書を作成する① *小テスト これまでの講義で見出した自分自身のリサーチクエストや研究テーマを焦点化し、研究計画を立案する方法を学習する。研究計画書の作成過程において、書式に従って記載することで、研究者は自分自身の考えのあいまいな点や問題点を自ら見出し、他者に伝えたり、適切な助言を受けることができる。それはより洗練された、論理的な研究計画の立案につながる。そのため、一般的な書式を学習し、自分自身の研究計画書の作成につなげる。 また、引用文献の提示方法（APAスタイル・バンクーバー方式）についても学習する。 最終的に提出する研究計画書の書式および評価方法を説明する。</p> <p>【事前学習】テキスト第8章・第9章を熟読し、これまでに収集した自分自身のリサーチクエストや研究テーマに関する有益な文献をクリティークする。小テストに向けて、これまでの学習内容を振り返る。 【事後学習】講義の内容を活用し、研究テーマを明確にし、先行研究としてまとめ、研究計画書を作成する。</p> <p>研究における倫理的配慮 研究における倫理的配慮の原則、遵守すべき倫理原則と擁護すべき権利について学び、研究における依頼と同意の方法を学び、依頼書・同意書を作成する手法を学ぶ。グループワークを通して、自分自身の研究計画を他者に説明し、倫理的配慮の必要な内容を明確にする。</p> <p>【事前学習】テキスト第4章を熟読し、これまでに収集した文献の中で該当する箇所を抽出する。 【事後学習】講義やグループワークでの内容を活用し、作成している研究計画書を修正・加筆する。</p> <p>研究計画書を作成する② *小テスト これまでの講義内容を振り返り、4年次に開講される「看護研究の基礎Ⅱ」に向けて、書式に基づいて研究計画書をPCで作成する。</p> <p>【事前学習】前回の講義やグループワークの内容を振り返り、研究計画書を見直し、修正する。小テストに向けて、これまでの学習内容を振り返る。 【事後学習】自分自身の研究テーマに沿って、研究計画書を作成し、提出する。</p>

講義科目名称： 看護研究の基礎Ⅱ（卒業研究）

授業コード： 53206000

英文科目名称： Basics in Nursing Study II (Graduation Thesis)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 通年	4	2（通年）	必修
担当教員			
小島 賢子 他			
開講曜限	授業形態		
木1	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■6-1 医療の最新の知識を理解できる</p> <p>■6-3 学び続ける態度を身に付ける</p>
---------	--

科目の概要・目的	看護研究の基礎Ⅰで学習した研究の原理と方法に基づいて、看護に関連するテーマを自ら設置すると共に、文献検索・文献検討したうえで、研究目的を達成するために実現可能な研究計画書を作成できる。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護に関連するテーマを設定できる。 2. 文献検索・クリティークを通して、批判的な思考力を修得できる。 3. 研究目的を達成するために実現可能な研究計画書を作成できる。 4. 看護研究活動を続けていく上での基本的態度を修得できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 なし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 なし</p> <p>【その他特記事項】 なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>「看護研究の基礎Ⅱ」の評価表に示す評価項目に基づき指導教員が行う。</p>
教科書・テキスト	随時紹介する。
参考書	随時紹介する。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	3年前期で学習した看護研究の基礎Ⅰについて各自で復習しておくこと
履修上の留意事項	課せられた課題について、前向きに、積極的に取り組むこと
オフィスアワー	ゼミ担当教員と調整すること
課題に対するフィードバックの方法	課題については添削して返却する。
実務経験	看護師、保健師、助産師
その他	特になし
授業の内容	<p>各教員が担当するため、各教員の指示に従うこと。最終的に、「研究計画書」を作成し、提出する。</p> <p>【事前学修】 看護研究の基礎Ⅰ（方法論）を復習し、卒業研究に取り組む。</p> <p>【事後学修】 担当教員から定期的に指導を受ける。</p>

講義科目名称： 医療安全管理論

授業コード： 53206200

英文科目名称： Manegement of Patient Safety

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	必修
担当教員			
横田 香世、富村 英実			
開講曜限	授業形態		
火5	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■4-3 安全・安楽に看護を実践できる</p>
---------	--

科目の概要・目的	医療安全における基本的な知識、および看護職の責務と役割、医療現場における危険の予知と回避、および事故防止などの安全対策の理論と方法について演習を加えながら講義する。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全の基本的な知識や看護職のリスク特性を説明できる。 ・ヒューマンエラーの知識を活かした事故防止策について説明できる。 ・事故報告の意味と必要性について説明できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 講義内容についてテキストや資料を用いて事前学習を行い、課題について調べて主体的に学修に参加する。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 なし</p> <p>【その他特記事項】 なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 課題レポート、定期試験(筆記)</p> <p>【割合】 課題レポート50%、定期試験(筆記) 50%</p>
教科書・テキスト	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践(2)：医療安全 第3版 松下 由美子 編著 メディカ出版
参考書	・ナースのための危険予知トレーニングテキスト 杉山 良子著 株式会社メディカ出版
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	日常のヒューマンエラー、臨地実習での経験を基にした事前課題に取り組んでから授業に参加する。予習においてはテキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。
履修上の留意事項	テキスト上の関連動画がある場合は視聴できるようにアプリのダウンロード等を推奨する。遅刻・欠席はしないこと。携帯電話は授業中は使用しないこと。
オフィスアワー	講義日 12:10～13:00
課題に対するフィードバックの方法	課題について調べてレポートを提出する。レポート内容についてコメントをしフィードバックする。また、各授業毎に振り返りを行い質問に対して答える。
実務経験	看護師(慢性疾患看護専門看護師) 看護管理者
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 医療安全と看護の理念【横田】 医療安全を学ぶことの重要性を理解できる。 【事前学修】医療安全を学ぶことの重要性について事前に調べる。 【事後学修】講義を振り返り、医療安全の重要性についてまとめる。</p> <p>第2回 医療安全への取り組みと医療の質の評価【横田・富村】 医療安全の取り組みについて理解できる。医療の質の評価の必要性について理解をできる。 【事前学修】医療安全の取り組みおよび質の評価について事前に調べる。 【事後学修】講義を振り返り、医療安全の取り組みおよび質の評価についてまとめる。</p> <p>第3回 事故発生メカニズムとリスクマネジメント【横田・富村】 ヒューマンエラーのメカニズムとリスクマネジメントについて理解できる。 【事前学修】ヒューマンエラーのメカニズムとリスクマネジメントについて事前に調べる。 【事後学修】講義を振り返り、ヒューマンエラーのメカニズムとリスクマネジメントについてまとめる。</p> <p>第4回 チームで取り組む安全文化の醸成【横田・富村】 安全対策には患者・家族の協同が必要であることを理解することができる。 【事前学修】安全対策には患者・家族の協同が必要なのか事前に調べる。 【事後学修】講義を振り返り、安全対策には患者・家族の協同が必要であることを自分の考えを含め、まとめる。</p> <p>第5回 看護業務に関連する事故と安全対策【横田・ゲストスピーカー】 看護業務に関わる医療事故の背景、要因。対策について学び、グループでディスカッションをしながら安全対策の重要性についてを考えることができる。 【事前学修】看護業務に関わる医療事故の背景、要因について事前に調べる。</p>

第6回	<p>【事後学修】講義を振り返り、看護業務に関わる医療事故の背景、要因を理解する。医療従事者の安全を脅かすリスクと対策／医療事故後の対応【横田・ゲストスピーカー】</p> <p>医療従事者の安全を脅かすリスクと対策について考えることができる。</p> <p>感染に対する標準予防策について理解することができる</p> <p>【事前学修】感染に対する標準予防策と感染経路別予防対策及び医療事故後の対応について調べる。</p>
第7回	<p>【事後学修】講義を振り返り、感染に対する標準予防策と感染経路別予防対策および医療事故後の対応についてまとめる。</p> <p>在宅看護における医療事故と安全対策（横田）</p> <p>在宅看護における医療事故と安全対策について理解できる。</p> <p>【事前学修】在宅での医療事故について調べる。</p> <p>【事後学修】在宅での医療安全と事故後の対応についてまとめる。</p>
第8回	<p>看護学生の実習と安全【横田】</p> <p>実習中の事故予防および事故発生時の学生の対応について学び、実習が安全にできる。</p> <p>【事前学修】実習中の事故予防および事故発生時の学生の対応について調べる。</p> <p>【事後学修】講義を振り返り、実習中の事故予防および事故発生時の学生の対応についてまとめる。</p>

講義科目名称： チーム医療論

授業コード： 53206310

英文科目名称： Introduction to Interdisciplinary Teamcare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	必修
担当教員			
横田 香世、辻 多重子、黒川 浩美、高田 守康			
開講曜限	授業形態		
月2 土1、2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■5-2 多職種と連携・協働について理解できる</p> <p>■5-3 多職種と連携・協働できる</p>
---------	---

科目の概要・目的	チーム医療論の講義では、社会情勢とチーム医療の変遷を基に、異種のメディカルスタッフ及び保健・福祉職が連携・協働する必要性を概論と各論で講義する。栄養学科との合同授業を行い、多職種連携カンファレンスでディスカッションを行い、チーム医療の必要性の理解を深める。キーワードは「コミュニケーション」「情報の共有化」「チームマネジメント」「チーム医療」。
学習到達目標	<p>院内および地域におけるチーム医療の必要性を理解し説明できる。</p> <p>1. チーム医療の中における他の専門職の役割を理解し、看護職者の役割について説明できる。</p> <p>2. チーム医療の連携・協働の実際について理解し説明できる。</p> <p>3. 事例を用いて多職種連携カンファレンスを体験し、問題抽出、アセスメント、対策についてチームで考え、まとめことができる。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】講義内容についてテキストや資料を用いて事前学習を行い、課題について調べて主体的に学修に参加する。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】遠隔講義・質疑応答</p> <p>【その他特記事項】なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】定期試験（レポート）、グループワーク、発表</p> <p>【割合】定期試験（レポート）50%、グループワーク30%、グループ発表20%</p>
教科書・テキスト	医学書院 看護の統合と実践 [1] 「看護管理」
参考書	必要時指示、紹介する
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	シラバスにある講義内容に関連した内容について事前学習を行い、自らの意見をもって出席すること。
履修上の留意事項	携帯は事業中はマナーモードもしくはOFFにすること。遅刻、欠席をしないこと。
オフィスアワー	講義日 14:30~17:00
課題に対するフィードバックの方法	課題について調べレポートを提出する。レポート内容についてコメントをし、返却する。また、質問に対して各授業毎に答える。
実務経験	看護師（慢性疾患看護専門看護師） 看護管理者
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 「看護管理」テキスト第2章 チーム医療の歴史および概念、意義、IPE/IPW</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療の歴史および概念、意義について説明できる。 ・IPE/IPWについて理解できる。 <p>【事前学修】 チーム医療の歴史および概念、意義について事前に調べる。 【事後学修】 講義を振り返り、チーム医療の歴史および概念、意義についてまとめる。</p> <p>第2回 医療専門職者に求められる役割とチーム医療を促進するためのスキル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療をめぐる動向と医療専門職者に求められる役割を説明できる。 ・チーム医療を促進するためのコアスキルについてまとめ、説明できる。 ・管理栄養士の役割について理解できる。 <p>【事前学修】 チーム医療をめぐる動向と医療専門職者に求められる役割について調べる。 【事後学修】 講義を振り返り、チーム医療をめぐる動向と医療専門職者に求められる役割についてまとめる。</p> <p>第3回 多職種連携における看護師の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例紹介：糖尿病の疾患の理解と看護について理解する。 <p>【事前学修】 糖尿病の疾患と看護について事前学習する。 【事後学修】 事例について具体的な看護についてまとめることができる。</p>

第4回	<p>多職種連携によるチームでの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NSTの実際（健康栄養学科の講義） ・入院時から退院後の生活について理解し、「その人が望む生活」への支援を多職種連携による医療チームで考えることができる <p>【事前学修】入院時から退院時の生活を見据えた支援とはどのようなことか事前に調べる。 【事後学修】講義を振り返り、多職種連携による入退院支援についてまとめる。</p>
第5回	<p>効果的なチーム形成1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニケーション」「情報の共有化」「チームマネジメント」について理解できる。 ・チーム医療に必要なスキルを用いて効果的なチーム形成について学び、スキルを用いたグループディスカッションを体験し、多職種連携の必要性を理解する。 <p>【事前学修】「コミュニケーション」「情報の共有化」「チームマネジメント」について事前に調べる。 【事後学修】講義を振り返り、「コミュニケーション」「情報の共有化」「チームマネジメント」についてまとめる。</p>
第6回	<p>効果的なチーム形成2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスに必要なファシリテーター技術について理解する。 ・ファシリテーター技術を用いて、事例についてディスカッションし、問題の明確化、アセスメント、対応策をグループで考えることができる。 <p>【事前学修】チーム医療に必要なスキルについて復習して授業に参加する。 【事後学修】講義を振り返り、カンファレンスにおけるファシリテーターの役割について理解する。事例について話し合った内容を各自まとめる。</p>
第7回	<p>チーム連携・協働、相互支援1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療における連携・協働および相互支援の必要性を説明できる。 ・チーム医療に関連した事例の個別分析およびグループディスカッションによる問題点の明確化、多職種で対応策について話し合い、まとめる。 <p>【事前学修】チーム医療における連携・協働および相互支援の必要性について事前に調べる。 【事後学修】講義やグループディスカッションを振り返り、チーム医療における連携・協働および相互支援の必要性について理解する。</p>
第8回	<p>チーム連携・協働、相互支援2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療における連携・協働および相互支援の必要性を説明できる。 ・チーム医療に関連した事例の個別分析およびグループディスカッションによる問題点の明確化、多職種で対応策についてまとめ、発表する。 <p>【事前学修】多職種連携、ファシリテーター技術等今までの講義で学んだことを整理して授業に臨む。 【事後学修】事例をグループでディスカッションし、どのようなケアが必要か、専門職それぞれがどのような役割を果たすことで患者や家族を支援できるかグループでまとめ発表する。</p> <p>定期試験（レポート）</p>

講義科目名称：ターミナルケア

授業コード：53206600

英文科目名称：Terminal Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	必修
担当教員			
相澤 里香、南部 登志江、西田 紀子、奈古 由美子			
開講曜限	授業形態		
月4	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■2-1 対象者のQOLについて考えることができる</p> <p>■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる</p>
---------	---

科目の概要・目的	終末期患者の身体的・心理的特徴について理解し、その生活を支援するための看護援助と終末期の患者を支える家族への援助と看取り後のケアについて学ぶと共に、終末期ケアに関する理論的側面、インフォームドコンセントなどを含めた看護職の役割について理解する。また子ども、壮年期、高齢者などのライフサイクル別に終末期ケアの特徴を理解し、それぞれの特徴に応じた看護援助について学ぶ。
学習到達目標	<p>1-2 ガイダンス・成人期にある人のターミナルケア</p> <p>3-4 老年期にある人のターミナルケア①高齢者のターミナルケアの目的を説明できる②高齢者のターミナルケアの実際が説明できる③終末期における看護師の役割を説明できる④ターミナルケアにおける家族の支援方法について説明できる</p> <p>5-6 小児期にある児のターミナルケア</p> <p>①小児の発達段階各期における死の概念について説明できる。</p> <p>②ターミナル期にある子どもと家族の反応について説明できる。</p> <p>③ターミナル期の子どもと家族のニーズと援助について、自己の考えを述べるができる。</p> <p>7-8 在宅看護におけるターミナルケア</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>ジグソー法を用いたグループワークを実施する</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>授業内レポート</p> <p>【割合】</p> <p>100%</p>
教科書・テキスト	なし
参考書	授業時に紹介する。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	死生観について考えてみてください。
履修上の留意事項	ディスカッションに積極的に参加してください
オフィスアワー	各研究室：月曜日昼休み
課題に対するフィードバックの方法	授業中あるいはレポートへのコメントでフィードバックする。
実務経験	担当教員4名とも看護職者
その他	なし
授業の内容	<p>第1回</p> <p>*ガイダンスと緩和ケア概論（相澤）</p> <p>まず講義の導入として、近代ホスピスの母と呼ばれるシシリーソンダージズについて紹介するとともに、がん患者が抱える苦痛とQOL についてがん患者の臨床経過を示しながら説明する。復習になるが、全人的苦痛、キューブラロスの死ぬ瞬間より死にゆく人の心理的チャートについて説明し、望ましい死（Good Death）について考える。</p> <p>本題として緩和ケアとは何か。緩和ケアの定義、がん治療と緩和ケアとの関係等踏まえながら説明する。チームアプローチの必要性とチームの構成、緩和ケアを患者・家族に提供する方法、緩和ケア病棟の歴史と役割について振り返ってみる。また、がん診療連携拠点病院の役割と大阪府にあるがん診療連携拠点病院を紹介する。</p> <p>【事前学修】緩和ケアについてインターネットで調べてくる。</p> <p>【事後学修】授業内容について復習をする。</p>

第2回	成人期にある人のターミナルケア（相澤） 成人期の特徴を踏まえたターミナルケアについて概説する。 【事前学修】ターミナルケアについてインターネットで調べてくる。 【事後学修】授業内容について復習する。
第3回	老年期のターミナルケア1（南部） 老年期のターミナルケアについて概説する。 高齢者のエンドオブライフのとらえかた 【事前学修】高齢者の発達段階や課題についてライフサイクル論Ⅱのテキストを読んでくる 【事後学修】配付資料および小テストを確認する
第4回	老年期のターミナルケア2（南部） 老年期のターミナルケアについて概説する。 場の違いによるターミナルケア、家族のケア 【事前学修】ライフサイクル論Ⅱのテキストを読み、高齢者のターミナルの定義と特徴を調べてくる 【事後学修】配付資料および課題レポートをまとめる
第5回	小児期のターミナルケア1（西田） 小児期のターミナルケアについて概説する。 ・発達段階における死の概念 ・ターミナル期の子どもの反応と援助 ・ターミナル期の家族の反応と援助 ・グリーフケア 【事前学修】 ライフサイクル論Ⅰのテキスト、3-4終末期にある子どもと家族の看護、4-6在宅で終末期を迎えている子ども家族への看護を読んでくる。 【事後学修】 授業内容のキーワードをまとめる。
第6回	小児期のターミナルケア2（西田） ターミナル期の子どもと家族のドキュメンタリー・支える活動の実例を通して、子どもと家族のニーズと援助について考える ジズソー法を用いたグループワーク 【事前学修】 担当する課題について調べてくる。 【事後学修】 グループワークのまとめのレポートを記載する。
第7回	在宅におけるターミナルケア1（奈古） 在宅における看取りの看護について概説する。 【事前学修】在宅における看取りの看護についてインターネットで調べてくる。 【事後学修】授業内容について復習する。
第8回	在宅におけるターミナルケア2（奈古） 在宅におけるがん療養者への看護について概説する。 【事前学修】在宅におけるがん療養者への看護についてインターネットで調べてくる。 【事後学修】授業内容について復習する。

講義科目名称： 公衆衛生看護管理論

授業コード： 53200690

英文科目名称： Public Health Nursing Administration

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
豊島 泰子			
開講曜限	授業形態		
月1	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■5-1 看護職者の役割が理解できる</p> <p>■5-2 多職種と連携・協働について理解できる</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>・地域（行政、産業、学校等）の健康水準を高めるため、公衆衛生看護管理の目的・構造・機能、保健師の専門的自律と人材育成の基本について講義する。さらに健康危機管理（災害や感染症）時の保健師の役割について講義する。</p>
学習到達目標	<p>①公衆衛生看護管理の目的と特徴について説明できる。</p> <p>②地域（行政、産業、学校等）の組織における公衆衛生看護の役割と責任について説明できる。</p> <p>③健康危機管理時における保健師の役割について説明できる。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特記事項なし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特記事項なし</p> <p>【その他特記事項】 特記事項なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目・割合】</p> <p>・定期試験（筆記）70%、授業態度10% 課題20%</p>
教科書・テキスト	<p>・岸恵美子、平野かよ子、村嶋幸代著（2022）： 保健学講座 第2巻 公衆衛生看護支援技術 メジカルフレンド社</p>
参考書	<p>・標美奈子著（2020）標準保健師講座 公衆衛生看護学概論 医学書院</p> <p>・荒賀直子・後閑容子、鳩野洋子・神庭純子編集（2020）公衆衛生看護学. jp第5版 インターメディカル</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>【事後学修】 毎回講義終了時に提示する。</p>
履修上の留意事項	<p>公衆衛生看護管理機能は、ちょっと難しそうですが、興味を持って積極的な学習を期待します。</p>
オフィスアワー	<p>・月曜日：12：15～13：00</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>・その都度講義時に返却します。</p>
実務経験	<p>・看護師・保健師</p>
その他	<p>特になし</p>
授業の内容	<p>第1回 公衆衛生看護管理とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等） ・公衆衛生看護管理の目的と特徴 <p>【事前学修】教科書 p274～p277を読み専門用語をまとめておく。</p> <p>【事後学修】講義終了時に提示する。</p> <p>第2回 公衆衛生看護管理の機能① 情報管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法と情報公開、 ・ICT（情報通信技術）活用の推進に伴う個人情報保護への対応 <p>【事前学修】教科書 p290～p294を読み専門用語をまとめておく。</p> <p>【事後学修】講義終了時に提示する。</p> <p>第3回 公衆衛生看護管理の機能② 組織運営管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織とは、他部門との連携・協働、情報の共有、リスクマネジメント

第4回	<p>【事前学修】教科書 p278～p281を読み専門用語をまとめておく。</p> <p>【事後学修】講義終了時に提示する。</p> <p>公衆衛生看護管理の機能③ 事例管理 ・個別事例のニーズ把握、支援体制、・継続支援</p>
第5回	<p>【事前学修】教科書 p281～p282を読み専門用語をまとめておく。</p> <p>【事後学修】講義終了時に提示する。</p> <p>公衆衛生看護管理の機能④ 地区管理① ・地域診断、地域診断による地区把握</p>
第6回	<p>【事前学修】教科書p178～p199を読み専門用語をまとめておく。</p> <p>【事後学修】講義終了時に提示する。</p> <p>公衆衛生看護管理の機能④ 地区管理② ・地域ケアシステムづくり、地域ケアの質保証</p>
第7回	<p>【事前学修】教科書p256～p261を読み専門用語をまとめておく。</p> <p>【事後学修】講義終了時に提示する。</p> <p>公衆衛生看護管理の機能③ 事業・業務管理 ・事業計画、事業計画の策定のプロセス</p>
第8回	<p>【事前学修】教科書p233～p252 p282～p286を読み専門用語をまとめておく。</p> <p>【事後学修】講義終了時に提示する。</p> <p>公衆衛生看護管理の機能④ 予算管理 ・自治体のしくみ ・予算の仕組み</p>
第9回	<p>【事前学修】教科書P287～p290を読み専門用語をまとめておく。</p> <p>【事後学修】講義終了時に提示する。</p> <p>公衆衛生看護管理の機能⑤ 人事管理・人材育成 ・人材管理、人材育成</p>
第10回	<p>【事前学修】教科書p303～p317を読み専門用語をまとめておく。</p> <p>【事後学修】講義終了時に提示する。</p> <p>地域ケアシステムづくり ・地域ケアシステムとは、地域ケアシステムの構築、ネットワーク</p>
第11回	<p>【事前学修】教科書p262～p270を読み専門用語をまとめておく。</p> <p>【事後学修】講義終了時に提示する。</p> <p>公衆衛生看護管理の具体例 ・高齢者支援ネットワークづくりにおける看護管理</p>
第12回	<p>【事前学修】講義時に提示する。</p> <p>【事後学修】講義終了時に提示する。</p> <p>健康危機管理① ・健康危機管理、健康危機を起こす要因</p>
第13回	<p>【事前学修】講義時に提示する。</p> <p>【事後学修】講義終了時に提示する。</p> <p>健康危機管理② ・災害発生時の保健活動</p>
第14回	<p>【事前学修】講義時に提示する。</p> <p>【事後学修】講義終了時に提示する。</p> <p>健康危機管理③ ・感染症発生時の保健活動</p>

	<p>第15回</p> <p>【事前学修】 講義時に提示する。 【事後学修】 講義終了時に提示する。 保健師に求められる能力と管理機能 ・ 新任期、中堅期、管理期の各期における保健師に求められる能力</p> <p>【事前学修】 講義時に提示する。 【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>定期試験</p>
--	--

講義科目名称： 個人・家族・集団・組織の援助論 I

授業コード： 53207600

英文科目名称： Theories of Assistance in
Individuals, Families, Groups and Organizations I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	選択
担当教員			
中村 晶子、巽 夕起、中島 千英子			
開講曜限	授業形態		
水4	講義		
添付ファイル			

DPとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■1-2 人間を身体的・精神的・社会的に統合した存在であると理解できる</p> <p>■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる</p>
--------	---

科目の概要・目的	地域を構成する個人・家族・集団・組織という対象を理解し、その健康問題を解決するために必要な保健指導技術について学ぶ
学習到達目標	1) 個人・家族・集団・組織の特性に応じた保健指導を展開する基本的技術を理解できる 2) 保健指導に関する理論を理解できる 3) 健康教育を計画できる
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション：課題についての意見を共有することによって、自分の学びを深める ・グループワーク：課題について、各自の学修成果をいかしてグループでまとめ学びを深める <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>教員の指示のもと、各自のタブレットやノートパソコンを用いて、企画提出する</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験（筆記）・提出物（課題）</p> <p>【割合】 定期試験（筆記）50％・提出物50％</p>
教科書・テキスト	標準保健師講座 公衆衛生看護技術第5版 医学書院
参考書	公衆衛生が見える 2022-2023 メディックメディア 国民衛生の動向 2023/2024 厚生労働統計協会
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	授業計画の【事前・事後】の内容は必ず学修して参加してください。
履修上の留意事項	既習の知識を活用して、課題に積極的に取り組みましょう。ディスカッションやグループワーク等には主体的に参加し、メンバーと協同して学びを深めましょう。
オフィスアワー	中村 月12：30～13：00(メールでの質問にも対応します) 中島 メールにて日程調整してください
課題に対するフィードバックの方法	その都度、講義時に返却する
実務経験	中村 保健師 中島 保健師
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 個人・家族・集団・組織に対する支援技術 健康問題解決のための支援</p> <p>【事前学修】 個人・家族・集団・組織の特徴を説明できるよう準備する 【事後学修】 対象に応じた支援の視点について検討し提出する</p> <p>第2回 保健行動理論 保健行動に関する理論（ヘルスビリーフモデル・変化ステージモデルなど）</p> <p>【事前学修】 保健行動理論について説明できるよう準備する 【事後学修】 グループで共有し検討した保健行動理論について、整理し提出する</p> <p>第3回 地域活動に関する理論 地域活動に関する理論（プリシード・プロシードモデルなど）</p> <p>【事前学修】 地域活動に関する理論について説明できるよう準備する 【事後学修】 グループで共有し検討した理論について、整理し提出する</p> <p>第4回 対人支援活動の展開方法 対人支援の基本と技術</p>

第5回	<p>【事前学修】 対人支援技術について説明できるよう準備する 【事後学修】 マネジメントの内容を検討し</p> <p>健康相談の方法と展開 健康相談・健康診査時の保健指導</p>
第6回	<p>【事前学修】 健康相談の法的根拠・位置づけを説明できるよう準備する 【事後学修】 相談支援内容を検討し提出する</p> <p>家庭訪問 家庭訪問の特徴と展開方法</p>
第7回	<p>【事前学修】 家庭訪問の特徴を考える 【事後学修】 家庭訪問の目的をまとめる（提出）</p> <p>地区組織活動 展開方法と保健師の役割</p>
第8回	<p>【事前】 地域組織活動と目的を考える 【事後】 地域組織活動における保健師の役割について自分の言葉でまとめる</p> <p>健康教育の展開 健康教育の技術と展開過程</p>
第9回	<p>【事前学修】 地域で実際に実施されている健康教育について説明できるよう準備する 【事後学修】 健康教育の目的・目標について説明できるよう準備する</p> <p>健康教育の準備 健康課題の検討</p>
第10回	<p>【事前学修】 興味を持っている健康課題について説明できるよう準備する 【事後学修】 健康課題から対象とテーマ（仮）を検討し提出する</p> <p>健康教育の企画① 企画書の作成</p>
第11回	<p>【事前学修】 健康教育の目的・内容・方法を説明できるよう準備する 【事後学修】 企画書を完成し提出する</p> <p>健康教育の企画② 企画書の修正</p>
第12回	<p>【事前学修】 企画書を再検討して説明できるよう準備する 【事後学修】 企画書を完成し提出する</p> <p>健康教育指導内容① 指導案の作成</p>
第13回	<p>【事前学修】 健康教育の展開プロセスを説明できるよう準備する 【事後学修】 指導案を作成し提出する</p> <p>健康教育指導内容② 指導案の修正</p>
第14回	<p>【事前学修】 指導案を再検討し説明できるよう準備する 【事後学修】 企画案を完成する（提出）</p> <p>健康教育プレゼンテーション 企画した健康教育のプレゼンテーション</p>
第15回	<p>【事前学修】 プレゼンテーションの準備をする 【事後学修】 プレゼンテーション内容を振り返り、評価を説明できるよう準備する</p> <p>健康教育の評価 健康教育の評価・修正</p>
	<p>【事前学修】 評価内容から企画した健康教育の修正し、説明できるよう準備する 【事後学修】 最終修正を行い</p> <p>定期試験</p>

講義科目名称： 個人・家族・集団・組織の援助論Ⅱ

授業コード： 53207700

英文科目名称： Theories of Assistance in
Individuals, Families, Groups and Organizations II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
豊島 泰子、中村 晶子、巽 夕起、中島 千英子			
開講曜限	授業形態		
金1、2	講義		
添付ファイル			

DPとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる</p> <p>■3-3 適切な看護技術を実践できる</p>
--------	--

科目の概要・目的	<p>・本講義では、地域における対象（個人・家族・集団・組織）を捉える方法である地域診断について、具体的に地域診断の方法（情報収集、アセスメント、計画、実施、評価）のプロセスについて講義する。実際に大学の所在地の地域について、地区視診や既存の統計資料や社会資源等の情報収集、分析を行う体験を通して実践できるようにする。</p>
学習到達目標	<p>①地区踏査を行い、地域診断の分析に活かすことができる。</p> <p>②地域診断のプロセスを理解し、箕面市の特性を理解することができる。</p> <p>③箕面市の健康課題やその解決策について考えることができる。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特記事項なし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特記事項なし</p> <p>【その他特記事項】 特記事項なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目・割合】</p> <p>・定期試験（筆記） 50%、 成果物 40%、 授業参加度 10%、</p>
教科書・テキスト	<p>・岸恵美子、平野かよ子、村嶋幸代編集：「保健学講座2 公衆衛生看護支援技術」メジカルフレンド社</p> <p>・豊島泰子編集(2022)：改訂新版「看護師のための地域看護学 - 地域理解を深めるための技術と展開法 -」PILAR PRESS</p>
参考書	<p>・上野昌江、和泉京子編集(2021) 公衆衛生看護学第3版 中央法規出版</p> <p>・標美奈子著(2020) 標準保健師講座・1 公衆衛生看護学概論</p> <p>・荒賀直子、後閑容子著(2020) 公衆衛生看護学 jp 第5版 インターメディカル</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>・保健師の専門科目です。4年次に開講する科目に繋がるので事前事後学習して確実な知識にしてください。</p>
履修上の留意事項	<p>・保健師の専門科目です。真面目に取り組んでください。</p>
オフィスアワー	<p>月曜日：12：15～12：45</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>・その都度講義時に返却する。</p>
実務経験	<p>・いずれも保健師</p>
その他	<p>なし</p>
授業の内容	<p>第1～2回 地域診断（第6章） ＜講義＞ ・オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等） シラバスを事前に読んでおく ・地域診断の目的、地域診断の類型、地域診断の過程と方法①</p> <p>【事前学習】 地域診断について2年次で学習した内容の復習</p> <p>【事後学習】 講義終了時に提示</p> <p>第3～4回 地域診断（第6章） ＜講義＞ ・地域診断の過程と方法②</p> <p>【事前学習】 講義時に提示</p> <p>【事後学習】 講義終了時に提示</p> <p>第5～8回 地域診断の実際①</p>

	<p> <演習> ・箕面市の情報収集、アセスメント①（箕面市の歴史、人口等）② 【事前学習】 講義時に提示 【事後学習】 講義終了時に提示 第9～12回 地区踏査 <演習> ・箕面市の地区視診 【事前学習】 講義時に提示 【事後学習】 講義終了時に提示 第13～14回 地区踏査 <演習> ・箕面市の地区視診の資料整理 【事前学習】 講義時に提示 【事後学習】 講義終了時に提示 第15～16回 公衆衛生看護活動における事業化と施策化の意味と意義（第9章） <講義> ・事業化・施策化の意味と意義 ・事業化・施策化のプロセスと推進のポイント 【事前学習】 講義時に提示 【事後学習】 講義終了時に提示 第17～18回 公衆衛生看護活動における事業化と施策化の意味と意義（第9章） <講義> ・予算のしくみ・評価 【事前学習】 講義時に提示 【事後学習】 講義終了時に提示 第19～28回 地域診断 <演習> ・箕面市の保健医療福祉データをまとめてみよう①②③④⑤ ①：箕面市の情報収集①、②：箕面市の情報収集②、③：箕面市の分析、④：箕面市の分析② ⑤：資料作成 【事前学習】 講義時に提示 【事後学習】 講義終了時に提示 第29～30回 地域診断 ・発表 ・まとめ 定期試験 </p>
--	--

講義科目名称： 公衆衛生看護学実習

授業コード： 53208400

英文科目名称： Public Health Nursing Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 通年	4	5 (通年)	選択
担当教員			
豊島 泰子、中村 晶子、巽 夕起、中島 千英子			
開講曜限	授業形態		
	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■3-2 問題解決のために思考し、得た知識を用いて臨床判断できる</p> <p>■5-1 看護職者の役割が理解できる</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p><前期> 学校での保健活動の体験を通して、学校保健活動の特性と技術を理解する。また、学校保健にかかわる関係機関や関係職種との連携から、養護教諭の果たす役割・機能を理解する。</p> <p><後期> ・地域で生活する個人・家族を理解し、対象のセルフケア能力を高め、主体的な健康づくりの支援に必要な基本的知識、技術を修得する。また、集団・組織・地域を対象に行われる公衆衛生看護活動に対する理解を深め、その実践能力を養う。</p>
----------	---

学習到達目標	<p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学校教育の概要および保健活動について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童・生徒を取り巻く地域環境や学校環境について理解する。 (2) 学校教育・学校組織のあり方と保健室の機能について理解する。 2) 学校保健活動の展開方法と養護教諭の役割を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> (3) 児童・生徒の健康課題に対する養護教諭の実践について理解する。 (4) 学校における養護教諭の役割・機能を理解する。 <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活する人々の健康や地域特性を理解し、地域の顕在的・潜在的健康課題を明らかにし、地域の健康課題解決に向けて保健活動計画を作成することができる。 2. 個人及び家族の健康課題を理解し、対象のセルフケア能力を高める公衆衛生看護活動の展開方法が理解できる。 3. 集団・組織・地域を対象に保健師が行う公衆衛生看護活動について理解できる。 4. 地域の社会資源やケアシステムを構築する意義および方法、他職種・他機関との協働・連携について理解できる。 5. 公衆衛生看護活動における保健師の役割について理解する。
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション：実習での学びをまとめ、他のメンバーと共有して、学びを深めてください。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>なし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>なし</p>
-------	--

成績評価の方法	<p><前期></p> <p>【評価項目】実習（実習記録・事前事後学習・カンファレンスでの発表）・レポート</p> <p>【割合】実習80％・レポート20％</p> <p><後期></p> <p>・事前学習・事後学習、カンファレンスでの討議内容、実習記録、レポートなどから総合的に評価する。</p>
---------	---

教科書・テキスト	特に指定しない
----------	---------

参考書	授業で使用した教科書・テキスト
-----	-----------------

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p><前期>【事前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の概要や学区の環境・特徴等実習に必要な情報について、ホームページ等から情報収集し、事前のオリエンテーションの内容を追加する。〔様式2〕 ・学校保健の意義・関連法規・統計、養護教諭の役割等の整理（要項参照） <p>【事後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート「学校保健における看護職の役割について」 ・自己評価 <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療・福祉関連法及び内容を学習しておく。 2. 保健・医療・福祉事業の根拠法令・目的・対象などについて学習し理解しておく。 3. 公衆衛生看護における各分野の現状と課題、最近の動向などについて、講義資料、国民衛生の動向等で学習し理解しておく。 4. 実習施設については、既知の学習、ホームページ、既存の資料等から事前に調べ、コミュニティ・アズ・パートナーモデルを使用してまとめる。
---------------------------	---

履修上の留意事項	<p><前期> 対象は成長発達している子どもです。いい加減なことや誤りは許されません。健康管理に気をつけて、真面目な態度で臨み、主体的に取り組みましょう。必ず、実習要項7注意事項を熟読しておいてください。</p> <p><後期> ・学生としての自覚と責任ある態度で積極的に実習する。</p>
オフィスアワー	<p>豊島 泰子 (5-206) y-toyota@osaka-aoyama.ac.jp 中村 晶子 (5-103) s-nakamura@osaka-aoyama.ac.jp 中島 千英子 (3-315) t-nakashima@osaka-aoyama.ac.jp</p>
課題に対するフィードバックの方法	実習時にその都度伝えるとともに、最終の実習記録提出時に確認し、指導を追加し、学生に返却する。
実務経験	<p>豊島 泰子 保健師 中村 晶子 保健師 中島 千英子 保健師</p>
その他	
授業の内容	<p>実習場所 出身小学校および池田市立小学校 (別紙参照)</p> <p>実習計画 実習前 ・事前学校訪問(挨拶)の日程調整および「健康診断証明書」の発行手続き ・学校訪問(挨拶)および実習日程の調整 ・実習日程および事業について調整を行い、実習計画を作成する ・健康教育の準備 ・実習オリエンテーション</p> <p>【事前学習】実習要項に順ずる 【事後学習】実習要項に順ずる</p> <p>実習(10日間) 実習計画に沿って、自己の目標達成を目指す。 【事前学習】実習要項に順ずる 【事後学習】実習陽刻に順ずる</p> <p>実習最終日 ・実習報告会の準備とプレゼンテーション(学内) ・レポートの作成</p> <p><後期> 1日 学内 ・準備学習 ・地区踏査まとめ 【事前学習】実習要項に順ずる 【事後学習】実習要項に順ずる</p> <p>2日目 臨地 ・オリエンテーション ・地域診断の発表 【事前学習】配布資料参照 【事後学習】配布資料参照</p> <p>3日目 臨地 ・オリエンテーション ・地域診断の発表 【事前学習】配布資料参照 【事後学習】配布資料参照</p> <p>4日 臨地 保健事業などの準備 ①保健事業 【事前学習】配布資料参照 【事後学習】配布資料参照</p> <p>5日 臨地 ・家庭訪問情報収集・訪問準備 ・家庭訪問① 【事前学習】配布資料参照 【事後学習】配布資料参照</p> <p>6日 臨地 ・保健事業等準備 ・保健事業② 【事前学習】配布資料参照 【事後学習】配布資料参照</p> <p>7日 学内 ・準備学習 ・地域診断のまとめ 【事前学習】配布資料参照 【事後学習】配布資料参照</p> <p>8日 臨地 ・中間カンファレンスの準備 ・中間カンファレンス 【事前学習】配布資料参照 【事後学習】配布資料参照</p> <p>9日 臨地 ・保健事業等準備</p>

10日	<ul style="list-style-type: none"> ・保健事業③ 【事前学習】配布資料参照 【事後学習】配布資料参照
11日	<p>臨地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健事業等準備 ・保健事業④ 【事前学習】配布資料参照 【事後学習】配布資料参照
12日	<p>学内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学習 地域診断まとめ 【事前学習】配布資料参照 【事後学習】配布資料参照
13日	<p>臨地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健事業等準備 ・保健事業⑤ 【事前学習】配布資料参照 【事後学習】配布資料参照
14日	<p>臨地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健事業等準備 ・保健事業⑥ 【事前学習】配布資料参照 【事後学習】配布資料参照
15日	<p>臨地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健事業等準備 ・保健事業⑦ 【事前学習】配布資料参照 【事後学習】配布資料参照
16日	<p>臨地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問情報収集・訪問準備 ・家庭訪問② 【事前学習】配布資料参照 【事後学習】配布資料参照
17日	<p>臨地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健事業等準備 ・保健事業⑧ 【事前学習】配布資料参照 【事後学習】配布資料参照
18日	<p>学内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学習 地域診断のまとめ 【事前学習】配布資料参照 【事後学習】配布資料参照
19日	<p>臨地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健事業等準備 ・保健事業⑨ 【事前学習】配布資料参照 【事後学習】配布資料参照
20日	<p>臨地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終カンファレンス準備 ・最終カンファレンス 【事前学習】配布資料参照 【事後学習】配布資料参照 <p>学内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習 ・発表資料作成 ・実習報告会（学内発表） ・修正版地域診断の提出 【事前学習】配布資料参照 【事後学習】配布資料参照

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	必修
担当教員			
豊島 泰子			
開講曜限	授業形態		
水5	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	■看護学科■ ■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる ■4-2 看護にまつわる法律を理解したうえで看護を实践できる
---------	--

科目の概要・目的	・人々の健康や生活を守るために必要な保健・医療・福祉の法律・制度について講義する。母子・成人・高齢者保健、感染症、難病、精神、障害児者、国際保健、健康危機管理（感染症、災害）、環境、食品衛生等の観点から講義する。
----------	--

学習到達目標	①わが国の保健医療福祉行政体系や施策について説明できる。 ②わが国の社会保障制度および社会福祉の法律・制度について説明できる。 ③保健所や市町村保健センター等の役割について説明できる。 ④行政機関が作成する保健医療福祉計画について説明できる。 ⑤健康危機管理における行政の業務と看護職の役割について説明できる。
--------	---

授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特記事項なし 【ICTを利用した双方向授業】 特記事項なし 【その他特記事項】 特記事項なし
-------	---

成績評価の方法	【評価項目・割合】 筆記試験（筆記） 70%、授業参加態度10% 事前課題 20%
---------	--

教科書・テキスト	・藤内修二編集 標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論 医学書院
----------	------------------------------------

参考書	・医学情報科学研究所 公衆衛生がみえる 2020-2021
-----	-------------------------------

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	・毎回事前課題を出しています。真面目に取り組んでください
---------------------------	------------------------------

履修上の留意事項	・最近、看護師国家試験では、法律や制度についての出題頻度も多くなりました。学生の皆さんにとって苦手科目であると思いますが、毎回のレポート課題を通して理解してください。
----------	---

オフィスアワー	・月曜日12：15～12：45
---------	-----------------

課題に対するフィードバックの方法	・その都度講義に返却する
------------------	--------------

実務経験	・保健師
------	------

その他	特になし
-----	------

授業の内容	第1回 保健医療福祉行政の基本（第1章） ・オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等）：シラバスを事前に読んでおくこと。 ・保健医療福祉行政論の基本となるもの p2～p20 ・保健医療福祉行政の根拠 ・公衆衛生の理念と戦略 【事前学修】 「ヘルスプロモーションについて」レポートにまとめる。 【事後学修】 講義終了時に提示する。 第2回 保健医療福祉制度の変遷(2章) ・公衆衛生政策の基盤形成 p20～p34 【事前学修】 「日本の近代公衆衛生～近年の公衆衛生政策の発展について」レポートにまとめる。 【事後学修】 講義終了時に提示する。 第3回 保健医療制度の変遷（第2章） ・保健医療福祉行政の動向（平成以降）①p35～p43 【事前学修】 「地域保健法および少子化対策について」レポートにまとめる。 【事後学修】 講義終了時に提示する。 第4回 保健医療制度の変遷（第2章）①
-------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者（児）支援対策、高齢者保健福祉対策 p42～p48 【事前学修】 「障害者総合支援法について」レポートにまとめる。 【事後学修】 講義終了時に提示する。
第5回	<p>保健医療制度の変遷（第2章）②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自殺対策、依存症対策、感染症、がん対策、災害対策 p49～p58 【事前学修】 「自殺・がん対策について」レポートにまとめる。 【事後学修】 講義終了時に提示する。
第6回	<p>保健医療福祉行政・財政の理念としくみ（第3章）①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国・都道府県・市区町村の行政のしくみと役割、保健医療福祉の財政 p60～p69 【事前学修】 「地方分権と地方自治について」レポートにまとめる。 【事後学修】 講義終了時に提示する。
第7回	<p>保健医療福祉行政・財政の理念としくみ（第3章）②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政における保健師の役割と活動 p70～p85 【事前学修】 「保健所と市町村の保健師の役割について」レポートにまとめる。 【事後学修】 講義終了時に提示する。
第8回	<p>保健医療福祉行政・財政の理念としくみ（第3章）③ 地域保健行政と保健師活動（第4章）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公衆衛生に関する国際的な活動 地域保健に関する公的機関、関係機関との連携 【事前学修】 「国際保健に関するおもな国際機関について」レポートにまとめる。 【事後学修】 講義終了時に提示する。
第9回	<p>社会保障制度と政策（第5章）①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会保障制度の理念と仕組み、p125～p153 ・ 医療制度と政策 【事前学修】 「医療保険制度について」レポートにまとめる。 【事後学修】 講義終了時に提示する。
第10回	<p>社会保障制度と政策（第5章）②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険制度 p154～p167 【事前学修】 「介護保険制度について」レポートにまとめる。 【事後学修】 講義終了時に提示する。
第11回	<p>社会保障制度と政策（第5章）③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会保障・社会福祉の制度 p168～p188 【事前学修】 「生活保護制度について」レポートにまとめる。 【事後学修】 講義終了時に提示する。
第12回	<p>保健医療福祉の計画と評価（第6章）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地方公共団体の保健福祉計画 ・保健計画の策定プロセス p190～ 【事前学修】 課題については、講義時に提示する。 【事後学修】 講義終了時に提示する。
第13回	<p>食品衛生法、環境保健法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食品衛生、環境保健について 【事前学修】 「食品衛生法、環境基本法」についてまとめる。 【事後学修】 講義終了時に提示する。
第14回	<p>食品衛生、環境保健</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食品衛生法、環境問題 【事前学修】 課題については講義時に提示する。 【事後学修】 講義終了時に提示する。
第15回	<p>健康危機管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症や災害対策などの健康危機管理について 【事前学修】 「災害対策について」まとめる 【事後学修】 講義終了時に提示する。
定期試験	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	1	必修
担当教員			
塩野 徳史、吉井 紀子、田中 亮子、野口 寿美子、友澤 満地子			
開講曜限	授業形態		
木3			
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる</p> <p>■3-2 問題解決のために思考し、得た知識を用いて臨床判断できる</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>本科目では、臨床判断Ⅰに続き、看護援助の方法論である看護過程について学び、臨床判断の能力を身につける。看護過程とは対象の健康の維持・増進、あるいは、健康上の問題を解決するための道筋を示し、看護実践を計画的に進めるための方法論である。看護過程の展開には臨床判断の能力が必要であり、4つのフェーズ（気づき、解釈し、反応し、省察する）を修得する。</p> <p>臨床判断Ⅰでは、看護師の視点でアセスメントする方法を学修した。臨床判断Ⅱでは、看護の視点で各パターンのアセスメントを統合して、対象者の全体像を描き、適切な看護診断の導き方、看護診断の構造、目標設定と看護計画の立案のプロセスについて、各段階の概要を理解し、論理的に展開する方法を学ぶ。</p> <p>演習事例を通して、臨床判断能力を涵養し、根拠や適切な情報に基づく個別性のある看護計画の立案と、計画に基づいた看護実践の方法を学び、実施した看護の成果に対する評価方法とフィードバック、リフレクションの意義を理解する。</p>
----------	---

学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の健康上の課題や療養上のニーズを説明できる。 2) 全体像を意識しながら対象者のニーズを見いだすとともに優先順位を決定できる。 3) 看護の視点から見いだされた対象者のニーズに対応する目標を示すことができる。 4) 目標を遂げるための要件を示し、看護計画を立案できる。 5) 目標・要件に応じた評価日を設定できる。 6) 実施した看護を評価する意義を説明できる。 7) 評価の基準に基づき、目標の達成状況を適切に記述できる。 8) 評価に基づき、看護計画を修正できる。 9) アセスメント・診断・計画・実施・評価のプロセスにおける論理性を説明できる。
--------	--

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>講義形式と演習（グループワーク）形式を組み合わせて進める。演習は個人ワークを基本としつつ、グループワーク形式を組み合わせて進める。3人～4人のグループに分かれて実施する。詳細は演習のオリエンテーション時に説明する。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>グループワークでは、教科書や参考書の他、インターネットも活用し、調べてから記述することを推奨する。</p> <p>【その他特記事項】 知識習得を確認するために小テストを行う。</p>
-------	---

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>小テスト、演習レポート、定期試験（筆記）で評価する。</p> <p>【割合】</p> <p>小テスト（10点×3回）30%、演習レポート[個人課題（関連図・診断・B・C）、グループワーク課題] 20%、定期試験（筆記）50%</p>
---------	---

教科書・テキスト	<p>茂野香おる, 他: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院.</p> <p>リンダJ. カルペニート: 看護診断ハンドブック第12版, 医学書院.</p>
----------	--

参考書	<p>リンダJ. カルペニート（藤崎郁訳）: 看護過程・看護診断入門, 医学書院.</p> <p>小田正枝: 症状別 看護過程 アセスメント・看護計画がわかる!（プチナースBooks）, 照林社.</p> <p>任和子: 実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド ヘンダーソン ゴードン NANDA-I オレム ロイ（プチナースBooks）, 照林社.</p> <p>小田正枝: 観察ポイントとケア チャートでわかる!（プチナースBooks）, 照林社.</p> <p>任和子 編著: 病期・発達段階の視点でみる疾患別看護過程, 照林社.</p> <p>石川ふみよ, 高谷真由美 監修: 疾患別看護の展開, 学研.</p>
-----	--

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>各授業の学習に際し、事前課題の実施、授業後の振り返りを行い、それぞれレポートにまとめ学習内容の修得に努めてください。そのために講義前後に各60～90分の自己学習を必要とします。</p> <p>特に演習事例については、「解剖生理」や「疾患・治療」の理解が必要となります。事例に関する参考書・教科書などをもとに、十分な自己学習を行ってから授業に参加してください。</p> <p>講義の初めに前回までの講義の内容に関する小テストを行う予定ですので、復習をしておくこと。</p>
---------------------------	--

履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目では臨床判断Ⅰで配付したレジュメ、記録用紙、ファイルを活用します。必ず毎回持参してください。 ・事例や記録用紙の取り扱い、臨地実習における個人情報の取り扱いに準じます。適切な管理を心掛けてください。 ・講義、演習では主体的に考える個人の学習が基本です。提示された課題、事前学習は必ず指示された日時までに行ってください。 ・講義演習の出席は「出席カード」で確認します。 ・講義中の携帯電話・スマートフォンなどは、指示のない限り、原則、使用禁止とします。
----------	---

	<p>・新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの感染状況や、教室の規模、受講者数を総合的に考慮し、感染対策（マスク着用や手指消毒など）を講じた上で対面授業を行います。 各自、体調管理には十分に注意し、健康管理に注意してください。</p>
オフィスアワー	<p>塩野徳史：講義・会議のない月曜から木曜日、9時-16時の間であればいつでもお越しください。 場所：5号館 研究室102</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>講義演習で提出した小テスト、レポート類は返却します。特に小テストの回答についてはその都度、期間を決めて掲示しますので、復習に役立ててください。 また、質問や理解が難しい箇所がある場合には、そのまませず、可能な限りオフィスアワーやメール等で事前に日程を調整してから、お越しください。</p>
実務経験	<p>看護師</p>
その他	<p>本科目は、夏季に実施予定の臨床判断看護学実習と連動しています。講義や演習の予習、復習を必ず行い授業に臨んでください。やむを得ず欠席する場合には、可能な限り迅速に担当教員に連絡・相談してください。</p>
授業の内容	<p>第1回 講義 アセスメント</p> <p>*オリエンテーション ・シラバスを事前によく読み、臨床判断Ⅰの事例Bを振り返っておくこと ・臨床判断Ⅰで配付したレジюме・資料・ファイルを持参すること</p> <p>臨床判断Ⅰで学んだ情報の整理、アセスメントを振り返る。ゴードンの機能的健康パターンを用いたアセスメントの視点、看護上の問題について推論する方法、看護過程の展開に必要な、クリティカルシンキングや臨床判断能力について復習する。</p> <p>【事前学修】レジюме（P21）までを復習し、事例Bの記録を見直す。 【事後学修】自分自身の記録を振り返り、模範例との相違を明確にし、朱書きする。</p> <p>第2回 講義 総合・統合（情報の関連性）</p> <p>アセスメントした内容をもとに、情報の統合、情報の関連性を考え、対象の全体像を把握する方法を学び、問題の明確化と関連要因、指標の意味について学修する。看護診断ハンドブックを活用し、看護診断とは何かについて学修する。また、関連図の書き方を学修し、事例（P23）に活用する。</p> <p>【事前学修】レジюме（P21-P25）を熟読し、事例の記録展開を行う。 【事後学修】自分自身の記録を振り返り、模範例との相違を明確にし、朱書きする。</p> <p>第3回 講義 総合・統合（情報の関連性、全体像の把握、統合）</p> <p>アセスメントした内容をもとに、情報の統合、情報の関連性を考え、対象の全体像を把握する方法を学び、問題の明確化と関連要因、指標の意味について学修する。看護診断ハンドブックを活用し、看護診断とは何かについて学修する。</p> <p>【事前学修】レジюме（P26-P28）を熟読し、教科書をみて看護診断とは何かを考える。 【事後学修】自分自身の記録を振り返り、模範例との相違を明確にし、朱書きする。</p> <p>第4回 講義 看護診断（問題の明確化、看護診断の定義、共同問題の定義、ハンドブックとの照合）</p> <p>看護診断の考え方、共同問題の考え方を学び、その構成要素（関連要因と診断指標）について学び、看護診断ハンドブックを活用し、対象の全体像を把握から、看護上の問題を明確化、看護診断の決定と記述について学修する。また、関連図の書き方を学修し、事例Bの展開に活用する。</p> <p>【事前学修】レジюме（P26-P28）を熟読し、教科書より看護診断を1つ選び模写する。 【事後学修】自分自身の記録を振り返り、事例の展開を進める。</p> <p>第5回 講義 看護診断・看護計画（優先順位の考え方）</p> <p>看護上の問題を看護診断を用いて表現し、関連要因や診断指標について学修する。また優先順位を判断する基準を理解し、活用方法を学ぶ。抽出した看護診断に基づいて、看護計画における期待される成果について学び、留意点をふまえて、看護目標を設定する方法を学修する。</p> <p>【事前学修】レジюме（P29-P31）を熟読し、事例の記録展開を進める。 【事後学修】自分自身の記録を振り返り、模範例との相違を明確にし、朱書きする。</p> <p>第6-7回 講義 看護計画（目標の設定、看護計画の立案）</p> <p>優先順位の考え方をふまえた看護診断に基づいて、看護計画における期待される成果について学び、留意点をふまえて、看護目標を設定する方法を学修する。 そして、看護計画の種類を学び、標準看護計画を参照し、看護計画を立案する方法を学修する。</p> <p>【事前学修】レジюме（P32-P33）を熟読し、事例の記録展開を進める。 【事後学修】自分自身の記録を振り返り、模範例との相違を明確にし、朱書きする。</p> <p>第8回 講義 看護援助の実施と評価</p> <p>立案した看護計画をもとに、SOAP、フォーカスチャーティング、看護記録に関する基礎知識、記録の目的・意義・構成要素、看護記録記載における留意点を学修する。また看護要約の目的と方法を学修する。</p> <p>【事前学修】レジюме（P34-P40）を熟読し、事例の記録展開を進める。 【事後学修】自分自身の記録を振り返り、模範例との相違を明確にし、朱書きする。</p> <p>第9回 演習 グループワーク1</p> <p>・グループワークの進め方 ・グループワーク配置</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・記録用紙の配付 ・グループワークの事例の紹介 <p>【事前学修】 事例を熟読し、わからない言葉や関連する解剖生理、疾患を調べてまとめる。 【事後学修】 個人で、事例を展開し、アセスメント・総合・統合を進める。</p>
第10回	<p>演習 グループワーク2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークのメンバーと協力し、事例を展開する。 ・質問内容を明確にし、メンバーや教員と意見交換することで、理解を深める。 <p>【事前学修】 事例を熟読し、わからない言葉や関連する解剖生理、疾患、主要な治療方法、使用する薬剤の作用・副作用を調べて記録用紙にまとめる。 【事後学修】 個人で、事例を展開し、アセスメント・総合・統合を完成させる。</p>
第11回	<p>演習 グループワーク3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークのメンバーと協力し、事例を展開する。 ・質問内容を明確にし、メンバーや教員と意見交換することで、理解を深める。 ・グループワークの発表資料を作成する。 <p>【事前学修】 グループワークをもとに、自分自身の記録を見直し、看護診断を進める。 【事後学修】 個人で、事例を展開し、看護診断を完成させる。</p>
第12回	<p>演習 グループワーク4（発表会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークのメンバーと協力し、考えた内容を発表する。 ・質問内容を明確にし、メンバーや教員と意見交換することで、理解を深める。 ・他のグループワークの発表を参考に、自分自身の理解度を確認する。 <p>【事前学修】 グループワークの発表資料を熟読し、簡潔に説明できるよう準備する。 【事後学修】 発表内容を参考に、自分自身のアセスメントを振り返り、追記する。</p>
第13回	<p>演習 グループワーク5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークのメンバーと協力し、考えた内容を発表する。 ・質問内容を明確にし、メンバーや教員と意見交換することで、理解を深める。 ・他のグループワークの発表を参考に、自分自身の理解度を確認する。 <p>【事前学修】 グループワークの発表資料を熟読し、簡潔に説明できるよう準備する。 【事後学修】 発表内容を参考に、自分自身の看護診断を振り返り、追記する。</p>
第14回	<p>演習 グループワーク6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークのメンバーと協力し、事例を展開する。 ・質問内容を明確にし、メンバーや教員と意見交換することで、理解を深める。 ・グループワークの発表資料を作成する。 <p>【事前学修】 発表内容を参考に、自分自身の記録を見直し、看護計画を進める。 【事後学修】 個人で、事例を展開し、アセスメントから看護計画までを完成させる。</p>
第15回	<p>演習 グループワーク7（発表会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークのメンバーと協力し、考えた内容を発表する。 ・質問内容を明確にし、メンバーや教員と意見交換することで、理解を深める。 ・他のグループワークの発表を参考に、自分自身の理解度を確認する。 <p>【事前学修】 グループワークの発表資料を熟読し、簡潔に説明できるよう準備する。 【事後学修】 発表内容を参考に、自分自身の記録を振り返り、追記する。</p>
定期試験	筆記試験

講義科目名称： 臨床判断看護学実習

授業コード： 53209200

英文科目名称： Clinical judgment nursing practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	必修
担当教員			
塩野 徳史 他			
開講曜限	授業形態		
終日実習	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる</p> <p>■3-2 問題解決のために思考し、得た知識を用いて臨床判断できる</p>
---------	--

科目の概要・目的	本科目では、講義や演習で学んだ知識や技術、方法論を活用し、病院で療養生活を送る患者に対して基本的ニーズの充足を焦点に、科学的根拠に基づいた系統的看護過程を展開し適切な日常生活援助を実践する。実際の援助体験を通して、対人関係の成立、対象を全人的に捉える視点、健康上のニーズの把握とその解決のプロセスの重要性、論理的な思考、理論と実践の統合を認識し、看護実践能力の基礎を培う。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 療養中の対象者の療養環境を理解し、適切な判断と調整できる。 2) コミュニケーション技法に基づいて適切に実践し、対象者との援助関係に気づき、良好に発展させる意義を考え、表現できる。 3) 対象者の毎日の状況に基づいて、臨床判断を実践し、適切な看護援助や対応を考えることができる。 4) 対象者の個別性を尊重した看護過程の展開ができる。 5) 対象者・家族を人として尊重し、その尊厳を守る言動がとれる。 6) 医療チームの一員としての自覚と責任を認識し行動できる。 7) グループメンバーとの相互の尊重と協調的態度をとれる。 8) 実習には積極的、主体的に取り組み、学びを深めることができる。 9) 自己の看護実践を客観的に評価し、課題を明確にすることができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>学外での臨地実習とする。臨地実習は3人～5人のグループに分かれて実施する。実習先では担当教員の指導のもと、学生自身が主体的に日々の課題を見つけ、解決に向かって行動することが基本となる。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>詳細については実習要項をもとにガイダンスで説明するので必ず出席すること。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>自己評価を参考に、実習目標（看護過程の展開・その他）に対する到達状況、実習記録、実習への参加度を総合的に評価する。</p> <p>【割合】</p> <p>自己評価を参考に、看護過程の展開(52%)、その他の実習目標に対する到達状況（32%）、実習記録、実習参加度(16%)など、評価基準により総合的に評価する。</p>
教科書・テキスト	<p>茂野香おる, 他: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院.</p> <p>茂野香おる, 他: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院.</p> <p>リンダJ. カルペニート: 看護診断ハンドブック第12版, 医学書院.</p>
参考書	<p>ヘンダーソン ゴードン NANDA-I オレム ロイ (プチナースBooks), 照林社.</p> <p>小田正枝: 観察ポイントとケア チャートでわかる! (プチナースBooks), 照林社.</p> <p>任和子 編著: 病期・発達段階の視点でみる疾患別看護過程, 照林社.</p> <p>石川ふみよ, 高谷真由美 監修: 疾患別看護の展開, 学研.</p>
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	実習までに、基礎看護援助論Ⅰ・基礎看護援助論Ⅱ・ヘルスアセスメントで修得した、日常生活援助技術(環境援助技術、食事援助技術、清潔・衣生活援助技術、活動・休息援助技術)・バイタルサイン測定・フィジカルアセスメントの技術・感染予防の技術について復習しておくこと。
履修上の留意事項	本実習は、それまでに学習した専門知識や援助技術、問題解決的方法論を活用し、実際に治療あるいは療養中の対象に対して看護援助を提供する体験的学習になります。学習とは言え、実習には当然、看護者としての義務と責任が求められます。その意味を十分自覚し、事前に復習や技術練習を重ね、実習までに必要な準備しておくことが重要です。それが、結果としての学習効果を決定することになります。全出席が原則です。一日でも休むと、施設の対象や病院・病棟に対してご迷惑となり、実習の学びにも影響します。実習では「実習目標」のうち、何を学びたいのかを明確にして、教員や実習指導者の助言を受けてから参加してください。
オフィスアワー	塩野徳史：講義・会議のない月曜から木曜日、9時-16時の間であればいつでもお越しください。 場所：5号館 研究室102
課題に対するフィードバックの方法	臨地実習では、実習記録を適宜確認し、担当教員からフィードバックを行います。学生自身が積極的に、報告、連絡、相談をとりながら、臨地実習を進めてください。
実務経験	看護師
その他	実習開始までに、看護過程の展開方法、基礎医学や主な疾患、治療の知識、基礎的な生活援助技術の根拠を復習し、自分自身の体調管理も含めて、実習中の対象への看護援助について確実に責任をもって実施できるように事前準備しておくこと。

	<p>また新型コロナウイルス感染症の感染状況やその他の感染症の状況を総合的に考慮し、感染対策（マスク・フェイスシールド着用や手指消毒など）を講じた上で行います。各自、抗体価や推奨されたワクチン接種の状況について事前に提出することが求められます。また実習が始まる2週間前から体調管理には十分に注意し、健康管理表を持参して提示する必要があります。</p>
<p>授業の内容</p>	<p>実習内容 病院において、1名の患者を受け持ち、患者の日常生活行動援助を主とした看護過程の展開を行い、臨床判断を活用し、臨床看護の基礎的な援助の方法を学ぶ。</p> <p>【事前学修】 既習科目の復習 ・実習開始までに以下の科目を復習する。 「臨床判断Ⅰ・Ⅱ」、「基礎看護援助論Ⅰ・Ⅱ、ヘルスアセスメント」 特に、臨床判断Ⅰ・Ⅱについては事例展開の方法を復習し、実習時の活用に備える。 ・既修得の「日常生活援助技術」を復習し、実習ガイダンスにて教員の確認を受ける。</p> <p>実習期間：2週間 ・令和6年8月21日（水）～9月13日（金）（この内、10日間） ・9：00～16：30（集合時間は実習病院により異なる） ・実習配置についてはAクラスBクラス混合で配置する。</p> <p>【事前学修】1～2週間前には、事前課題を済ませ、生活習慣を整えて準備する。</p> <p>実習病院 箕面市立病院、川西総合医療センター、第二協立病院、千里中央病院、医誠会国際総合病院等</p> <p>【事前学修】各病院、病棟の理念や経路を調べる。</p> <p>実習の進め方 1) 受持ち患者に対する看護援助を実践する。 2) 受持ち患者への援助は、看護過程の展開により進める。 ・実習1週目に、情報収集・アセスメント・看護診断・計画立案を行う。 ・実習2週目は、特定した看護診断、立案した計画について、指導、承認を得た後、計画に沿った援助を行い、評価を行う。</p> <p>臨床判断看護学実習 ガイダンス① ・実習目的と概要 ・学生の心構え ・個人情報保護について ・事前学習等について</p> <p>【事前学修】週間予定表で日程を確認し、必ず出席すること。</p> <p>臨床判断看護学実習 ガイダンス② ・実習要項の説明 ・記録の書き方 ・事前学習の確認 ・実習配置について</p> <p>【事前学修】週間予定表で日程を確認し、必ず出席すること。</p> <p>基礎看護学実習 初日ガイダンス ・実習要項の再確認 ・事前学習の確認 ・施設別オリエンテーション（集合時間や実習施設の注意事項について） ・カンファレンスの方法と演習 ・報告、連絡、相談について ・バイタルサイン測定技術の再確認</p> <p>【事前学修】週間予定表で日程を確認し、必ず出席すること。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	必修
担当教員			
寺田 准子、奈古 由美子、巽 夕起、石川 明美			
開講曜限	授業形態		
火2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	■看護学科■ ■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる ■3-2 問題解決のために思考し、得た知識を用いて臨床判断できる
---------	--

科目の概要・目的	地域包括ケアシステムの構築における、暮らしのなかで行われる対象者とその家族への看護について基本的な考え方や援助方法について学修する。また、事例を通して、単に疾病や障がいでなく、対象者とその家族の多様な「物語」があり、それに応じた看護があることを学修する。さらに訪問看護ステーションの管理者を招聘し、具体的な訪問看護活動の実際も学ぶ。
学習到達目標	①「暮らしの場」で行う看護を実践するために必要な基本的な考え方について述べることができる。 ②対象者とその家族が希望する暮らしを支えるさまざまな地域・在宅看護技術について説明することができる。 ③対象者やその家族の「物語」に合わせ、暮らしや思い、人生の経過を理解し、価値観に沿って看護を展開する活動であることを理解することができる。 ④訪問看護活動の実際について学ぶことができる。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特になし
成績評価の方法	定期試験（筆記）（70%）、提出課題（30%）
教科書・テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実際 地域・在宅看護論2〈医学書院. 2024〉 2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1〈医学書院. 2022〉
参考書	・ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア〈メディカ出版. 2024〉 ・ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術〈メディカ出版. 2024〉
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	【事前学修】は事前に指定された教科書等の範囲を熟読し、授業に臨んでください。授業後の【事後学修】については必ず復習を行ってください。事前・事後のレポートが課されているときは、課題について丁寧にレポートを作成してください。複数枚になるときは、必ず左上にホチキス留めをしてください。
履修上の留意事項	①課題の提出期限は厳守してください。 ②授業中の私語は慎み、スマートフォンや携帯電話、タブレット端末等の使用は原則禁止です。 ③【事前学修】および【事後学修】は必ず行うようにしてください。
オフィスアワー	火曜日、授業終了後 12:15-12:50 *そのほかの時間も可能な限り対応します。事前にメールや口頭等でお知らせください。
課題に対するフィードバックの方法	授業時間内でのフィードバック、メール、Aポータルにて返答します。 提出物は添削後、後日返却します。
実務経験	寺田：看護師、訪問看護師 奈古：看護師、訪問看護師 巽：看護師、訪問看護師、保健師 石川：看護師、介護支援専門員 特別講師：訪問看護ステーション管理者
その他	本授業は2年次配当科目である地域・在宅看護学概論で学んだことを基盤に、在宅看護学演習と関連させながら、学んでください。
授業の内容	第1回目 オリエンテーション、暮らしを支える看護技術 ・オリエンテーション（授業の進め方、授業内容、成績評価の説明） ・暮らしを支える看護技術1 暮らしの場で看護するための心構え、セルフケアを支える対話・コミュニケーション 【事前学修】1. シラバスを読んでおく。 2. 教科書pp50-56、pp57-61をよく読んでおく。 【事後学修】本授業の復習をする。 第2回目 地域・在宅看護における時期別の看護 【事前学修】1. 地域・在宅看護における時期別の看護：教科書pp228-245を読んでおく。 2. 暮らしを支える看護技術2：地域・在宅看護における安全をまもる看護：教科書pp70-83を熟読する。 【事後学修】本授業の復習をする。 第3回目 地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働 ・看護師が連携、協働において果たすべき役割 ・医療・福祉・介護関係者との連携・協働 ・医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働

	<p>【事前学修】教科書pp340-355 【事後学修】本授業の復習をする。</p> <p>第4回目 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の療養者の事例展開 1 【事前学修】1. Dさんの経過：教科書pp272-282を熟読する。 2. 慢性閉塞性肺疾患の病態生理および日常生活への影響について復習しておく。 【事後学修】本授業の復習をする。</p> <p>第5回目 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の療養者の事例展開 2 ・暮らしにおける呼吸・循環の援助 【事前学修】1. 呼吸・循環のアセスメント教科書pp174-183 2. 在宅酸素療法（HOT）教科書pp200-204 3. 非侵襲的陽圧換気（NPPV）、気管切開下陽圧換気（TPPV）教科書pp186-199を 読んでおく。 【事後学修】本授業の復習をする。</p> <p>第6回目 筋萎縮性側索硬化症（ALS）の療養者の事例展開 1 【事前学修】1. Eさんの経過：pp283-296をよく読む。 2. 筋萎縮性側索硬化症（ALS）の療養者の状況や経過について調べておく。 【事後学修】授業で指示された課題を行い、後日、提出する。</p> <p>第7回目 筋萎縮性側索硬化症（ALS）の療養者の事例展開 2 ・呼吸・循環における医療管理レベルの高い療養者の援助 【事前学修】在宅人工呼吸療法（HMV）：教科書pp200-204 【事後学修】本授業で指示します。</p> <p>第8回目 脳卒中療養者の事例展開 1 【事前学修】1. Cさんの経過：教科書pp266-271を熟読する。 2. 脳卒中および脳卒中後遺症について復習をしておく。 【事後学修】本授業の復習をする。</p> <p>第9回目 脳卒中療養者の事例展開 2 食生活・嚥下に関する地域・在宅看護 食生活・嚥下に関するアセスメント、胃瘻からの経管栄養法を受ける療養者の援助 【事前学修】教科書：pp105-119、pp120-130 【事後学修】本授業の復習をする。</p> <p>第10回目 認知症高齢者の事例展開 【事前学修】1. 認知症による生活への影響および看護の方向性について、理解しておく。 2. Hさんの経過：教科書pp318-329を熟読しておく。 3. 与薬に関する地域・在宅看護pp219-222 【事後学修】本授業の復習をする。</p> <p>第11回目 パーキンソン療養者の事例展開 療養環境の調整およびアセスメント、福祉用具の活用、与薬に関する地域・在宅看護技術 【事前学修】1. パーキンソン病およびレビー小体型認知症について復習しておく。 2. Fさんの経過：教科書：pp296-308を熟読しておく。 3. 教科書「療養環境調整に関する地域・在宅看護」pp86-93、 「福祉用具の活用」pp98-102を熟読する。 【事後学修】本講義の復習をする。</p> <p>第12回目 特別講座Ⅰ：訪問看護活動の実際 【テーマ】認知症および終末期の看護 対象者や家族の望みや願いの実現を支える地域・在宅看護とは 【事前学修】終末期の看護（グリーンケアを含む）：教科書pp245-248及びpp330-336を熟読 する。 【事後学修】レポート：本講義を受講し、学んだことについて所定の用紙に記載し、感じたこと や考察を加えレポートを作成する。 ※提出期限および提出場所は当日の講座終了時に指示します。</p> <p>第13回目 特別講座Ⅱ：訪問看護活動の実際 【テーマ】小児期の療養者に対する地域・在宅看護 小児・難病療養者の地域・在宅看護の実際 【事前学修】Bちゃんの経過：教科書pp252-265を熟読しておく。 【事後学修】レポート：本講義を受講し、学んだことについて所定の用紙に記載し、感じたこと や考察を加えレポートを作成する。 ※提出期限および提出場所は当日の講座終了時に指示します。</p> <p>第14回目 医療的ケア児の事例展開 【事前学修】1. 「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」について調べ、理解し ておく。 2. Bちゃんの経過：教科書pp252-265を特別講義の授業を踏まえ、再度読んでおく。 【事後学修】本授業の復習をする。</p> <p>第15回目 統合失調症療養者の事例展開、まとめ 地域生活の継続に向けた支援 【事前学修】1. Gさんの経過：教科書pp309-318を熟読する。 2. 統合失調症の症状が日常生活に及ぼす影響について復習しておく。 【事後学修】本授業の復習をする。</p> <p>定期試験</p>
--	---

講義科目名称： 地域・在宅看護学演習

授業コード： 53209800

英文科目名称： Community / Home Nursing Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	必修
担当教員			
奈古 由美子、寺田 准子、巽 夕起、石川 明美			
開講曜限	授業形態		
木1、2	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■3-3 適切な看護技術を実践できる</p> <p>■4-3 安全・安楽に看護を実践できる</p>
---------	--

科目の概要・目的	在宅看護の特徴を踏まえた在宅看護過程の考え方とその展開方法について学修する。実際の演習では、脳血管疾患の在宅療養者とその家族を対象とした紙上事例より、在宅看護過程を展開する。またそのプロセスにおいて、在宅看護の視点を学びつつ実際のICTを活用し情報整理や分析のあり方について学習する。そのうえで在宅療養者とその家族の生活上の思いや望みについて重要視した看護援助計画を立案するスキルを培う。さらにグループワークをととして、具体的かつ実践可能な看護援助の方法論について発表をおこない、在宅看護の実践に向けた自己の課題を見出す。
----------	---

学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問時のマナーについて、具体的に説明することができる。 2. 在宅療養者とその家族への看護援助に必要な情報収集をおこない体系的に情報を整理することができる。 3. 在宅療養者とその家族の健康課題や生活課題についてアセスメントを実施する重要性について理解することができる。 4. 在宅療養者とその家族の望みや希望、価値観に配慮のある看護援助計画を立案し、説明することができる。 5. 在宅看護の実践に向けた今後の自己課題を見出すことができる。
--------	---

授業の方法	<p>【授業形態】</p> <p>講義・演習（グループワーク）</p> <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>小人数制ディスカッション</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
-------	--

成績評価の方法	授業参加態度・グループワーク参加度（60%）、提出課題（40%）
---------	----------------------------------

教科書・テキスト	・系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 <医学書院>
----------	--

参考書	<p>・系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論1 <医学書院></p> <p>・ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア<メディカ出版></p> <p>・ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術<メディカ出版></p> <p>適宜紹介する。</p>
-----	---

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	【事前学修】【事後学修】を必ずおこない、毎回の授業に臨んでください。
---------------------------	------------------------------------

履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物は期限を厳守してください。 ・講義・演習に関係のない私語は慎んでください。 ・本科目は在宅看護学概論および在宅看護学援助論の関連科目であり、また在宅看護学実習の履修に直結する科目ですので、効果的に学修してください。
----------	---

オフィスアワー	【金】12:15-12:45：事前に必ずメール等、お知らせください。
---------	------------------------------------

課題に対するフィードバックの方法	質問は、講義・演習時間内、メール、Aポータルで返答する。 課題レポートは添削後、後日返却する。
------------------	--

実務経験	奈古：看護師、訪問看護師 寺田：看護師、訪問看護師 巽：保健師、訪問看護師 石川：看護師、介護支援専門員
------	---

その他	特記事項なし
-----	--------

授業の内容	<p>第1回 地域・在宅看護における看護過程の展開に向けて</p> <p>【ガイダンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Study I, Study II 準備（事例紹介、グルーピングなど） ・ICT（iBow）を活用する演習について ・訪問看護活動におけるマナー <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の第1章_A. 1, 2, 3について予習を行う。
-------	--

	<p>【事後学修】 ・演習内容の振り返りと復習</p>
第2回	<p>地域・在宅看護の展開方法 Study I_1</p> <p>【地域・在宅看護過程とその視点】 ・地域・在宅看護における看護過程とは ・地域・在宅看護過程の展開に求められる視点とは ・地域・在宅看護における他の記録様式について</p>
第3回	<p>【事前学修】 ・教科書の第1章_B. 1, 2について予習を行う。</p> <p>【事後学修】 ・演習内容の振り返りと復習</p> <p>地域・在宅看護の展開方法Study I_2</p> <p>【ICTを活用した情報収集の方法について】 ・電子カルテシステム（iBow）の活用方法について知る。 ・電子カルテシステム（iBow）を活用した情報収集について</p>
第4回	<p>【事前学修】 ・iBow（アイボウ）公式（訪問看護専用）電子カルテについて調べる。</p> <p>【事後学修】 ・演習内容の振り返りと復習</p> <p>地域・在宅看護の展開方法 Study II_1</p> <p>【地域・在宅看護過程における情報整理とアセスメント】 ・地域・在宅看護過程における情報整理とアセスメントの枠組みと考え方 ・不足情報について</p>
第5回	<p>【事前学修】 ・教科書の第1章_B. 1, 2について、再度予習を行う。</p> <p>【事後学修】 ・アセスメントシートの完成</p> <p>地域・在宅看護の展開方法 Study II_2</p> <p>【地域・在宅看護過程における関連図の作成、看護目標の設定・計画】 ・地域・在宅看護過程における関連図と看護目標の設定に対する枠組みと考え方</p>
第6回	<p>【事前学修】 ・教科書の第1章_B. 3, 4, 5, 6について予習を行う。</p> <p>【事後学修】 ・関連図の完成 ・看護目標の設定の完成</p> <p>地域・在宅看護の展開方法 Study II_3</p> <p>【地域・在宅看護過程における看護援助計画（長期目標、短期目標）の立案と評価】 ・地域・在宅看護援助計画の立案と評価について ・発表ガイダンス</p>
第7回	<p>【事前学修】 ・教科書の第1章_B. 3, 4, 5, 6について、再度予習を行う。</p> <p>【事後学修】 ・地域・在宅看護援助計画の立案の完成</p> <p>地域・在宅看護の展開方法 Study II_4</p> <p>【発表準備】 ・各グループで発表準備をおこなう。</p>
第8回	<p>【事前学修】 ・発表内容（在宅看護援助計画内容）を検討する。</p> <p>【事後学修】 ・発表準備を継続する。</p> <p>地域・在宅看護の展開方法 Study II_5</p> <p>【演題：地域・在宅看護における看護援助の方法論】 ・発表と評価</p> <p>【事前学修】 ・各グループで資料作成、口述発表の練習</p> <p>【事後学修】 ・演習内容の振り返り、自己課題を見出す。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	必修
担当教員			
小島 賢子、新增 有加			
開講曜限	授業形態		
水1	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる</p> <p>■5-1 看護職者の役割が理解できる</p>
---------	--

科目の概要・目的	人の誕生から死までの一連の過程における概念や理論、対象を取巻く社会の変遷と現状を理解し、各期の特徴と健康問題やニーズを分析すると共に必要な知識・能力を養う。ライフサイクル論 I は、母性と小児期の看護の役割とそれを支える関連法規を通して広く理解する。
----------	---

学習到達目標	<p>1) 母性の特性及び母性看護の対象を把握し、対象者の形態・機能の特性とその変化を理解し、母性看護の概念、機能と役割、母性看護の変遷と現状を説明できる。</p> <p>2) 女性のライフサイクル各期における健康問題やニーズを把握し、リプロダクティブヘルスに関する主要な健康問題と看護及び母性看護に関する現状と社会資源との関係を説明できる。</p> <p>3) 小児看護の対象、目的・目標、役割、子どもの人権について理解し、小児看護に必要な理論を知る。</p> <p>4) 小児各期の成長発達の特性、発達課題を理解する。</p> <p>5) 小児各期におけるセルフケアの自立に応じた日常生活への支援について理解する。</p>
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取入れ状況】 なし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 なし</p> <p>【その他特記事項】 講義に加え講義内容によってはDVD視聴によって理解を深める。</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験（筆記）、課題レポート、授業への取り組みから総合的に判断する。</p> <p>【割合】 定期試験（筆記）（80%）、課題レポート（20%：小児・母性それぞれ10%ずつ）</p> <p>【その他特記事項】 母性・小児の講義がそれぞれ終了した時点で試験を行う。</p>
---------	--

教科書・テキスト	系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学概論 母性看護学1 第14版（医学書院） ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護第6版（MCメディカ出版）
----------	--

参考書	<ul style="list-style-type: none"> 岡村州博編集 これならわかる産科学 学生から研修医までをトータルサポート 南山堂、2010. 国民衛生の動向 2022/2023年（厚生労働統計協会）、日本人の食事摂取基準「2020年版」 安斎正郷 国民健康・栄養の現状、令和元年 厚生労働省国民健康・栄養調査報告より、第一出版 財団法人母子衛生研究会、母子保健の主なる統計（令和4年度）、公益財団法人母子衛生研究会 <p>授業時に適宜紹介する。</p>
-----	---

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	授業の予習・復習を行う。
---------------------------	--------------

履修上の留意事項	担当教員の指示に従って授業に臨む
----------	------------------

オフィスアワー	事前にメールにて日時の確認を行う。
---------	-------------------

課題に対するフィードバックの方法	講義の中でフィードバックする。
------------------	-----------------

実務経験	助産師 看護師
------	------------

その他	特になし
-----	------

授業の内容	<p>第1回 母性看護学概論の概要と課題説明(BBT測定方法) 母性看護の基盤となる概念 ①母性の概念・定義、母性の特性 ②母子関係と家族発達 【事前学修】講義担当部分を事前に読む。日常生活の中で母子に関心を持つ（通学道中等を利用して） 【事後学修】テキストで講義部分を読み復習する。決められた定義、法律等の内容を繰り返し復習する。基礎体温がほぼ同じ時間に正確に測れているか確かめる。不明な部分は次回確認する。</p> <p>第2回 母性看護の基盤となる概念 ①セクシュアリティ</p>
-------	---

	<p>②ヘルスプロモーション</p> <p>③母性看護のあり方</p> <p>④母性看護における倫理</p> <p>【事前学修】講義担当部分を事前に読み、前回の講義で不明な部分を明確にし、質問する。</p> <p>【事後学修】テキストで講義部分を読み復習する。基礎体温がほぼ同じ時間に正確に測れているか確かめる。不明な部分は次回確認する。</p>
第3回	<p>母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状</p> <p>①母性看護の歴史の変遷と現状(母性看護の変遷、母子保健統計の動向、母性看護に関する法律・施策等)</p> <p>【事前学修】講義担当部分を事前に読み、今までの講義で不明な部分がないか確かめる。</p> <p>【事後学修】テキストで母子保健統計の動向、講義内容を読み復習する。不明な部分は次回確認する。</p>
第4回	<p>母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状</p> <p>①母性看護の提供システム</p> <p>②母性看護の対象理解</p> <p>【事前学修】講義担当部分を事前に読み、今までの講義で不明な部分がないか確かめる。</p> <p>【事後学修】講義内容を読み復習し、自分が生まれた時と現在の現状を比較し、どのように変化したか学習する。</p>
第5回	<p>母性看護の対象理解、女性のライフステージ各期における看護</p> <p>①女性のライフサイクルと家族</p> <p>②思春期の健康と看護</p> <p>【事前学修】講義担当部分を事前に読み、今までの講義で不明な部分がないか確かめる。</p> <p>【事後学修】講義内容を読み復習し、自分はどのようなライフサイクルを過ごそうと考えているか。現在の考えをまとめてみる。</p>
第6回	<p>女性のライフステージ各期における看護</p> <p>①思春期の健康と看護</p> <p>②性成熟期の健康と看護</p> <p>【事前学修】講義部分を事前に読み、今までの講義で不明な部分がないか確かめる。</p> <p>【事後学修】講義内容を読み復習し、自分の思春期時代を振り返り、健康と看護について考える。性成熟期の健康と看護に関して、家族を対象に考え、評価してみる(家族から情報収集する)。</p>
第7回	<p>女性のライフステージ各期における看護</p> <p>①更年期の健康と看護</p> <p>【事前学修】テキストの講義担当部分を事前に読み、現在の母親(又は親類の方でもよい)の健康状態と比較してみる。</p> <p>【事後学修】講義内容を読み復習し、自分の周りの人で更年期症状を訴えている人がいないか、そのような場合はどのように過ごしているか考える。</p>
第8回	<p>小児看護とは何か</p> <p>①小児看護の対象、目的・目標、役割</p> <p>【事前学修】小児看護の対象である子どもとは何か、家族の役割などを教科書の概要を読む。</p> <p>【事後学修】小児看護が果たす役割について明確にし、整理する。</p>
第9回	<p>子ども観の変遷と子どもの権利</p> <p>①子どもとは(子ども観の変遷)</p> <p>②子どもの権利</p> <p>【事前学修】子どものイメージを自分なりの表現をして講義に臨む。</p> <p>【事後学修】子どもの権利について広い視野で調べる。</p>
第10回	<p>小児看護で用いられる理論、発達の原則</p> <p>①小児看護で用いられる理論</p> <p>②発達の原則</p> <p>【事前学修】教科書のピアジェ及びエリクソンの発達理論について該当するページを読み臨む。</p> <p>【事後学修】発達の原則について覚える。</p>
第11回	<p>新生児期・乳児期の成長と発達</p> <p>①新生児期・乳児期の反射・運動の発達・発語・感覚</p> <p>【事前学修】新生児期・乳児期の反射と運動の発達についてまとめる。</p> <p>【事後学修】反射と運動についてまとめておき、不明な部分は次回に質問する。</p>
第12回	<p>幼児期の成長と発達</p> <p>①幼児期の身体的・機能的・認知・言語・遊び</p> <p>【事前学修】幼児期の子どもの遊びについて事前に調べる。</p> <p>【事後学修】幼児期の前期・後期の特徴を確かめる。</p>
第13回	<p>学童期の成長と発達</p> <p>①学童期の身体的・機能的・日常生活習慣</p> <p>【事前学修】学童期の特徴を教科書を読み理解して臨む。</p> <p>【事後学修】学童期の社会生活である学校における問題点を考える(教科書を参考)。</p>
第14回	<p>思春期の成長と発達</p> <p>①思春期の身体的・心理的・社会的特徴</p> <p>【事前学修】思春期の身体的特徴について復習して臨む。</p> <p>【事後学修】思春期のこころの発達についてまとめる。</p>
第15回	<p>子どものセルフケアの自立に応じた日常生活への支援</p> <p>①それぞれの発達段階におけるセルフケアの自立に応じた日常生活への支援</p> <p>【事前学修】子どもの発達に応じた生活と安全について調べる。</p> <p>【事後学修】子どものセルフケアに関連した支援についてまとめる。</p>
	定期試験

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	必修
担当教員			
相澤 里香、南部 登志江			
開講曜限	授業形態		
水2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる</p> <p>■5-1 看護職者の役割が理解できる</p>
---------	--

科目の概要・目的	人の成長および発達について、成人期、老年期といったライフサイクルにおいて各期の特徴と各期における生活のあり方、それぞれの健康課題の特徴を学び、看護の対象となる人々を理解する。そのために必要な成長および発達に関する理論等を学び、学術的な学修とする。(成人、老年)
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人・老年各期の身体的、心理社会的特徴と発達課題について述べるができる。 2. 成人・老年期にある人を看護するために必要な基本的な看護技術について述べるができる。 3. 成人・高齢者の健康レベルに応じた看護について述べるができる。 4. 成人・高齢者に対して具体的な行為や行動としての看護を提供するための看護技術について述べるができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特記事項なし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特記事項なし</p> <p>【その他特記事項】 特記事項なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験（筆記）、レポート</p> <p>【割合】 定期試験（筆記）70%、レポート30%。</p>
教科書・テキスト	奥野茂代・太西和子監修 百瀬由美子編集：老年看護学【第6版】概論と看護の実践 ヌーベルヒロカワ2023年 山田律子・内ガ島伸也編集：老年看護過程第4版 医学書院 小松浩子他 成人看護学総論、第15版、医学書院
参考書	適宜紹介する。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	復習に力を入れて学修を進めること。
履修上の留意事項	積極的に学修に参加すること。
オフィスアワー	毎週月曜日16時半から17時。
課題に対するフィードバックの方法	コメント、助言等で行う。
実務経験	看護師
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 成人期の特徴 成人期の特徴について概説する。</p> <p>【事前学習】 電子テキストの該当部分を読んでくる。 【事後学習】 電子テキストの該当部分を読む。</p> <p>第2回 成人期の生活 成人期の生活について概説する。</p> <p>【事前学習】 電子テキストの該当部分を読んでくる。 【事後学習】 電子テキストの該当部分を読む。</p> <p>第3回 成人期の健康課題 成人期の健康課題について概説する。</p> <p>【事前学習】 電子テキストの該当部分を読んでくる。 【事後学習】 電子テキストの該当部分を読む。</p>

第4回	成人の健康レベルに対応した看護 1 成人の健康レベルに応じた看護について概説する。
第5回	【事前学習】電子テキストの該当部分を読んでくる。 【事後学習】電子テキストの該当部分を読む。 成人の健康レベルに対応した看護 2 第4回の続き。
第6回	【事前学習】電子テキストの該当部分を読んでくる。 【事後学習】電子テキストの該当部分を読む。 成人の健康生活を促すための看護技術 1 成人の健康生活を促すための看護技術について概説する。
第7回	【事前学習】電子テキストの該当部分を読んでくる。 【事後学習】電子テキストの該当部分を読む。 成人の健康生活を促すための看護技術 2 第6回の続き。
第8回	【事前学習】電子テキストの該当部分を読んでくる。 【事後学習】電子テキストの該当部分を読む。 老年期を生きる人々を多角的にとらえる 老いるということはどういうことか
第9回	老年期の発達課題と活用する理論 【事前学修】発達理論、ストレングス、ニード論についてテキストを読んでおく 【事後学修】配布した資料を確認する 加齢変化に伴う身体的変化の特徴 加齢変化に伴う身体的変化の特徴
第10回	【事前学修】身体的・生理的側面についてテキストを読んでおく 【事後学修】配布資料を確認する 加齢変化に伴う心理的・社会的変化の特徴 加齢変化に伴う心理的・社会的変化
第11回	【事前学修】心理的変化・社会的変化についてテキストを読んでおく 【事後学修】配付した資料を確認する 超高齢社会と社会保障 統計的輪郭（高齢者に関する統計）
第12回	【事前学修】高齢社会の統計的傾向についてテキストを読んでおく 【事後学修】配付資料を確認する 超高齢社会と社会保障 高齢社会における保健医療福祉の動向（保健医療福祉に関する制度・法律）
第13回	【事前学修】高齢者ケア施設と看護の役割についてテキストを読んでおく 【事後学修】配付資料を確認する 超高齢社会と社会保障 介護保険制度
第14回	【事前学修】介護保険制度についてテキストを読んでおく 【事後学修】配付資料を確認する 老年看護の倫理的問題と高齢社会における権利擁護 高齢者の権利擁護、高齢者虐待、成年後見制度
第15回	【事前学修】高齢者の権利擁護、高齢者虐待、成年後見制度などの法律についてテキストを読んでおく 【事後学修】配付資料を確認する まとめ まとめ 定期試験

講義科目名称： がん看護

授業コード： 53210400

英文科目名称： Cancer Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	必修
担当教員			
藤原 尚子、小島 賢子			
開講曜限	授業形態		
月3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	■看護学科■ ■2-1 対象者のQOLについて考えることができる ■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる
---------	---

科目の概要・目的	対象ががんを患う意味と、生命・生活への影響を理解し、それぞれのがんの特徴、治療、身体面、心理・社会面に対する基本的な看護について学修する。がんは小児期から老年期において発症することから、対象者に応じた看護を学習する。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん対策推進基本計画やがん対策基本法の目標などをもとに、わが国におけるがん患者を取り巻く状況について理解する。 2. がんの病態およびがん患者の身体的、心理・社会的特徴を理解できる。 3. がん治療である手術療法・薬物療法・放射線療法・免疫療法について理解できる。 4. がん患者の苦痛に対するマネジメントや心理的サポートの重要性について理解できる。 5. がん化学療法を受ける患者の不安や副作用へのサポートについて理解できる。 6. がん患者の症状マネジメントや緩和ケアにおける看護師の役割について理解できる。（講義・演習）
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 講義・グループワーク（演習）・小テスト 事前課題に取り組み、グループ・ディスカッションやグループ・ワークなどにより、主体的に学ぶことに興味や関心を持ち、学修者同士の対話により自分の考えを広げて深める対話的な学びが可能となり、さまざまな別の知識と関連づけることで、創造的に学びを深めていくことができる。 【ICTを利用した双方向授業】 特になし 【その他特記事項】 特になし
成績評価の方法	【評価項目】 小テスト、演習レポート、定期試験（筆記） 【割合】 小テスト20%、演習レポート20%、定期試験（筆記）60%
教科書・テキスト	看護学テキストNiCE がん看護 様々な発達段階・治療課程にあるがん患者を支える
参考書	適宜紹介する。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	次回の授業箇所を予習し、授業後は振り返りを行う。 授業時間外に必要な学習時間は、事前学習1限あたり30～60分・事後学習1限あたり30～60分とする。 提示された演習レポートは、提出期限を厳守し提出する。
履修上の留意事項	教科書を熟読してから授業に臨むこと。積極的に授業に参加することを求める。 ※授業の状況により授業計画が変更となる場合がある。
オフィスアワー	月曜日～木曜日 12：00～13：00
課題に対するフィードバックの方法	授業ごとに振り返りを行い、フィードバックする。
実務経験	看護師
その他	看護の必要性と根拠および実践力を習得できるように授業を行う。 ※卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連（卒業時点において学生が身につけるべき能力）についての詳細は履修要覧を参照の上、確認してください。
授業の内容	第1回 わが国におけるがんを取り巻く状況 ん看護、がん患者が抱える苦痛、がんの臨床経過と治療、がん看護における看護師の役割を知る。がんおよびがん医療を理解するために、がんの疫学と対策について理解できる。 【事前学修】 授業範囲について教科書に目を通しておく。 【事後学修】 授業での学習内容を復習しノートに整理しておく。
	第2回 がんの病態と臨床経過 がんの病態と修学治療におけるがんの経過、がん医療における専門職の連携と倫理的課題について理解できる。 【事前学修】 授業範囲について教科書に目を通しておく。 【事後学修】 授業での学習内容を復習しノートに整理しておく。

<p>第3回</p> <p>第4回</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p> <p>定期試験</p>	<p>がん患者の看護 がんの臨床経過におけるがん患者の特徴と援助、発達段階におけるがん患者の特徴と援助のポイント、がんサバイバーシップとソーシャルサポート、がん患者の家族の特徴と支援について理解できる。</p> <p>【事前学修】課題事例に対するがん看護についてレポートしてくる。 【事後学修】事前学修の課題事例に対するがん看護のレポートに、授業後の学びを追加して次回の授業前に提出する。</p> <p>がんの治療（手術療法、薬物療法、放射線療法、免疫療法など） がん患者に対する治療として、手術療法、薬物療法、放射線療法、免疫療法、造血幹細胞移植について理解できる。</p> <p>【事前学修】授業範囲について教科書に目を通しておく。 【事後学修】授業での学習内容を復習しノートに整理しておく。</p> <p>がん治療における看護の重要性 がん治療として手術療法、薬物療法、放射線療法、免疫療法、造血幹細胞移植を受ける患者の看護について理解できる。</p> <p>【事前学修】授業範囲について教科書に目を通しておく。 【事後学修】授業での学習内容を復習しノートに整理しておく。</p> <p>がん治療の場と看護 外来における看護、在宅における看護、緩和ケア病棟/ホスピス病棟における看護、がん患者の療養の場の移行支援について理解できる。事例を通してがん看護を考える。</p> <p>【事前学修】課題事例に対するがん看護についてレポートしてくる。 【事後学修】事前学修の課題事例に対するがん看護のレポートに、授業後の学びを追加して次回の授業前に提出する。</p> <p>化学療法を受ける患者の看護 化学療法前の援助、化学療法中の援助、抗がん剤暴露の対策、化学療法終了後について理解する。</p> <p>【事前学修】課題事例に対するがん看護についてレポートしてくる。 【事後学修】事前学修の課題事例に対するがん看護のレポートに、授業後の学びを追加して次回の授業前に提出する。</p> <p>がん患者の症状マネジメントと緩和ケア 緩和ケアの定義、症状マネジメントの概要、各症状のマネジメントについて講義・演習を通して理解できる。</p> <p>【事前学修】授業範囲について教科書に目を通しておく。 【事後学修】第8回の講義・演習を通して、緩和ケア・症状マネジメントについて学びのレポートを指定期日に提出する。</p> <p>※授業の状況により授業計画が変更となる場合があります。</p>
---	---

講義科目名称： 家族看護

授業コード： 53210500

英文科目名称： Family Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	必修
担当教員			
新增 有加、小島 賢子、南部 登志江、相澤 里香、藤原 尚子、奈古 由美子、高橋 建司			
開講曜限	授業形態		
火1	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■2-1 対象者のQOLについて考えることができる</p> <p>■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる</p>
---------	---

科目の概要・目的	現代社会における家族の動向について理解するとともに、家族看護に関する定義や家族を理解するための理論について学修する。個人および家族の抱える健康問題についてアセスメントし、家族が主体的に健康問題を解決するための支援方法について学修する。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における家族の動向について理解できる。 2. 家族看護に関する定義や、家族をアセスメントするために必要な理論を理解できる。 3. 様々な事例を通して、患者個人および家族の抱える健康問題についてアセスメントし、家族が主体的に健康問題を解決するための支援方法を提案できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>第2～8回の授業では、家族看護の事例を提示し、支援方法についてグループで意見を出し合い、学生相互で協働しながら問題解決に取り組む授業形態（反転授業）を取り入れる。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>各授業で提出されたレポート・授業参加態度</p> <p>【割合】</p> <p>各授業で提出されたレポート・授業参加態度（100%）</p>
教科書・テキスト	系統看護学講座 別巻 家族看護学（医学書院）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・家族看護学 理論と実践 第5版（日本看護協会出版会） ・家族看護学 家族のエンパワーメントを支えるケア（メディカ出版） ・家族看護学 臨床場面と事例から考える 改訂第3版（南江堂） ・新しい家族看護学 理論・実践・研究（メディカルフレンド社） ・生涯人間発達論 第3版（医学書院） <p>授業時に適宜紹介する</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	事前に事例提示などがあった場合は、必ず視聴もしくは熟読して授業に臨むこと
履修上の留意事項	グループディスカッションの際は、グループメンバーが協働しやすいように自分の役割を遂行し、積極的に意見交換を行うこと
オフィスアワー	事前にメールで日時の確認を行うこと
課題に対するフィードバックの方法	授業中にフィードバックを行う
実務経験	看護師・助産師
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 家族看護とは（定義や理論）／現代社会の家族の動向 【事前学修】教科書の第1章と第2章（p. 2～83）を読む 【事後学修】教科書の第3章と第4章（p. 86～186）を読み、授業内容について復習する</p> <p>第2回 周産期の家族看護 【事前学修】周産期の家族看護の特徴について予習を行う 【事後学修】教科書の該当部分を読み、授業内容を復習する。</p> <p>第3回 小児患者の家族看護 1) 小児にとっての家族とは 変化する家族および親子関係 愛着とは 【事前学修】小児患者の家族看護の特徴について予習を行う 【事後学修】教科書の該当部分を読み、授業内容を復習する。</p> <p>第4回 精神疾患患者の家族看護 【事前学修】精神疾患患者の家族看護の特徴について予習を行う 【事後学修】教科書の該当部分を読み、授業内容を復習する。</p> <p>第5回 慢性期患者の家族看護</p>

第6回	<p>【事前学修】慢性期患者の家族看護の特徴について予習を行う 【事後学修】教科書の該当する部分を読み、授業内容を復習する。 健康障害を持つ高齢者の家族看護</p>
第7回	<p>【事前学修】健康障害を持つ高齢者の家族看護の特徴について予習を行う 【事後学修】教科書の該当する部分を読み、授業内容を復習する。 在宅療養者の家族看護</p>
第8回	<p>【事前学修】在宅療養者の家族看護の特徴について予習を行う 【事後学修】教科書の該当する部分を読み、授業内容を復習する。 急性期患者の家族看護</p>
	<p>【事前学修】急性期患者の家族看護の特徴について予習を行う 【事後学修】教科書の該当する部分を読み、授業内容を復習する。</p>

講義科目名称： 公衆衛生看護活動展開論Ⅱ（地域保健）

授業コード： 53210900

英文科目名称： Case Study in Public Health & Nursing Programs II
(Community Health)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
中村 晶子、巽 夕起、中島 千英子			
開講曜限	授業形態		
金5	講義		
添付ファイル			

DPとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■1-2 人間を身体的・精神的・社会的に統合した存在であると理解できる</p> <p>■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる</p>
--------	---

科目の概要・目的	公衆衛生看護活動展開論Ⅰの学修を基盤として、各保健活動における健康課題への支援過程やサポートシステムの構築について学習する。また公衆衛生看護活動における保健師の役割やその活動についての学びを深める。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) ライフステージ・健康課題別の健康課題を検討できる 2) 対象に応じた保健指導技術を用いた支援を検討できる 3) 保健医療福祉施策を活用した健康課題の支援を検討できる 4) 既存の内容から対象に応じたサポートシステムを検討できる
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>ディスカッション・グループワーク：課題についての意見を共有し、自分の学びを深める</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>教員の指示のもと、各自のタブレットやノートパソコンを用いて、課題を検討し提出する。</p> <p>【その他の特記事項】</p> <p>特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>定期試験（筆記）・提出物</p> <p>【割合】</p> <p>定期試験（筆記）60％・提出物40％</p>
教科書・テキスト	・標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動第4版 医学書院
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・国民衛生の動向 2023/2024 厚生労働統計協会 ・標準保健師講座2 公衆衛生看護技術第4版 医学書院 ・看護師のための地域看護学 豊島泰子編著 PILAR
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	授業計画の【事前・事後】の内容は必ず学修して参加してください。
履修上の留意事項	既習の知識を活用して、実習にいかせるよう課題に積極的に取り組みましょう。ディスカッションやグループワークには主体的に参加し、メンバーと協同して学びを深めましょう。
オフィスアワー	<p>中村 晶子 月12：30～13：00</p> <p>巽 夕起 月15：00～16：00</p> <p>中島 千英子 メールにて日程調整してください</p>
課題に対するフィードバックの方法	その都度、講義時に返却する
実務経験	<p>中村 晶子 保健師</p> <p>巽 夕起 保健師</p> <p>中島 千英子 保健師</p>
その他	特になし
授業の内容	<p>1回目 母子保健活動①</p> <p>・乳幼児健診</p> <p>【事前学修】乳幼児健診について説明できるよう準備する</p> <p>【事後学修】事例の援助計画を作成し提出する</p> <p>2回目 母子保健活動②</p> <p>・家庭訪問</p> <p>【事前学修】家庭訪問について説明できるよう準備する</p> <p>【事後学修】演習の評価をまとめ提出する</p> <p>3回目 母子保健活動③</p> <p>・特定のリスクをもつ母子と支援</p>

4回目	<p>【事前学修】 特定リスクをもつ母子への支援について説明できるよう準備する 【事後学修】 事例の援助計画を作成し、提出する</p> <p>母子保健活動④ ・地域のサポートシステム・社会資源</p>
5回目	<p>【事前学修】 地域のサポートシステム及び社会資源について説明できるよう準備する 【事後学修】 地域のサポートシステム及び社会資源について検討する</p> <p>成人期の保健活動 ・生活習慣病予防 ・特定保健指導</p>
6回目	<p>【事前学修】 生活習慣病、特定健康診査・特定保健指導について説明できるよう準備する 【事後学修】 特定保健指導の内容を検討し提出する</p> <p>高齢期の保健活動① ・介護予防のねらい</p>
7回目	<p>【事前学修】 介護予防・日常生活支援総合事業について説明できるよう準備する 【事後学修】 介護予防のねらい・目的について検討</p> <p>高齢期の保健活動② ・高齢者の健康課題への支援（介護予防教室）</p>
8回目	<p>【事前学修】 介護予防教室の展開について説明できるように準備する 【事後課題】 介護予防教室の企画を検討し提出する</p> <p>高齢期の保健活動③ ・認知症高齢者とその家族への支援</p>
9回目	<p>【事前学修】 認知症高齢者に対する保健施策・サポートについて説明できるよう準備する 【事後学修】 認知症高齢者とその家族への支援策を検討し提出する</p> <p>難病患者への保健活動 ・難病患者とその家族への支援</p>
10回目	<p>【事前学修】 難病保健施策について説明できるよう準備する 【事後学修】 難病患者とその家族の支援を検討し提出する</p> <p>難病患者への保健活動② ・地域ケアシステムの検討</p>
11回目	<p>【事前学修】 難病保健における保健師の役割について説明できるよう準備する 【事後学修】 地域ケアシステムについて検討し提出する</p> <p>精神障害者への保健活動 ・精神障害者とその家族への支援</p>
12回目	<p>【事前学修】 精神保健福祉施策について説明できるよう準備する 【事後学修】 精神障害者とその家族への支援内容を検討し提出する</p> <p>障害者（児）への保健活動 ・地域での支援体制</p>
13回目	<p>【事前学修】 障害者の保健医療福祉施策について説明できるよう準備する 【事後学修】 グループ（当事者組織）の育成について検討し提出する</p> <p>感染症保健活動① ・感染症発生時の対応</p>
14回目	<p>【事前学修】 感染症発生時の対策について説明できるよう準備する 【事後学修】 感染症発生時の支援内容検討し提出する</p> <p>感染症保健活動② ・結核管理①患者支援（入退院支援）</p>
15回目	<p>【事前学修】 結核対策について説明できるように準備する 【事後学修】 結核患者の入退院支援内容を検討し提出する</p> <p>感染症保健活動③ ・結核管理②DOTS</p>
定期試験	<p>【事前学修】 DOTS・地域生活への支援について説明できるよう準備する 【事後学修】 退院後の服薬支援を検討し提出する</p>

講義科目名称： 解剖生理学 I (N) (再履修)

授業コード：

英文科目名称： Anatomical Physiology I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	必修
担当教員			
泉谷 泰行			
開講曜限	授業形態		
金4、5	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■1-2 人間を身体的・精神的・社会的に統合した存在であると理解できる</p> <p>■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>昨今、医学の進歩により医療現場は高度化し、また高齢社会など社会環境の変化に伴い患者の病態は複雑化している。このような状況の中で看護師は、チーム医療の主力として患者に対して常に直接接し、医師と共に医療現場の両輪となって診断および治療(cure)やcareを行わなければならない。患者に対して質の高い医療を提供するためには、疾患に関する正確な知識をもとに、目の前の患者の病態を正しく理解することが必要不可欠である。そこでまず、医学・医療を志す学生が最初に学ぶ学問が解剖学と生理学である。解剖学は「人体の構造」ともいい、主に健康な身体の形態について学び、生理学で「人体の機能」ともいい、主に健康な身体の機能について学ぶ。解剖生理学 I では、人体の構成の基本単位である「細胞」について学び、骨格系、循環器系、呼吸器系、消化器系について講義する。</p>
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の基本的な構造について理解できる。 ・人体の基本的な機能について理解できる。 ・人体が一つの統合された存在であることを理解し説明できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特になし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 講義の復習として動画を配信する。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 小テスト、定期試験（筆記）</p> <p>【割合】 小テスト（30%）、定期試験（筆記）（70%）</p>
教科書・テキスト	系統看護学講座 人体の構造と機能[1]解剖生理学（第10版）、坂井建雄・岡田隆夫、医学書院
参考書	<p>①Qシリーズ 新解剖学（第7版）、加藤征、日本医事新報社</p> <p>②Qシリーズ 新生理学（第7版）、竹内昭博、日本医事新報社</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	各自、手書きの講義ノートを作成すること（※ワープロは不可）。講義ノートは定期的に提出し、成績に加点する。
履修上の留意事項	<p>①勉学にいそむ学生の邪魔をする行為（過度な私語など）は禁止する。</p> <p>②講義中の携帯電話・スマートフォンの使用は禁止する。</p> <p>上記①・②の項目は必ず守って下さい。また、解剖生理学 I の講義では医学の専門用語の単なる丸暗記ではなく、まずは内容を理解し身体をイメージすることを念頭に置いて下さい。</p>
オフィスアワー	非常勤講師室にて授業終了後に対応します。
課題に対するフィードバックの方法	定期的に行う小テストに関しては、次回の講義にて返却する。
実務経験	鍼灸師
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等）、解剖生理学総論 シラバスを事前に読んでおくこと。 【事前学修】①シラバスを事前に読んでおくこと。②解剖生理学 I では、各自講義ノートを作成するため、ノートおよびルーズリーフを準備しておくこと。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p> <p>第2回 細胞の構造と機能①；内部環境、細胞膜について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを完成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p> <p>第3回 細胞の構造と機能②；細胞小器官、核について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを完成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p> <p>第4回 細胞の構造と機能③；DNAの複製、セントラルドグマ、物質の移動について解説する。</p>

	<p>教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第5回	<p>骨格系の構造と機能①；骨の概要について解説する。 第1回～4回の講義内容について小テストを行う。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第6回	<p>骨格系の構造と機能②；頭蓋骨、体幹の骨について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第7回	<p>骨格系の構造と機能③；上肢の骨について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第8回	<p>骨格系の構造と機能④；下肢の骨、骨盤について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第9回	<p>循環器系の構造と機能①；心臓の構造について解説する。 第6回～第8回の講義内容について小テストを行う。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第10回	<p>循環器系の構造と機能②；心筋の基本的性質について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第11回	<p>循環器系の構造と機能③；心周期、心音、心電図について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第12回	<p>循環器系の構造と機能④；動脈の走行および名称について解説する。 第9回～第11回の講義内容について小テストを行う。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第13回	<p>循環器系の構造と機能⑤；動脈、静脈の走行および名称について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第14回	<p>循環器系の構造と機能⑥；静脈、リンパ管の走行および名称について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第15回	<p>血液の組成と働き①；赤血球について解説する。 第12回～第14回の講義内容について小テストを行う。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第16回	<p>血液の組成と働き②；白血球、血小板について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第17回	<p>血液の組成と働き③；血漿、止血作用、線維素溶解について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第18回	<p>血液の組成と働き④；血液型について解説し、血液について復習する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>

第19回	<p>呼吸器系の構造と機能①；鼻腔、喉頭について解説する。 第15回～第18回の講義内容について小テストを行う。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第20回	<p>呼吸器系の構造と機能②；気管、気管支、肺について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第21回	<p>呼吸器系の構造と機能③；呼吸のメカニズムおよび反射について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第22回	<p>呼吸器系の構造と機能④；ガス交換、ガス運搬、酸塩基平衡について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第23回	<p>消化器系の構造と機能①；消化・吸収の概要について解説する。 第19回～第22回の講義内容について小テストを行う。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第24回	<p>消化器系の構造と機能②；口腔、咽頭について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第25回	<p>消化器系の構造と機能③；食道、胃について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第26回	<p>消化器系の構造と機能④；小腸について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第27回	<p>消化器系の構造と機能⑤；肝臓について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第28回	<p>消化器系の構造と機能⑥；胆嚢、膵臓について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第29回	<p>消化器系の構造と機能⑦；大腸について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
第30回	<p>まとめ 第23回～第29回の講義内容について小テストを行う。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>
<p>定期試験（第1回～第30回までの内容）</p>	